て失望してはならない、落膽してはならない。とは言ふものの一度び失敗するといふと、必ず其處に失望落膽といふ者が來る。一時は全く何等の光明希望をも見出す事が出來ないといふ事が來るものである、其の時に於て神經は先づ衰弱して、人は厭世的所謂不可解といふ樣な思想に陷いり易いものである。左樣な弱い事ではならぬ、前途瞑朦といふことは一時のものである。一睡の後は又直に幾多の光明地を認むるものである。全く前途暗黑といふ事は一時の自分の精神上の思索考慮の働きが衰へたといふ迄の事である。其の衰へるといふ事は一に事業の失敗のみでは無い、其の失敗に依つて苦慮するが爲め若くは暴飲以て其の苦を忘れんと計るが爲め、心理學上で言ふ心身の關係によつて必ず身體上の不和を來すものである。例へば胃弱に陷り食物不消化を來すはかゝる場合に多いのである。既に一旦自分は前途暗黑である、如何に思索しても考慮しても分らぬ、活路なしといふに當つては自ら病的原因を考へ出すことが出來ないものである。それが出來れば固より自己はそこに活路を求め得ら

失敗と神經衰弱

れるものであるが、多くは思索考慮の精神が全く働きを失ふのであるから、活路を見出すといふ事が出來やう筈がないのは誠に遺憾な事である。そこで最も困難なる境遇に陷いり殆ど五里霧中に立つて、何れに向つても進むべき道がないといふ樣な時には、先づ自己の身體を靜養せなければならぬ、自己の胃が惡るいと思ふたならば先づ其の胃を治療するが宜しい、さうすれば心神關係の理法上身體からも精神に及ぼすものであつて、自己の身體の運動を良くし、自己の腸胃を良くして居れば自ら精神もそれに連れて壯快に赴くと同時に、人の思索考慮の精神も亦そこに新なる働きを始め、立派な光明明地が現はれて來るのである。それ故に世に立ち事を成さんとするものは先づ常に自分の身體の健康に意を拂はねばならぬのである。健康なる身體ありて後に健全なる精神作用が起つてくるのであるから、健康といふものを先づ顧みなければならない。

尙又此の善事の失敗には同情者が多いのである。惡事其の者は固より失

神經衰弱の自療法

失敗者に對する同情

敗する者であつて、決して之れに向つて同情者の有る可き筈は無い、併し其の目的が善い事であつて、失敗の原因も亦不正であるとか、遊興の結果であるとかいふことがないものならば、其の失敗には必ず人は多大の同情を寄せるものである。それ故かゝる場合にありては平日交際淺からざる先輩友人に向つて、自己の失敗を訴へ更に考案を求めるが宜しい、さすれば何等かそこに適當なる方法が生み出されるものである。或は一人を問ふて良策が無ければ更に又他を尋ねるが宜しい、三人寄れば文殊の智惠と言つて、數人の間には必ず自己が更に世に立つ可き所の方策を考へて呉れるものが出來るのである。稍〻話が餘談に渉つたわけであるが、之れを要するに善事に當つては怯してはならない、自信のあるところは險を冒しても進むが宜しいといふに過ぎないのである。

資本は自ら作るべし

それから能く世間にある事である、お前もさうして居てはいかぬから何か一ッ仕事をして身を立てたら宜からうといふと、其の答に曰く、資本が無いから困るといふ事を言ふ、是れは抑〻間違つて居る事で、資本が

ある位なら身は既に立つてゐるのである、資本も何もなければこそ働くのであるのに、それに資本をといふやうでは其の者は遂に身を立る事の出來ないといふ事を自ら表明するのと同じものである。元來資本といふものは人に造つて貰う可きものでは無いので、自己が身を立るには自己が必ず身を立るだけの元資を造らなければならぬのである。それを他人の資本を待つとか祖先の遺された資本を便るとか、又それが無いから自己は身を立る事が出來ないなどと言ふのは誠に愚な話である。資本其の者は必ず自ら造る可きものである、不幸にして貧家に生れ自己が教育される所の資本が無く、而して無教育であつたとしても、世の中には教育が無くとも身を立る場所は幾らもある、特別の技藝が無くとも身を立るといふ事は幾らも出來るのである。昔豐臣秀吉は無學であり乍ら將に將たる地位に至つたではないか、必ずしも昔の不秩序なる戰國時代の世のみ然るわけでは無い、完全なる秩序、完全なる社會に於ても無教育で身を立て得る仕事と場合とは幾らもあるのである。又教育を完全に受けな

くとも自ら勞働しつゝ自己自身が教育して行くといふ事は誰にでも出來る事である。今日と雖も苦學生は此の東京に隨分ある、著者が平日使用して居る平繰の包み絲は、帝國大學の學生にして行商たる某氏より買ひ求めてゐるのでもわかる。又全く學問なくとも立派に進んで行ける業務は、獨り田舍の農業のみならず、東京の職業にも各種あるのである。之れを要するに資本が無いからといふのは、出來ないのでは無くして、自ら之れを爲さないといふ怠惰者か若くは不具者或は白痴の言ふ可き事であつて、苟も完全なる身體を有して居る者の言ふ可き事で無からうと思ふ。

資本に應じたる方法

資本といふ者は必ずしも大金でなければならぬといふ譯では無い、一錢も是れ資本である、一圓も是れ資本である、百圓千圓萬圓も亦是れ資本であるのである、如何に僅かなる資本でも、人は其の資本を有し其の資本に依つて、更に自分の立身の方法を考へなければならぬのである。米國の或る富豪が小僧を雇入れるとき其の條件の一として、お前は貯金が

兒童も尙資本を有す

あるかといふ事を尋ねた、すると或る者は曰く、まだ主人も取らない私が何で貯金がありませうかといふ事を言ふた、それが爲め其の者は採用されなかつたといふ事がある。上流社會はいざ知らず其の他の社會にては如何なる子供でも伯父伯母乃至は親兄弟から幾分の惠み、褒美、祝儀などいふものを受くるものである。既に五ッ六ッを超ればかゝることは普通にあることである、それを貯金するといふ念慮が無いものは詰り資本を造らうといふ念慮の無いのと同じ事である、彼等子供ですらも多少の資本は有して居る、況や大人に於てをやである。人は幾らかの資本を有すると、そこに又如何にして守るべきか又如何にして增殖すべきかといふ念慮が起るものである、起らなければならないのである。是れは誠に人に必要なる事で、僅かのものであり乍ら、自己がそれ丈けの資本を有して居ればそれ丈け責任ある考へを持ち又それだけ心强いといふ事になるのである、昔の人の言はれた如く、恆の產無き者は恆の心無しで、全く無產の者はどうも責任といふ事を感じない、是れは誠に仕方の無い

恆產なきもの恆心なし

事で人一人を使用すればとて親も無し兄弟も無し子も無し妻も無しといふ者は人が氣を許して使はないものである。左樣なる者は得て無責任なる事の有りがちであることは明かな事である。誠に自分に頼る可き親戚或は自分が保護さる可き身寄りが無いとすれば、尙以て自己は資本の必要といふものを深く感ぜなければならない、聊かでも自己が自己の資本を造らうといふ念慮があれば、人に使はれるにしても、自ら其の主人の爲に忠實にし、自己も亦無責任なる勝手氣隨な事はせない者である。或る富豪が貯金の有無を問題に出したのは其の當を得て居る事と思はれる。又世の中には資本が無いから人の金を借りて仕事をしやうといふ者がある。是れは一應は無いから借りるので無理のない樣に聞えるが、さういふ人は矢張り成功しないものである。世の中に金の無い者、元資卽ち資産の無い者には、人が金を貸さぬといふ事が常である。有る者にこそ信じて之れに融通もするけれども、無い者には何人も之れに融通する者では無い、是亦身を立る上に於て深く考へなければならぬ事である。何故

借金の方法

ならば金の無い者に金を貸せば返すといふ事が無いといふは明かなる事である。返す事の無い者に向つて金を貸すといふ事は是れは出來得べき事では無い。人が若し金を借りるとなれば其の人の返却し得る範圍内に於てしか金は借りられない者である。又人も其の者が返し得る範圍内だけしか貸し得るものでは無い、今方に身を立て樣とする人は未だ十分の資本を有さぬ、未だ十分の借財をする丈けの資力が無いのであるから又自分が身を立てる丈けの資本を人が貸して呉れる筈は無いものである。それ故巧みに借金する人は決して無いとは言はない、近き將來に於て是れだけの利益があるのだが僅か仕入金が足りないからとか、又は外國から突然注文の品が着したので用意が不足だからとか、それ〴〵口實を設けてするのである。之れも事實と人に聞ゆるだけの仕事をして居る者でなければ矢張借ることが出來ぬものである。そこで人は他に大いなる無形の資本を求めねばならぬ、それは金では無い、卽ち立身の資本は信用であるといふ事を自覺せねばならぬ。

信用は立身の資本なり

己れ身を立てやうといふのには先づ己れが大いに人の信用を得なければならないのである。即ち信用は其の者の立身の資本である。如何にすれば我々は信用されるであらうかといふ事は、既に前章に示した如くであるから、茲に再び其の事は言ふ可き必要は無いのである。信用にも色々ある、永久的に信用されるといふ事と、一時信用されるといふ事とある。此の一時の信用は役には立たない。だが世の中には此の一時の信用を利用して身を立てる人がある、之れを名づけて策士の立身法とでも言はうか、策略を以て自分が立身の地盤を造つて行くといふのであるから、是れは尋常一様の人では出來るもので無い、百人に一人か乃至千人に一人しか無いものである。それで相手になつた人は後日に至つて彼れの爲めにだしに使はれたとか、彼に誑かされたとかいふ事を言はれるのである。併し其の當時に於ては彼れの言ふ事は如何にも尤もであり、彼れのする事は誠に健氣であり、彼れの言ふ事爲す事は總て誠實であり、信實であるとして之れを助けたのである。策士は左様にして身を立つるのである。

策略的立身法

去りながら其の手段は常に何人に向つても施し得る所の方法であつて、さうして何人に向つても成功することかといふと、決してさうで無い、彼等はいつも自己よりも精神力の明晰で無い者、若くは案外世の辛酸を嘗めない生な者に向つて、其の策略を施し又其の場合に於て成功するのであつて、之れを以て一般の立身法と見てはならないのである。彼等策士は此の機をはづしてはならぬと言ふ場合には、虚僞をも不正をも顧みず己れ一面識の者も、彼れは我が親戚なりとか極めて親密なる友人なりとか何伯の夫人は余の姪なりなどと憶面もなく說き去り、而して又其他方に向つては、前者を擧げて、彼れは我が知己なり親友なり親戚なりと說き、彼れは又自ら不正なる事を働くが爲に、如何にも道德的なる口實を假りて、誠實でなければならぬとか約を守るが大切であるとか何とか、有りとあらゆる權謀術數を行ふのである。それ故に對者は誠に彼れは誠實なる者であり正直なる者であると前後の分別もなく、一圖に煙にまかれて信ずるのである、そこで其の一時の信用が彼れの乘ずる所であつて、

人間の僞物

能く其の處に成功をするのである。併し世の辛酸を嘗めたる者、思慮の緻密なる者、眼力の鋭利なる者は直に其の場に於て其の手段を看破するのである。故に世の中が進歩して社會の秩序が極めて正しくなり人の思慮も周密となり、各種の關係を認むるに非れば信用をしないといふ時代と及び人とに向つては到底成功するものでは無い。世の青年紳士よ決して人に接して策士的なる事を言ふ事勿れ、人を巧まく乘せてやらう抔といふ樣な考へを持つてはならない。兎角自分に利益にさへなれば、其の一時を完ふする爲め、將來の如何を顧みず淺はかなる考へを持つ者が多い、幸に千百に一つ瞞着し遂ぐれば僥倖であるが、若しも爲し遂げない場合に於ては自分の行ふた手段や口實が、常に自分の立身の妨げをなして世に用ゐられることの出來ない樣な破目に陷いつて、惜む可き知能才幹がありながら生涯路頭に迷ふといふ樣な事になるのである。世の中にさういふ人が幾らもある、東京には殊にそれ等が多い、是れが皆な將來に於て詐僞師となるのである。所謂詐僞を以て己れの糊口を過して行か

學問の方針と職業の選擇

なければ、最早世に立つことが出來ないほど世の信用を失ふたものである。

余は尙ほ茲に世の青年者の參考として、「學問の方針と職業の選擇」と題する、實業家朝吹氏の談を掲げて、此の章を結ばうと思ふのである。

學問さへすれば、其の程度の如何を問はず、其の種類の如何を論ぜず、直に豪い人になれるといふ考へは、今も尙ほ青年の頭腦を支配して居る、特に地方の青年を騙つて苦學の爲めに都會に奔らせるといふ趨勢は依然として衰へないやうである。學問の價値は勿論下落したわけでない、何の學問でも結構には相違ないが、學者として身を立つるといふことでない以上は、自己の才能及び其の修業の爲めに費すべき資金の事を仔細に考へなければならぬ。都會へさへ出れば身體一つ心一つで如何なる學問でも出來如何なる機會をも得られると思ふは大なる間違ひである。

富有の子弟を戒める爲めに苦學者を賞讃するは、敢てわるいことはな

いが、苦學の價値を大きく視過ぐるは穩かでない。抑も苦學の價値は、學問が輕蔑された時代でこそ大に尊むべきであるが、今日のやうに學問の機會便宜の兼ね備はり居る時勢では苦學樂學少しも選む所はない、のみならず、苦學は樂學に比して其の成績の擧がることが遲ひ丈け損である。從來學資がなくて學問に志すものを稱して苦學と云ふて來たが、學問の道が異常の進歩をして來た今日では、苦學といふ意味も自然異なつて居るので、即ち自己の才能に適し資力に應じた方針を取つて、普通人以上の學問の機會を利用し、普通人以上に研究の功を積むのを以て苦學と言はなければならぬ。他人の玄關番をして學問をする時代は既に去つてしまつた。相當の資金を給與されて、正則の順序を蹈ですらも、學業の成績拔群といはれるやうなことは容易に望めない。況や資金なく機會なき貧生がどうして出來やう筈がない。然らば貧生は遂に身を立つる途がないかと云へば、決してそんなことはない。苟も小學教育若くは中學教育を受けたものならば、商工業界

苦學の將來

に職業を求むることは、必ずしも困難ではない、一旦商工業界に見習者たることが出來れば、漸次經驗を積み熟練を重ね、遂に有用の人物となつて安全堅固の地位を社會に得られるものである。それを所謂苦學と稱して多年の月日を費消して、成績は到底樂學者に及びもつかず、漸く學業が卒つて何處にも用ゐてくれ手がないといふに比べたら其の幸不幸はいづれであらう。

扨て又血氣の青年で、近く維新前後の局面を傳聞したり、若くは、米國變の成功譚を傳へ聞きて、今も尚ほ貧生が一躍にして大臣となり、赤手往々富豪となるを得ると夢想する者もあらうが、社會の秩序定まり教育の組織整ひたる現時の我が邦にあつては、相當の順序を踏み、練習を積まなければ一定の職業に就くことが難いのである。かゝる人すら一定の職業に就くことが難いとしたならば、何等の順序も踏まないで直ちに大成功の榮冠を戴くなどは思ひも寄らざることである。獨乙の如きは、人々皆其の弱年の頃からして、其の地位を選定して、此

先づ將來の目的を選定せよ

の選定したる地位に相當する教育及び訓練を受けるので、既に一旦其の地位を得れば之れを變更することは極めて稀だと云ふことである。これは獨乙人の氣質にもよるであらうが、社會の組織整頓すれば、社會に於ける個人の地位自から此の如くになつてくるのである。我が國の情勢も年を逐ふて之れに類して來るので、今日では教育機關の設備と相俟つて、一定の教育若くは訓練を受けなければ、一定の地位職業を求むることが出來ぬやうになつて來たのである。此の傾向は青年諸君の大に注意を要する所で、學問の方針其の宜しきを得ないと、徒らに勞して功なきのみならず、遂に終生の不運を招ぐやうになるのである。故に高等の學問を修了するだけの資金を有せざるものは、速かに實地の職業について學問に代ゆべき經驗と熟練をつんで、事業の運轉に必要なる一員となるやうにせなければならぬ。又高等の學術を研究すべき才能及び資力を有するものは、疾くに其の職業を豫選し、社會に於ける一定の地位を目的として學問を修さめなければならぬ。此の

如くしたならば天下無用の材なく、人々皆其の處を得て國運の發展に資するやうになるのである。

第八章　漁官運動幷に求職法

漁官運動

不世出の才幹があるとか、又は特別の緣故があつて官に就き職を得ると言ふのは格別、今日の秩序ある社會にあつては非常の異例を除くの外、一定の教育を受けないものが職を得ることの出來ぬは當然である。人を誤魔化して僥倖を望むで何か職に在り付かうと言ふ者でない限りは、或る程度迄の教育を眞面目に受けなければならない、今日は正當に教育も受け頭腦も優れて居る者が、殆ど社會の需要以上に澤山ある世の中であるから十數年前又は二十餘年前の樣に、働く人が足りないで何れの方面にも人が入用と言ふ時代ではない、是れから後の青年にして、官途に就き或は實業界に出やうと言ふものは、どうしても眞面目に勉强をして實

僥倖を望むなかれ

力を養ひ、毛頭僥倖なぞを望むやうな考へを起してはならない、そんな考へを起したら生涯浮む瀬は決してないのである。今では殊に此の兩三年以來は眞面目に勉強もし可なりに用に立つ人間でありながら、それ等の人すら職を得る餘地がなくて閉口して居るのであるから、先づ學校時代は眞面目に勉強すると言ふことがどうしても社會に立つ基礎であることは言ふ迄もないことである。

學校では眞面目に勉強もし實力もあると言ふ人ならば、社會で買てくれさうなものである、自然に何處かから仕事を持て來てやらせてくれるかと言ふに、所がもう今日はそんな安閑としてすましてお高くとまつて居たからと言ふて、何所からもどうか之を行つて戴きたいと言ふて職を持てくる氣使ひはない。學生が學校の窓から社會を覗いて見て居る時分には分らぬが、仕事のありさうな所へは丁度蟻が甘きに就く樣に使つてくれと言ふ我利々々亡者がどし〳〵詰めかけて居るのであるから、先方から探して來てくれると云ふ事は先づなからう。そこで東京學の必要が起

眞面目の勉強

教授訪問の必要

るのである。

こゝに漁官運動幷に就職法と題してあるが、之れ迄の社會に多かつた政治屋とか政黨屋とか言ふ運中の漁官運動のことなぞはさしたる必要はない、又今後の青年には用のない事だらうと思ふ。茲には唯學校出の青年が職を得る爲めに將來の心得となることを言つて見やうと思ふのである。

將來此の問題に關して、在學中は如何なる態度を採たらよからうと言ふに、前言ふた通り眞面目にコツ〳〵勉強せんけりやならぬのは第一だが、第二として自分が專門の學課に就き特に御世話になる先生の所へは時々訪問するが肝要である。何もおべつかを言ひに行けと言ふのではない。「先生今日は遊びに來ました」と言ふ風に無邪氣に出て居たら、先生の方も惡くゝはないもので、なぜ來たとは決して言はぬ。然しなる可く先生の忙しい時や研究の邪魔になるやうな時は避けなければならぬ。中々學校だけでは多數の學生もあること故、どの學生がどう言ふ氣質の男でどう言ふ特長短所のあると言ふことが分明るものではない、それ故單に學校

教授の推薦と助言

で教授しただけでは、よし假令社會の需要者の方面から適當な人物を御周旋願ひますと言つて來た所が、先生の方で責任を以て推薦する事が出來ぬ、かう言ふ時に平常自分の手元へ來て居るものは、よく了解して居るから其の推薦にあづかると言ふ事になるのである。自分は曾て某大學教授の歎聲を聞いたことがある、それは有名な或會社から、本年卒業の學生で貴下の御教導になつたもので御座いまして當會社に採用を願ひ出ましたが、當人の性行其他に就て少しも分らぬが、先生の御見込みは如何で御座らうと言て來た、所が、自分は實際多數の學生の中にさう言ふ名の者もあつた位しか知らぬ、どんな顏の男やらどう言ふ質の者やらと分らぬ、されば言ふて平常出入する他の學生にあの男はどう言ふ男かと聞いた所が、よく言た場合はまだいっとして惡くでも言ふやうなことのある場合には、それを信じて其人の生涯の禍福に關する重大な問題を決すると言ふことになる實に危險千萬なことであると。又缺點もたいしてなさうな場合であつても會社へ答へるには、學校の成績は發表

になつて居るから御覽の通り本人の質は大して缺點もないやうである私は良いと思ふが何分多數の學生のことであるから實際確たる御答へが出來ぬと言ふより外はないのである。責任を重んずれば先づかうであらう。此の場合に教授が其男をよく知て居て、明に特長はかうであるとかこゝが彼の缺點であるとか答へたならば、世に重望ある教授の證明として其の男は直に採用の榮を負ふことゝなるに違ひないのである。それ故社會から重きをなされて居る教授に、自己を知られて置くといふことの必要なことが分るであらう。

それから尙ほ學生中に注意すべきことは、同縣同國出身の先輩である。まだ〳〵今の日本では同縣人であるとか同國人であるとか言ふことの結合力は盛なものだ、亦先輩にした所が多少かう言ふ區劃の範圍內に於て、自己の勢力を堅めそれを基礎にしたいと言ふ考へのないものはなからう、それから勢力の大きくなるに從つて全國的のものになるが、さう云ふのは先づ極めて一時代に少數のものである。地方から出て居る學生などは

先輩の勢力を利用すべし

殊にから言ふ結合力を利用するに都合がいゝのである、同縣人の會だとか同窓會だとか、又は同郷の人の紹介だとか言ふもので先輩にちかづき學校を出る迄に二度でも三度でも顏を知られて居ると言ふことが必要であらう。特に卒業近くなると先輩の方でも注意してくれる、尤も先輩だからと言ふて、向上心のない充分の發展をしやうと言ふ心のない者などは駄目だが、成功した人で多少向上心のない者はないから、自分が今事をせぬ迄も自分の知り合ひの人も澤山あれば又關係の少からぬ方面が多いものである。愈〻學校を出た場合に今度學校を出ましたが何處へか御世話を願ひ度う御座いますと言へば、大抵は出來るだけの世話をするものである。又其位の世話をするのを厭ふやうな者は、必ず大なる發展もしない者であり又決して信頼するに足らぬ者である。成功する位の人は、大なる成功をするには自分一人で出來ぬ、信頼すべき幕下の多數が必要だ位は皆な承知して居る。孤立では如何なる人物でも今の社會に事はなせないのである。韓退之の言ひ草ぢやないが、高材も戚々の窮多く、盛

位も赫々の光無しとでも言ふべきであらう。

友人の選擇と立身の關係

次に學校出の者は、在學中同窓の學生との交際上注意すべきことがある。これも亦比較的重大なことで多くは知らず〳〵經過してしまつて、愈卒業と言ふ時になつて始めて氣付くことが多いだらう、昔からよく人の言ふ友を擇べとか言ふことは、青年學生からは誤解されて自分の氣に入たものとは馬鹿に親密になつて、又一方には毛嫌ひをする者が出來て、自然に學校でも睨らみ合ふと言ふことも少くないが、これが亦非常な誤りである、清濁併せ呑むと言ふ程でなくとも同窓の學生間に處しては敵を作らぬと言ふことはよく〳〵心がけて居らねばならぬ。されば言て氣骨のないお人よしが善いと言ふわけぢやない、強いて敵を作らぬと言ふ主義で、同窓に處し友誼に厚く、熱誠を以て何れの友にも對すると言ふ心がけさへあればよいのである、それから以上の事は其の人の天性であるから敎べでとにも作りごとにもならぬことである。そこで自分が社會に出て職を得やうとする場合に、社會の方面から自分をどう云ふ者であ

同窓者に對する心得

るかと云ふことを調べる時に、尤も多くの場合に同窓の學生の口から出る批評が根底となつて、廻り〳〵て需要者の耳に入るといふことになる、此の場合に極く親密の友から出た批評が傳はればよいが不幸にして仲の惡い友達から出たのが傳はつたら最後、つまらぬことになつてしまふのである、實際同窓間の批評と言ふものは、思ひの外重大な關係を以て居るものだから、能く注意する處がなくてはならぬ。

扨て之れから學校を出たと言ふ時になつて、需要者の方から教授なり學校へなり申込みがあつて、教授又は學校が學生を之れに割り當てると言ふ樣な場合には、其の本人に非常な缺點のない限りは別に困難な事にも出遭はず決定するものであるが、從來は兎に角今後は學生の數が非常に增加して、是等の需要數に超過することが甚しくなるに違ひない、既に昨年の東京法科大學の卒業學生に見るも、需要者の方から大學の有力な教授達の處へなり又は學校自身へなり申込だ數は、卒業生の總數の四分の一位しかないと言ふことであつた、して見ると後の四分の三の學生は、

豫備的運動の必要なる理由

先づ自己の力により職を得ることを勉めなければならぬ。其の志望する方面は大抵定まつて居るから、競爭もある運動も必用になる、かういふ時になると卽ち前に述べた如く、在學中の豫備的の心がけが用に立て來るのである。此の時になつてあせつた所が此の豫備のない者は一番後廻しと言ふことになつて肩身の狹いやうな思ひをせなければならぬ。

初對面の態度

教授や先輩から紹介されて、人を訪問して採用を請ふと言ふ場合に、どう言ふ心懸けが必要だかといふに、初對面の人に對して言ふ可きこと、及び自己の志望を成る可く簡單に明了に述べると言ふことの必要なのは言ふ迄もないが、先方の人は如何なる經歷を有する人で如何なる性質如何なる嗜好のある人であるか、容貌は如何なる人であるかといふことを出來るだけ豫め知て置くと言ふ事が必要だ、若し見る機會を捕ふることが出來るならば、其の人の寫眞などを見ておく時は、初對面であつても舊知の人のやうに思はれ、心に臆することの少いと言ふことは自己の意志を明晰に述べると言ふことの爲めに利益がある、又其の人の事業の大

略や其の人の經歷や性質を知て居ると言ふことは、先方から話しかけることが直ぐ樣能く了解して呑み込むことが出來答へをするにも能く先方の意志に合するやうに出來る。

官廳などでは比較的にかういふ樣な心配が樂であるが、之れが實業界であると尤も注意を深くする必要がある、實業界の大立者になると人を見ることは中々達者で、寸分の透きがない者である。第一訪問する場合にも服裝なぞも多少心懸けなければならない、浮華なハイカラな風は絶對によくない。さりとて餘りに弊衣短袴の粗暴な風も決して感心すべきものでない、物は中庸を得るといふことが最も必要だ、又之れが一方には常識のあると言ふことの一の標的と見ることも出來る、ハイカラでなし蠻カラでなしといふ所が緊要なのである。

それから先方を訪問して先方の挨拶にも充分注意せねばならぬ。今日では地位名譽のある人の所へは、それは〳〵驚く程多くの漁官運動者が出懸けるものである、少し有名な人になれば殆ど毎日と言てもよい位、使

つてくれといふて來る者があるから隨分閉口して居ることゝ思ふ。中には或る特別の人の紹介で來て、のつぴきならず使はねばならぬと言ふのが少くないから、普通一遍の者は中々使てもらふと言ふわけには行かぬ、亦其の斷り方も慣れたものだ、多少の緣故知り合ひから紹介してよこすものだから直ぐ樣斷ると言ふ譯にいかぬものとみえて、後で評議をしてとか熟考して御挨拶をしなせうとか言ふに極つて居る。夫が學校出の世慣れぬ青年になると、自分の肩書とか紹介者の地位とかを考へて之れは脈の切れたものではない、今に何とか挨拶をしてくれるだらうと思つてべん〳〵と待て居る、さあ何時迄待つても何の挨拶もない、そろ〳〵心配してさぐりを入れて見ると豈計らん大抵は忘れてしまつて、其の場限りの逃れ口上を言つたのだから梨の礫と來るはきまつて居る。こんな事が三度も四度も重ると青年はあせり出す、初めの志望もすてねばならぬ境遇になる、又一方には青年の罪ばかりではない家族抔から如何にも意氣地のない樣に嘲りをうける、又同窓間にも肩身が狹いといふ樣な所か

事心と差ふ

ら、當初の希望であつた志望を棄て口のある所へ何處でもかまはずはいると云ふことになるのである。中には意志の弱い男になると就職口のきまらぬ爲め自暴自棄になつて、手のつけられない境遇に陷る者もある、實際さういふ例も少なからず我々は見て居るのである。それ故豫め青年の決心として、自分の好きな又は一寸人聞きのいゝ所など計りを望まないで、仕事のある所自分の向た所で何でもかまはず努力奮鬪する、さうして自己の運命を開拓すると言ふ覺悟が必要である。人の作りあげた基礎の堅い所は世間に對してはそれは人聞きがいゝ樣に思はれる、然し識者の目からはそんな所は却て勢力の強い實力のある奮鬪的な青年の爲めにはつまらぬと思ふ。又意志の強い元氣のいゝ青年は敢てそんな所を望みはしない、多少基礎は弱くてもかまはぬ人聞きは惡くもかまはぬ、基礎が弱ければ自分が奮鬪して堅くしてやる、人聞きが惡るければよくしてやると言ふ勇ましい決心がなければならぬ。今の青年には實に此の勇氣が缺けて居るらしい、分別くさい顏ばかりして居て人のやつた仕事を

自己の運命を開拓せよ

後からこそ〳〵うけついで行くのが間違ひない飯の食ひはぐれがないと心得て居るのが多いのである。

我々の考へは、先づ以上の決心を以て、さうして自分の先輩と仰ぐ人、學校の教授などへ出來るだけ多く頼むで置くのが肝要である、さうして口があつたら何處でもかまはす、どし〳〵働いて自己の運命を自分の力に依て開拓すると云ふ覺悟でなければならぬと思ふ。又是等の人に頼むで置てからが棄てゝおいては駄目だ、絶えず訪問してそれ等の人の頭に自分といふものを深く印象させて置くのが必要である。さうすると仕事のあつた時又は人の欲しいと言ふことの起つた時に直ぐ樣あゝあれをといふ考へが直ぐ出て、呼出されるといふことになる、絶えず訪問するといふてからが、人にいやがられぬ樣時節を見計らうといふことが必要だ、その機會を捕へることに注意せねばならぬのである。

以上は普通の心得を述べた迄であるが、尙ほかういふ例もある、或る青年が實業界に出るに當て、會社とか銀行とかいふ單に法人に使はれると

傑物の子分たれ

いふよりも自分が將來實業界に立て行く上に一人の親分が欲しい、單にその會社その銀行といふ樣な簡單な關係でなしにその人に子分として事へ、その人の事業は何でも構はず自分はやつて見る、その人の爲めに盡して見たいといふ考へから、實業界に向て自己の半世を捧げて遺憾のない人を尋ねた、すると現今日の出の勢ひで比較的年も若い腕のいゝ地位も相當にある者を見出して、直接其人に對して、私は貴下の實業界に於ける半世の歷史を尊崇して、私の後半世を貴下に托して實業上の實務の修養をして見度いと言ふ考へであります、どうか御指導を下さるといふことの御承諾を願ひたいと言ふことを熱心を以て申入れた、すると其の實業家は今丁度人が一杯で入用の處もないし、人の爲めに仕事を作るといふことは出來ぬからといふて斷つた、けれど青年は何してもきかぬ今仕事がなければ仕事のある迄まちます、貴下の外に他に現今の實業界に身を托するといふ人を見出すことが出來ませんといふてきかぬ、どんな仕事でも厭はぬ俸給なぞはなくてもよいから何處へか貴下の監督の下に

根氣の必要

ある處へ置いて下さいといふて、いつかな動かぬ、實業家も其の男に就て調査もするしよく調べて長所も發見して、遂には其の保護を承諾して自己と進退を共にせしめるといふ位になつた、畢竟青年の意志が強いからでもあるが實業家もかういふ子分を得たのは幸ひである。何事を打ち明けても安心である、重大な仕事を任すことも出來る、青年の方から言ふても傑物の手腕を見て其の營業振りを呑込み、十分修養を積んで後年實業界に大いに爲すあらむとするには、萬事につけ此の上もない好都合であるといはなければならぬ。

第九章　團體及び其の操縱法（附人に長たる心得）

團體の必要

人類相互の利益を保護し又それを發達せしめるが爲に、それ〴〵の機關がある。其の大いなる者は無論一國の政府であるとか、或は府縣廳であるとか、又外國に居留して居る者は居留民團といふ樣な者を組織し東京

市は市廳を置いてするといふ樣な工合に、個人間に於ても亦其の業務の種類に依つてそれ〴〵團體組合といふ者を設けて、其の事業の發展を謀つて居る。或は又互に出資をして、一個人としては出來ない大いなる仕事を共同に依つて爲し遂げて居るのもある。其の種類には或は社團があり、財團があり、又合資があり、株式會社があるのである。何れも法律上の監督保護といふものを受くるが爲めに、定款といふものを定めて其の認可を經て仕事をして居るのである。今其の定款といふものは如何樣のものであるかの一例を左に擧げやう。

定款の一例

○株式會社印書堂定款

第壹章　總則

第壹條　當會社ハ株式會社印書堂ト稱ス

第貳條　當會社ハ教育上必須ノ圖書出版販賣及各種教育用品ノ製作供給ヲ以テ目的トス

第參條　當會社ハ本店ヲ東京市ニ設置ス

但取締役會ノ決議ヲ以テ支店又ハ代理店ヲ設クルコトアルベシ

第四條　當會社ノ資本金ハ金五拾萬圓トス

第五條　當會社ノ公告ハ所轄裁判所ノ公告スル新聞紙ヲ以テ爲スモノトス

第貳章　株式

第六條　當會社ノ株式ハ記名式ニシテ之ヲ壹萬株ニ分チ壹株ノ金額ヲ金五拾圓トス

第七條　當會社ノ株金ハ第壹回ノ拂込額ヲ壹株ニ付金拾貳圓五拾錢トシ第貳回以後ノ拂込額及其時期ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ壹ヶ月以前ニ株主ニ通知スルモノトス

第八條　株金ノ拂込ヲ怠リタルモノハ拂込期日ノ翌日ヨリ拂込タル日迄拂込ムベキ株金ニ對シ金壹百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ延滯利子ヲ徵收シ尙延滯ノ爲メ別ニ損害ヲ生ジタルトキハ之ヲ賠償セシム

第九章　團體及び其の操縱法(附人に長たる心得)

第九條　當會社ノ株式ヲ賣買讓渡シタルトキハ名義書換ノ請求書ヲ作リ株券ヲ添ヘテ當會社ヘ差出シ株主名簿ニ登錄ヲ請求シ其株券ニ證印ヲ受クベシ

第拾條　當會社ノ株券ヲ損傷又ハ亡失シタルトキハ其事由ヲ明記シ保證人二名連署ノ證書ヲ差出シ新株券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

但亡失ノ場合ニ於テハ其旨貳回以上公告シ一ケ月ヲ經タル後故障ナキ時新株券ヲ交付ス若シ其期間内ニ於テ亡失シタル株券ヲ發見シタルトキハ直ニ當會社ニ屆出デ更ニ其旨公告ヲナスベシ

第拾壹條　當會社ハ新株券交付ノ場合ニ於テハ前條ノ公告料ハ勿論株券壹通ニ付金貳拾錢名義書換ノ場合ニ於テハ壹通ニ付金拾錢ノ手數料ヲ徴收ス

第拾貳條　株主住所又ハ印章ヲ變更シタルトキハ必ズ當會社ニ屆出ヅベシ

第拾參條　株券ハ定時總會前相當ノ期間内其書換ヲ停止スルコトアル

ベシ

第參章　株主總會

第拾四條　株主總會ハ定時總會及臨時總會ノ二種トス

定時總會ハ毎年六月及十二月ノ兩度ニ之ヲ開ク

第拾五條　株主總會ニ於テハ豫メ株主ニ通知シタル目的事項ノ外他ノ議事ニ渉ルコトヲ得ズ

第拾六條　株主總會ニ於ケル株主ノ議決權ハ壹株毎ニ壹個トス

但株主ハ代理人ニ委任シテ議決權ヲ行フコトヲ得ト雖トモ其代理人ハ當會社ノ株主タルモノニ限ル

第拾七條　株主總會ノ議長ハ社長之ニ任ズ社長事故アルトキハ他ノ取締役ヲ以テ議長トス

第拾八條　株主總會ノ決議ハ出席株主議決權ノ過半數ニヨリ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第拾九條　株主總會ニ於テ議決シタル事項ハ決議錄ニ記載シ議長監査

役各壹名及出席株主壹名之ニ記名捺印スベシ

第貳拾條　株主總會ノ報告幷ニ決議ノ事項ハ便宜ノ方法ヲ以テ株主ニ通知スベシ

第四章　役員

第貳拾壹條　取締役ハ壹百株以上監査役ハ五拾株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

第貳拾貳條　取締役ハ五人トシ監査役ハ參人トス

第貳拾參條　社長及專務取締役ハ取締役ノ互選ニヨルモノトス

第貳拾四條　取締役ノ任期ハ參ケ年トシ監査役ノ任期ハ壹ケ年トス

但滿期ニ於テ再選スルコトヲ得

第貳拾五條　取締役又ハ監査役在任中缺員ヲ生ジタルトキハ臨時總會ヲ招集シ補缺員ヲ選定ス

但法定ノ員數ヲ缺カズ且事務ニ差支ナキトキハ次期ノ總會迄選擧ヲ延期スルコトヲ得

第貳拾六條　補缺選擧ニ於テ選任セラレタルモノ、任期ハ前任期ノ殘期トス

取締役又ハ監査役ノ總員ガ同時ニ其職ヲ辭シタルトキモ亦同ジ

第貳拾七條　取締役ハ在任中自己所有ノ當會社株式壹百株ヲ監査役ニ供託スベシ

第貳拾八條　取締役及監査役ノ報酬ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五章　計算

第貳拾九條　當會社ノ會計ハ壹ケ年ヲ貳期ニ分チ十二月一日ヨリ翌年五月三十一日迄ヲ前半期トシ六月一日ヨリ十一月三十日迄ヲ後半期トシ各計算期ノ終リニ於テ事業報告書、財產目錄、貸借對照表、損益計算書及利益分配案ヲ調製シテ定時總會ニ提出スベシ

第參拾條　當會社ハ其期間內ニ於ケル總收入金ヨリ一切ノ經費及損失ヲ控除シタル殘額ヲ以テ利益金トシ左ノ如ク配分ス

一、法定積立金　利益金ノ百分ノ五以上

東京學

一、賞　與　金　同　百分ノ五以上

一、別途積立金　同　百分ノ五以上

一、株主配當金　拂込額ニ對シ年貳割五分以下ニテ總會ノ決議

但計算ノ都合ニヨリ次期ヘ繰越スコトヲ得

第參拾壹條　株主配當金ハ各計算期末日ノ株主ニ配當スルモノトス

第參拾貳條　配當ヲ通知シタル後貳ケ年ヲ經過スルモ之ヲ請求セザルトキハ其配當金ハ當會社ノ所得トス

第六章　附　則

第參拾參條　取締役監査役ノ協議ヲ以テ相談役又ハ評議員ヲ囑託スルコトヲ得

第參拾四條　株式ノ申込ヲナサントスルモノハ申込ノ際證據金トシテ壹株ニツキ金貳圓五拾錢ヲ拂込ムベシ

第參拾五條　當會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用ハ金貳千圓以內トス

第參拾六條　本定款ニ規定ナキ事項ハ都テ商法ノ規定ニ據ル

○株式會社印書堂起業見積書

資本運用豫算　　株式總高

一金五拾萬圓　　第壹回拂込金

內

金拾貳萬五千圓　運轉資金

內

金參萬五千圓　活版部設置費

金參萬五千圓　營業部設置費

金　參　萬　圓　教育用具製作工場費

金貳萬五千圓

損益豫算（壹ケ年）

一金拾壹萬八千八百六拾圓　支出

內

金壹萬參千七百六拾圓　樂器類製作及仕入費

第九章　團體及び其の操縱法（附人に長たる心得）

東京學　金四千五百圓
金參千圓
金貳萬五千圓
金五萬五千圓
金壹千貳百圓
金五百圓
金貳千壹百圓
金六千八百圓
金參千五百圓
金參千五百圓
以上
一金拾六萬七千七百八拾圓　收入
內
金貳萬貳千貳百貳拾圓　樂器類賣上代
運動具製作及仕入費
教育用具製作及仕入費
圖書原稿料幷ニ印税
出版製造諸費
諸税金
保險料修繕費
報酬金
給料及雜給
廣告費
營業費

金壹萬七百六拾圓　運動具賣上代
金八千八百圓　教育用品賣上代
金拾貳萬六千圓　圖書賣上代
以上
一金四萬八千九百貳拾圓　利益金
內
金四千八百九拾圓　法定積立金
金四千八百九拾圓　賞與金
金七千八百九拾圓　後期繰越金
金參萬壹千貳百五拾圓　株主配當金(年貳割五分)

社團法人

社團法人といふのは例へば教育會の如きもの、其の他臺灣協會であるとか東邦協會であるとかいふ樣な類のもので、財産がある譯では無いが、公益の事業を爲す爲に一ッの團體を造つて、會員を募集して其の會費に依つて之れを維持し經營して行く所のものである。

第九章　團體及び其の操縱法(附人に長たる心得)

財團法人

財團法人は固より其處に一ッの財産といふものがある、其の財産が個人の爲に費消されてはならぬ、故に之れを法人組織としたものである。是等は何れも民法の規定に基いて出來てゐるのである。其の他合資會社或は株式會社は、總て商法の規定に基いて成立つて居るものであることは今更説明をするの必要は無い。

會社

團體と操縱者

團體には何れも操縱者が無ければ團體としての活動をして行く事は出來ないのである。株式會社に於ける取締役、其の他何々會の理事、幹事、會長と稱する者は、卽ち其の團體の操縱者である。其の團體が金を以て集まる所の團體であれば、其の操縱者は出資額の多いものが其の任に當るのである。又公益を謀る爲めに集まる所の者は、其の操縱者は其の團體を組織したる所の策士と言はうか、或は特志者と言はうか、さういふ人が其の任に當るのである、其の操縱者或は創立者といふ者は、必ずしもそれは其の團體の長たる者であるといふ譯にはゆかない、公益上の團體に在ては、長たる者は德望衆に秀で、多數の人から重んぜられる者を

操縱者と團體長

以て、之れを會長とし總裁となして、其の會の統一といふ者を圖つて居るのである。資本を以て集まるといふ團體に在ては、其の團體の長たる者は其の中の大株主であつてさうして衆望の歸する所の人である。併し或る團體は其の過半數の出資者は唯一人である、其の場合に於ては衆望の如何とか德望の如何とかいふ者は固より問ふ所のものではない卽ち金力萬能で其の出資額の最も多い人が之れを操縱し之れに長たる者である。

操縱者と團體の關係

團體の操縱といふものは普通の場合に於ては聊(いさゝか)も困難の有らう筈は無い、何故ならば德望最も高い所の、世間既に定評のある立派なる人間を會長と仰ぐのであるから、其の會長は之れを操縱する上に於て、何等の野心も無く極めて公平に其の組合團體の利益を謀るものであるから、其の團體全體を操縱する上に於ては聊も勞苦を有す可き筈は無いのである。然るに世間各種の團體には能く捫着(もんちやく)が起る、其の捫着といふ樣な事は何が故に起るのであらうかといふと、それ等は何人かゞ其の間に立て自己の利益を謀るとか、又は專横なる振舞をするとかいふものがあるから捫着

が起り、整理が附かぬ抔といふ樣な事が生じて來るのである。近くは東鐵の不始末の如きは、一方には其の營業の利益の少いといふ點から株主に對する配當の少いといふ事も影響をして居る、又一方には其の電車賃値上値上運動の成功しなかつたといふ事もあらう、けれども其の電車賃値上の請願の成功しなかつたといふ事は重役其の者等のやり方が宜くないからである。十分に注意して緻密なる調査の下に仕事をして行つたならばまだ〳〵今日は値上をせぬでも株主に對して相當の利益を配當する事が出來るかも知れぬ、政府に於ても其の見込を立たからこそ之れを却下したのである。然るに重役等の調査不十分であるとすれば其の重役等は既に株主に對しての務めを無視した者と見なければならないことになつて來るのである。其處が卽ち其の團體の關係者が不平を起す所で摺つた揉んだの結果が遂に總辭職となつたのである。又公益上の團體にすれば、公金の名を借りてそれ等の幹事理事等が私利を謀り、或は專横なる處置をして迷宮的隱藏をするとか、或は十分に其の團體が爲す可き所の任務

團體と捫着

を盡さないとかいふ點から騷動が起つて來るのである。公益上の團體に於ては、割合に眞正なる輿論といふものが行はれて其の多數決といふものは、比較的公平なるものであるが、此の相互が出資して利益を謀るといふ營業の團體、卽ち株式會社の如きものになると、其の決議といふものはどうも公平であると認むる事が出來ないのが普通である。現今の有樣で見ると、各種の株式會社は取締役の自由になるのである。取締役は總會を開く其の以前に於て、自分が將に斯くしやうと思ふ場合には總會に於て過半數を占むべき大株主の連中を料理店に招いてさうして懇親旁〻相談會といふものをして仕舞ふのである。酒杯談笑の間に大體事を定めて仕舞つて、それから翌日の總會に其の問題が提出されるといふ樣な事になる、そこで總會に提出される前に既に事が決して仕舞つて居るので、總會はほんの形式だけのもので、愈〻總會になつて不平のある者が一二辯論を逞うして見た所で何等の效も無い、唯一時議場を騷がせるといふに止つて、其の決議の場合に於ては無雜作に株數の過半數を以て重

公會と下相談

役等の思ひ通りに決議されて仕舞ふものである。是れは東鐵の決議を見ても分る事で、頗る騷がしき騷動を極めた樣な者の、其の採決の曉に至つては、不平連は徒に辯論を勞したといふに過ぎなかつたのである。

此の下相談といふ事は大概の集會に於て行はれて居て、侃々諤々正議是れ重んずるといふ人士は何時も其の仲間に入れられない樣な事になるのである。日本の國是を定め日本の財政を議する所の帝國議會に於ても既に是れである、如何に賢明にして正義を重じても個人の力は朋黨比周の連合力に及ぶべきでなく、議會に提出される所の問題は議員其の者が其の場に於て討論議決するといふ意味のものでは無いのである。或る問題が議場に提出される迄には、其の議題に關する利害關係者は重立ちたる議員に豫め言ふに言はれぬ各種の運動が行はれて、多數の議員はいやでも其の黨の重立ちたるものの意見に從はねばならぬ事になつて、議場に出る前にちやんと事が定まつて仕舞ふ。そこで議事日程に上るのであるから、如何に公平無私なる獨立自尊の議員があつて、之れに向つて自己

朋黨比周の弊害

の意見を吐いて見たところで、又公平なる意見を吐露しやうとして見た處で、それ〴〵黨派にまつて院內總理が何の問題につきては誰に意見を述べさせると定まつて居るので、述べたくとも述べられぬやうに出來て居るのである。議會のする事は公平無私なる國民の輿論であるかといふと、決してさうは參らぬのである、黨派の壓制若くは言ふに言はれぬ運動の結果で事が極つて仕舞ふのである。個人として如何なる意見を有して居らうとも議場に立つては國民の代議士と云ふ名のみで個人個人としての代議士は眼中には置かれないのである、從つて代議士となつた以上は何れかの黨派に屬するか、又は自ら一黨を樹立するかしなければ如何とも仕方がないのである。故に心ある者は此の政體の善美なる下に立つて居り乍ら斯る醜體を目擊するばかりで、言論の自由も無し萬事が不吉なる朋黨比周に依て決せられるといふて憤慨して居るのである。既に帝國議會ですらさう云ふ世の中であるから、其の他の營利上の會議に魂膽あるは知れたことで、或は總會或は協會に於て、其の場所で公平に討論

事業の發展は和合にあり

して定める抔といふ事は思ひも依らぬ事である。到底さういふ事は今日の場合に於ては出來るものでは無いのである。尤も之れは一方から云へば圓滿に事が行はれるので良いことである、若し何時も討論ばかりして居る樣では感情上の衝突を來し到底一致和協の事は出來ない。即ち社會は個人が同一事情のもとに集まつたものであるから、大いなる弊害のない限りは爭はぬやうにすべきであらう。團體操縱の任に當る者は常に此の邀の消息をわきまへて居らなければならぬ。又實際わきまへて居るから、一人や二人の不平者の爲めに全體事業の發展を妨げるやうなことはないのである。又可否殆んど半ばすると言ふやう事になると、例の下相談で、二三の有力なる反對者をも招き酒杯談笑の間に籠絡して、仕舞ふと云ふ手腕が必要である。斯ることは議會や或は營利上の團體のみでは無い、其の他各營業者の組合團體の如きものにしても、何等營業や利益などの關係の無い場合にしても、既に人が多數集まつて相談するとなると、其の中には必ず策士といふ者があつて、自分の自由勝手に其の間を操縱

策士と元老

するものである。それ等の策士といふ者は概して公平であるとか正義であるとか抔といふよりも、先づ有力なる人々の旗色を臨んで其の人の機嫌を取り、己に利益ある人に諛ひ、其の人の意見に比周して事を爲すといふ傾きがある、其の有力なる二三とそれ等の策士否阿諛者とが寄つて、大體の方針といふものを定めて、初めて其の組合の問題として提出するのであるから、同じ組合の役員と雖も其の役員會の開かれた時には重要なる事柄は既に議決されて居るといつてもよいのである、それを其場に臨んで彼是と言ふて見た所が寧ろ多くの者をして倦厭せしめるといふに止つて居るものである。何れの場合でも先づ元老に壓せられ、錆の附いた者に勝たれるといふ事は如何とも致方の無いことである。議場に立ても政黨に這入つても、錆の附かぬ内は其の人の言論には何人も耳を傾ける者では無い。寧ろ生意氣なる事を言ふと馬耳東風に聞かれて仕舞ふか、或は嘲笑されるに止つて居るのである。

今日の現象では元老たる人策士たる人の自由に任せ、それ等の人の便利

金力萬能

に從ふといふ樣な事になるのである、それが又多くの場合に於て皆金力萬能主義といふ事に陷つて來るのである。政治上に奔走する者は固より金持では無い、寧ろ常に貧乏に追はれて居るのである、それ故に金力の下には如何なる人でも屈服して仕舞ふのである。又各種の會社にしても大株主の下には小株主は皆從はなければならない、又各種營業者の組合抔にしても、金力あるものは卽ち勢力ある者であつて、其の爲には他の者は常に屈服しなければならぬといふやうなことになるので一二毅然たるものがあつても、何の甲斐もないのである。卽ち各種營業者の間に於ては取引上の關係がある、自分に利益ある取引先の感情を傷ふてはならぬからいやでも其の者に反對して爭ふと言ふことが出來ぬといふやうな事情もあり、又同じ營業者の中には、微力なものがあつて常に金力ある同業者に融通をして貰うて、さうして初めて己の營業が成立つて居るといふやうな者もある。さういふ者は其の有力なる營業者の言ふ事爲す事に向つては如何なる事も之れに從つてしなければならぬ。又その有力者

團體操縱者の資格

の犬となることを以て寧ろ名譽のやうに思うて、虎の威をかる狐的の振舞をするものが幾らもある。それで各種の團體を操縱するに於ても常にさういふ工合に自分が恩顧を施して置いて、子分とも見るべきものが多數でなければ自分の意見が行はれるものでは無い、帝國議會であらうと、商業上の會議であらうと皆それである。

先づ其の團體を操縱しやうといふならば金力に於て大いに勝つか、或は抜群なる德望を有して居るか、左も無い以上には何等かの方面に於て恩顧を施して自分の子分と爲し、若くは又其の團體を我が子分を以て組織するといふのでなければ、自分が勝手に之れを操縱して行くといふ事は出來ないものである。

然らば團體は左樣な專横なる二三の有力者にのみ依つて左右されて、如何なる非なる點にも人は永久に沈默して、其の非を遂げしむる者であるかといふに、決してさうはいかない。或る時代に於ては清盛の權勢が全天下を風靡した場合もある、又それ程の權勢を有して居り乍ら、一個の

乳臭兒たる頼朝が起つて其の平氏を全滅した事もあるといふ樣に、不正なる決議や或は專横なる事は長い間を保つものでは無い。東鐵は總會の決議に於ては總て重役等が自分の自由勝手に滿足なる議決を爲したのであるが、會社の決議がどうあらうとも、輿論には遂に打勝つ事が出來ずして、彼等は袖を列ねて總辭職の已むを得ざるに立至つたのではないか。それで不義の天下は詰り長く保つものでは無いと同じ樣に、今日立憲政治の善美なる御代に於て、常に朋黨比周を以てし或は賄賂の爲めに買收されたり、公會の決議前に勝手に決議をして仕舞ふ抔といふ樣な事は、是亦長く續くものでは無からうと思ふのである。

長たる者の資格

尙又團體の長たる者の資格につきて更に詳しく言はうならば、金力の爲に長となり策略の爲に長となるといふ人は是れは別者として、先づ一般に其の團體委員等が同等の權利を有して居るものとすれば、其の長たる者は少くも其の團體各員の過半數を得るだけの德望を有して居る者でなければならないのである。株式會社は固より別である、所謂株數の過半

德望家

數であつて、人間の頭數が十あつても、其の六人迄が小株主であつて、他の四人が大株主であつた時には、其の決議は四人でもつて六人に勝つのである。それ故に必ずしも其の會長組長たる者は、或る程度までは無論德がなくてはならぬけれども、人間として人格高き德望家であるといふ事は出來ないので、金の上から計算して彼れは他の人間よりも金持であるといふ譯合であるが、其の他の公益上の團體抔に於ては、其の長たる者は先づ過半數を占めるだけの德望を有して居らなければならぬのである。例へ又過半數を有して居つても、其の遣り方が下手であるといふと遂に味噌を附けて仕舞ふのである。そこで長たる人は如何にすれば宜しいかといふ問題に立入るのである。

特長を要す

元來人に長たる者は人の爲し能はざる事を爲し得た所の人でなければならぬ、其の行ひに於てか、或は又其の富に於てか、何れか其處に集まつて居る所の人よりもより多い特長を有して居る所から長となるのである。富を別として見たならば、其の人の德行の上に於て他の人よりも秀でた

る行ひが無ければならぬといふ事になるのである。それ故に長たる者は勿論品行が立派でなければならない。料理屋待合遊廓などの組合や、又富に依て長たる人は別として、人に長たる者は人を侮るといふ事があつては勿論人の長となつて居る事は出來ない、多數會合の場合に於ては長たる者は何人に向つても其の賢愚若くは權力の差別といふ樣な眼を以て接した時には常に其の討議や決議が偏頗に陷るものである。それから又人に長たる者は己の利を圖るといふ樣な事があつてはならぬ。己の利を圖るが爲めに自己關係の問題に關して自分に利益ある方に贊成する抔といふ事では、人の長となつて居る事は出來ない、必ず自ら薄うして他に厚うするといふ考へを持つて居る者でなければならぬ。それから感情上の偏頗といふ事があつては是亦人の長となることは不適當なものである。其の決議に於て或は自黨の便利になる樣な決議の仕方をするとか、自分の味方と思ふ人に不利益である樣な言論が出た場合に、之れを壓制して揉消すとかいふ樣な事があつては、人の長となつては最も不適當なる者

傲慢なる勿れ

利己心を去るべし

偏頗なるなかれ

である。要するに極めて公平無私といふ考へを常に頭に置かなければならない。事を議するに當つては、長たる者は殆んど馬鹿かと思ふ程であつて、自分が判斷を下すやうなことはなく、只其の會場或は議事を整理して行くといふ迄に止めなければならぬ。即ち自己の意見を挿む樣なことはせぬがよいのである、詰り多數に意見を述べさせて、多數の意向に任せるといふ考を以て進行させるが主である、如何樣にならうとも其の團體は自分一人の事では無いから、多數の者に宜しい樣にさせるより外には無いのである。是れが即ち人の長たる者の最も心得なければならぬ事であらうと思ふ。

公平無私なれ

漫りに意見を述ぶる勿れ

第十章　人物觀察法

人を見るといふ事は中々困難な事で容易に知り得べき事では無い。大體に於ては善良であるか、或は不良の人間かといふ事は分るものであらう

觀察の困難

が、其の詳細なる事に至りては、我々の今日の知力に於て容易に識る事が出來ないのである。けれども經驗をつむに從つて、何處がどうと指示することは出來ぬでも、正直さうだとか利口さうだとか、陰險なやうだとか位は大概わかるものである、罪人を常に見て居る刑事巡査或は監獄の看手の樣な者は一見して、犯罪者を看分けるといふ事がある。それで東京生活を爲す者は常に各種の人に接する事が多く、又互に利に馳せるが爲めに、色々の人に出遇ふ事もあつて、或は欺かれ或は觀察違ひにて損害を受けたりなどすることが屢〻あるので、自然に人を觀るといふ事も巧みになつて居るのである。

人を觀る明なきものは人に長たる能はず

此の人を觀るの明の無い者は人に長たる事の出來ないものである。苟も一つの仕事をするといふ場合に當つては自己一人の力で出來るものでは無い、幾多の人と相提携して出來るものである。又幾多の人を使用してせなければ出來ないのである、如何なる偉人傑士と雖も、其の子分といふ者が夥多なければ、大いなる名を揚げ大いなる事を仕遂げるといふ事

聖人の觀人法

は出來ないのである。それで多くの子分多くの提携者を有する者程大いなる成功をするのであるから、其の子分とか提携者の選擇とかいふものを十分にせなければならないのである。惡い提携者を有するとか、或は惡い子分であつたならば、如何なる偉人傑士の素質を有して居つても、それ等の子分や提携者の爲めに遂に失敗に終らなければならないのである。そこで人を觀る所の明の無い者は何事に向つても失敗するのである。聖人も此の觀人の法については隨分苦心せられたものと見えて、論語の中などには澤山に說かれて居る。例へば「巧言令色鮮矣仁」といはれ、或は「言に訥にして行に敏なるを欲す」といひ、或は「剛毅朴訥近仁」とかいひ、「不仁者は以て久しく約に處るべからず」といひ、「君子は義に喩り小人は利に喩る」といひ、「惡衣惡食を耻づるものは未だ與に議するに足らず」といひ、其の他其の友を見て其の人を知るといふやうなこともいはれた。また觀察の結果が意外に出たこともあつたと見えて、「苗にして秀でざる者あり秀でゝ實らざる者あり」とも言はれたくらゐで、孔子と雖も人を觀るとい

ふ事は誠に困難なものであると認められたことゝ思ふ。又聖人たる孔子自身も屢〻惡い人間と間違へられ、陽虎と認められて拘はれ、或は桓魋の爲めに殺されんとし、或は喪家の狗の如しと罵られた事もある位で、誠に人を觀るといふ事は如何なる人も困難である者と見える。それ故今吾々が人を觀るの方法を述べた所で、必ずしもそれが肯綮に當つて居るといふ譯にも行かなからうと思ふ。又一々其の方法を盡して居るとも言ふ事は出來ないのである。併しながら孔子も言はれた如く「其の以てする所を視し、其の由る所を觀し、其の安んずる所を察す、人焉ぞ廋さん哉、人焉ぞ廋さん哉」で、之れを八方より觀察すれば人間の本性は匿しおほせるものでなく必ず分るものである。それ故自分の經驗を述べて置くといふ事は、將來東京生活を爲さんとし又は東京生活日尚淺き者の爲めには頗る必要なる事であらうと思ふのである。

地方人士と東京人士

地方土着の人は祖先以來相互隣保の關係を有して居るので、自然鄕黨間に於ては惡人といふ樣な者は少い、又さういふ者は遂に其の鄕里より排

斥されて、土着の一人として算へられる事が出來ないのである。從つて個人的制裁といふものが頗る强いので、性來惡い事をしやうといふ素質を持つて居る者でも惡い事はせないのである。又實際出來得ない事であらう。然るに都會卽ち東京の如き所では永住的の人は殆どなく、いづれも他邦の人の寄り集まりで、それ等の中には或は地方の鄕黨に容れられないで東京に出懸けた者もあらうし、又眞面目なる考へでなく徒らに一攫千金の空想を懷いて東京に出懸けた者もあらう。何れかと言へば野心勃々として、地方の無爲にして平靜なる生活に甘んずることが出來ないといふ人と、所謂地方を食ひつめたるものとが最も多く此の東京に集まつて來るのである。其の集まつて來る人は年々幾萬を以て算へる程で、遂に此の東京が二百三十萬といふ人口に迄も至つたのである。そこで互ひの生存競爭の爲め、又個人的制裁の乏しいが爲めに、地方で善良なる人も、東京に來れば不正不善良なる事をするといふ樣に、已むを得ずなつてくるのである。從つて東京には善い人もあるが、又惡い人が幾十倍

といふ程入り込んで居るのである。固より相當の地位にある者。又相當の地位に昇る位の者は先づ善い人と見なければならないのである、中には策士的詐僞的行爲に依て昇つた者もないとは限らぬが、それは例外であるとして、五年以上一處に門戸を張り居る位の實業家ならば必ず人の爲し得ない善良なる特性があつて、取引先に信用されて居るものと認めなければならない。而かも是等は極めて少數の者で、市街櫛比の商店中にて誠に安全なる靜平なる生活をして居る者は少いのである。其の多くは人を倒しても己れ進まうといふ奮鬪的生活の眞最中にある者ばかりで、是れが卽ち地方と東京との違ふところである。

斯の如くであるから東京生活を營まうとする人は、常に自分の接する人物の如何といふ事を觀察するのを忘れてはならない。

世の中には骨相學といふ者があつて人の人相を見て是れは善是れは不善といふ樣な差別が出來ると唱へる人もある、それ故に外形上の觀察も强ち棄てべきものでは無からうと思ふが、外形上の觀察の爲めに又大いな

外形の觀察は危險なり

る失敗をする事もあるのである、あの人はどうも人相が惡い殘酷でありさうだ、或は好人物でありさうだ、或は神經質でありさうだ、多血質でありさうだなどといろ〳〵批評を下す、其の批評は概評であつて、それは强ち間違つて居る者でもあるまいが、そこに外形を善なる如く粧ひ外形を柔順なる如く粧ふて、人を欺き人を誑かすといふ者が澤山にあるのである。又服裝の如きも富者は富者だけの服裝をしてゐるが、詐僞的行爲をなす窮乏者も人を欺く爲には相當の富者らしい服裝をする者である。それ故に外形だけでは一寸觀察の出來ない事があるのである。あの人は好人物さうな顏附をして居ると言つて其の者に氣を許し、あの人は慥に數萬の財産家であらうと思ふて遂に計られ、又あの人は實に英雄的で立派な人であると思ふて其の者に與みし、そこで自分が種々難儀や損害を受くるといふ樣な事は隨分澤山にある事である。是れが最も東京生活者の注意す可き事である、固より惡相を有して居る者は最初より其の者に與みする筈も無ければ其の者に欺かれる筈も無い、既に惡相と認めた以

上には其の人に近づかぬといふことが誰しも一般の自衛策であるのである。只柔しく麗はしく豪さうに正直さうに見える者に、人は常に欺かれて失敗をするのである。それであるから外形上の觀察といふ者は或る程度に於ては必要であるけれども、大いなる惡事を心に巧らむ者程、其の者の外形は英雄に類し豪傑に類し大人に類する者であつて、其の區別といふものは餘程の經驗を積んだ慧眼者でなければ之れを看破するといふ事は出來ないものである。若しも外形のみで以て見定める事が出來るとしたならば、世の中の醜男子は皆失敗者であつて好男子は皆成功者であるといふ現象になるのである。けれどもそれは決してさうでは無い、孔子ですらも陽虎といふ惡人と誤られ陳蔡の野に苦められた位で、英雄であるから必ず英雄獨特の相貌を備へて居り豪傑であるから必ず豪傑の特相を備へて居るといふ譯のものでは無い。成るほど微細に觀察すれば相貌は心の表象でどこか違ふて居るであらうが、大體に於ては之れを赤裸裸として見たならば別に異なる所がないものである。眞の英雄眞の豪傑

と云ふても飽に平々凡々たる者である。其の風采其の容貌に於て既に英雄と認められ豪傑と認められる樣な者は、淺薄なる者で寧ろ英雄ぶり豪傑ぶつて將を貯へ眼を光らし肩を怒らすので、眞の英傑なるものは決してさういふ者であらうとは思はれない。それで外形上で人を觀察して眞に之れを是非するといふ事は到底出來得べき事では無い。

尤も吾人の經驗上からして、險難の相貌と溫良の相貌との區別は出來やうが、それも道念强く觀察力に長じて眼光烱々として人を射るのと、罪惡心强く人を欺かんとしての眼光烱々とは、容易に區別が出來るものでなく、同じ險難相でも善事の爲めに險難の數を經たるものと、惡事の爲めに險難を犯したるものとは、矢張り見分け難いものである、芝居ですらやうなあのやうな明白な惡人や善人が實際あり得るものではない。

理想の人卽ち道德上より見て完全の人と云ふものは、まだ吾々は現實に之れを見るを得ないのである、只比較的に善なる人が有るのであるが、それとても幾何の善を有して居つて幾何の惡を有して居るか、どれ丈け

心術上の觀察

迄善事を行ふ人であつて、どれ丈け迄不正なる事をする人であるかといふ其の程度に至つては中々に我々はそれを知る事は出來ないのである。そこで觀察の仕方といふものは非常に六ヶしいものになつてくるので、孔子が視、觀、察を說きしを見ても、其の人に接して其の人と語り其の人の行爲を見ての後でなければ、其の人の如何は分るものでない。尤も巧言令色仁鮮しといふ言葉は、一番簡單なる觀察の仕方である、巧い言を言ひ優しい顏をして諛ふやうな人は是れは輕薄な人間で眞面目な人間でないといふやうな事は孔子も言はれて居る、又此の反對に剛毅朴訥仁に近しといふ事をも言はれて居る、朴訥は見ても直に分りさうである、剛毅は其の者の行爲を見なければ知る事は出來ないのである。巧言令色は古今を通じて人が先づ輕薄なる者であると認めるのである。併し是れは敎へとして認める丈けで、其の敎へは之れを知つて居ても、そこが人情の弱點で、其の實際に於ては、人は常に此の巧言令色の爲に惑はされ誘惑され、其の身を誤り其の財產を蕩盡し、又其の事業に失敗するので

觀察は先方の不用意の場合に於てす

ある、實に情ない事で、どうか人が此の巧言令色に迷はぬといふ域に達する樣にしたいものだが、知りつゝ我々は常に此の巧言令色に欺かれて居るのである。人を一人使つて見ても其の最初に於て如才なく旨いことを言ふ者は概して狡猾なる事をする者である、容貌の良い者も矢張り常に其の色に誇つて自らに輕薄に陷いり誠に仕方の無いものである。そこで人を觀察するには數回其の者と交際をし又或る事業に依つて之れを試み又或る意見を吐かしめて之れを試みるといふの外は無い、卽ち觀察者其の人が孔子の如き人で其の先方の行爲の所以を視察し其の所由を觀察し其の所安を察知するだけの明智斷定を要するのである。又觀察は先方が大なる警戒を加へ居る時には正當には出來ぬものである。汝を觀察すると告げなば巧智ある不善者ほど其の本性を顯はさぬものである、學校などで人物査定といふことがあるが、之れあるが爲めに人をして其の本性を包み匿くすといふ巧智奸智を養ふ樣になることがある、從て其の査定が正鵠を失ひ、善良なる人物と査定した其の者が不正なる行ひをする

といふ事が往々にある、又或る師範學校に於て假に入學せしめて、さうして其の人物を觀察して居る事三四ヶ月間にして、彼れは不善良なる人間であるとして之れに退校を命じたことがある。豈圖らんや其の人間は誠に立派な人間で性行學術共に優等であつて、竟に再び其の學校の教官として採用されたといふ例もある。又某縣師範學校卒業生で小學校長を三ヶ月間も人物觀察をして放校を命じた者が善良なる人の師範として、而も三四年の後其の學校に教鞭を執るといふに至つては、人物觀察もあてになつたものでない、是れは畢竟、觀察者其の人の學問德行明智の上に缺けた所があるのと、豫め觀察するてふことを知らしめ置く爲めとの二つであらうと思はれるのである。

若しも人の心が念々其の色を異にするとか其の形ちを異にするとかであつて、それが表面に現はれ又は寫眞に取り得るものであつたならば、人物觀察の苦勞はないであらうが、如何せん非常に複雜なるものであつて

心の狀態は肉體に反影す

容易に之れを知る事が出來ない。尤も單純なる喜怒哀樂は顏の色や筋肉の伸張收斂によりて吾々が知ることが出來るのであるから、外貌の筋肉血液總ての物が、其の人間の心狀態によつて變化せられるもので、恥づれば赤い顏をし、怖るれば青い顏になる、悲む時には口端の筋肉が下に釣れ眉間の筋肉が縮むといふ樣な工合に、如何なる微細なる心の狀態でも必ず外形に現はるゝものではあらう。けれども是れは中々吾々の觀察し得る所の事柄では無い、之れを觀察し得る者は千人に一人萬人に一人と言つても尙且つ無からうと思ふ位なものである、それでどうも此の外形上の觀察といふものは極めて特別の場合特徵のある者の外には、其の人間の心術如何を知ることは出來ないのである。長く其の人と交際して其の長所を觀察するか、又は其の人の言行の一二をとりて精細なる觀察を施すより外には道はないことゝ思ふ。尤も人を觀るに慣れたる者は慣れない者よりは遙に觀察力に富んで居るのである、其の觀察力に多く富んで居てさうして智慧あり度量あるものが卽ち大いなる仕事をし大いな

人を容れよ

る成功をすると言つて宜いのである。如何に人を觀るの明あればとて自己自身が大いに人を容れるといふ雅量が無ければ人をも亦容れる事は出來ず、既に己れに何等の智謀なく又人を容れる雅量なくして、人の善不善のみを彼是言ふて居たならば何千年を經るも遂に善良の人は得られるものではない、即ち何時になつても自己の子分を造り自己の味方を造るといふ事は出來ないので、矢張り大事を爲し大成功を爲すといふ事は出來ないものである。有用の材ある人は隨分あるのであるが、吾々の觀察が不完全なる爲めに、それを使用する事が出來ないといふのが先づ至當であらうかと思ふ。

人を觀れば人にも亦觀らる

こちらが人を觀るといふ事はやがて又人がこちらを觀るといふ事で、こちらのみが人を觀て彼れは斯うであるあれは斯うである、それ故に善いとか惡いとか言ふて見た所で仕方の無い事で、先方も亦こちらを觀て、彼れは斯ういふ性質である彼れは斯うであると言つて矢張り同じく毛嫌ひをする事になつてくるのである。折角觀察の眼を有して居ても、それが大眼識を有して居らなければ、只一種の毛嫌ひと

先づ其の長所を觀よ

いふ事に陷つて仕舞ふのである。それで先づ前申す通り人に長く接する、さうして第一に其の人の長所善所といふものが何處にあるかといふ事を最初に見なければならないのである。さうして其の善所長所をば之れを如何に利用す可きかといふ事を深く考へなければならない、こちらが人の長所善所を認むれば先方も亦こちらの長所善所を認むるもので、そこに初めて互ひに善感情の結合といふ事が出來て來るのである、長所善所を觀るは最も易い事である、さうして又何等の害の無い事である。然るに最初に於て短所を觀るといふ事になると、一の短所の爲に十も百もある所の長所を皆捨てなければならぬといふ樣な事になる。さういふ樣な觀察の仕方をするならば到底善人を得られるものでないから、人を觀察する必要は無いのである。畢竟人を觀察しやうといふ事は、自己がそれと與みしそれを子分として、かくして世に大いなる成功をしやうといふが爲めのものである。人相見として人を觀る事は此の章の說く所では無い、自己の味方を求むるが爲めに如何にすれば良い人が得られるかとい

ふ實際問題を説明するのが主である。それ故に先づ人の長所善所を觀よといふのである。そこで十分に長所を見て次に其の短所を觀察して置かなければならぬ、それは其の人間を棄てるが爲めにするのではない、その短所を知つて之れを警戒して居らぬと、他日意外な迷惑を見ることがあるからである。又其の短所といふものにも本人が全く心附かない短所もある、又その教育の程度が低いが爲めに、さほど不善なる事不正なる事と思はぬ場合も澤山あるのである。即ち之れを教育すれば直るといふ短所であつたならば、宜しく諄々として其の短所を矯正されるが宜しいのである。併し人には又教育しても直らない短所もある、又既に青年の折りに教育すれば直る可きものでも、其の年輩が教育の時期を經過して既に病疾となつた者も澤山にある、それが長所に打勝つ程の短所であつたならば、是れは其の人を捨つ可きものである。其の短所よりも長所の分量が優つて居るとしたならば、又之れを利用する方法を講じて捨てなくても使ひ樣があらうと思はれる。

次に短所を觀よ

教育し得べき短所

以上述べたる事は是れは一般の觀かたであつて、長所善所と言ふも極めて漠然たるもので、短所といふも亦極めて漠然たるものである。其の長所は甲の人には利益があるが、乙の人には不利益であるといふ場合もあらうし、其の短所が甲の人には短所として排斥さる可きであるが、乙の人には長所として認められる樣な場合もあらう。

人間觀察の標準

個人々々に付いて觀察せんとならば、今少しく具體的の標準を求めなければならぬ。

第一には其の人間は神經質であるか多血質であるかといふ事である、之れも科學的に精神の分量を定めていふのではない、世間普通に云ふところを標準として云ふのである。

神經質

神經質の者は或る場合には非常に熱心になるが、又或る場合に於ては非常の冷靜に陷いるものである。一方に熱心なる者は一方に於ては必ず冷靜なる者である、能く世間でいふあの人は熱心であると、だが熱心であるといふ以上に、他の方面から云へば冷淡なる人であると觀なければな

熱心なる人は又冷淡なる人なり

らぬ、熱心ならば其の精神が或る一方に傾注されて居るので、他の方面には案外冷淡なわけのものである。又其の熱心にも色々ある、つまり一時の興味に依つて熱心であるといふのと、誠の信仰上から來た熱心といふのがある。信仰上より來る所の熱心は永久的であるけれども、興味から來る所の熱心は一時的のものである。又神經質なる者は嬉しい事にも非常に感ずるが、怨みに思ふことも亦非常なものである。即ち或る場合には大いなる味方であつて、或る場合には大いなる敵であるといふ事を心得てゐなければならぬ。併し乍らそのものが向上心が強くて信仰の念慮が深く、精神修養を十分に爲したる場合には、事に當つて誠に熱心でさうして不正なる事は少しも無く一時的なる事も無い、それであるから一概に神經質の者であるからとて排斥す可きものでは無い。要するに其の人間の修養如何を見なければならない、其の人にして向上心が強く善を求むる心が強いならば、是と與みして事を共にし之れを子分として働かせても何事の迷惑を見るといふ事はないのである、併し乍ら此の質の

精神修養の必要

人にして向上心乏しく善を求むる心に乏しいとか、或は極めて修養の淺い者であつたならば、是れは決して與みす可き者では無く、又子分としても使ひ悪いものである。其處が即ち觀察者其の者の智力判斷にあるので、容易にそれを知るといふ事は出來ないのである。

多血質

多血質なる人は一見しては、誠に機敏を缺いて居り癡鈍であるかの如く見えるけれども、その代り危險少なく同一の歩調で永くつとめるものと見て差支はないのである。仕事は遲い、仕事は遲くとも能く長く續くといふ事は此の質の人に多いのである。神經質の者は其の活力は一時に興奮して、又間もなく消滅するといふ事があるが、多血質の人は體力の善良なる爲めに活力は常に十分であつて、それが或る一ッの事に向つて劇しく興奮するといふことの少い代りに、又或る事に向つて奮闘力の衰亡するといふ樣な事も無い、仕事に長く耐へ艱難をも左程の艱難とも感ぜず、苦痛をも左程の苦痛とも感ぜず、從つて急劇なる變化の起る場合にも働天するといふ樣な事は無いのである。斯る人は遂に能く成功する者

體質と成功

陰險なる人物

遺傳教育境遇

であるが、咄嗟の場合に氣持の善いきび〳〵しい敏活な働きをするといふ事は到底出來ないものである。其の點に於ては神經質の人に劣る事は數等であると言はなければならない。

第二には陰險であるか好人物であるかといふ事をも見なければならない。陰險なる者は又それだけ働きもある。けれども時として非常なる躓づきを人に及ぼす者である、怨みも口には出して言はぬが、その返報をたくみて恐ろしい損害を人に與へる樣な事があるのである。畢竟陰險といふ事は、己れに對する處置に對して其の怨みを報ゆる方法が甚だ巧妙なるので、自ら直接に先方にわかるやうにはせないで、遠廻しに敵を苦しめ其の結果を見て心に非常にうれしく感ずるので、何れかと云へば冷酷なる殘念なる性質の人である。かゝる人は又一方には非常に自利心が強いのである、他を乘せて置いてさうして己れの利益を計らうといふ事もあるのである。是れは體質から來るのではない遺傳教育境遇から來るのが普通である。かゝることを爲すものは元來冷靜で思慮分別が頗る深く落

正直と不正直

貧民

着いて窃に事を巧らむのであるから、比較的に神經質の人はそこまで忍んでたくらむことは出來ないのである、けれども神經質の人は些かの怨みにも一時に赫として他日大いに後悔するやうな危害を人に及ぼすことがあるのである。眼底に深き黑光りを有するやうな人には、かゝる陰險の策を有するものが多いと昔から言ふて居るから餘程注意す可きものであらうと思ふ。けれどもそれも教育の如何に依つて遂に除き得べきものであらうから、場合によりては教育し得ぬとも限らぬが、既に性となりては又如何ともなし得ぬものである。

第三には正直であるか無いかといふ事である。是れも亦非常に教育に關係する事である、此の正直不正直といふことはどうも其の人の體質に關係するとは思はれぬ、全く遺傳と教育によるものと思はれる。自分の經驗する所に依て見ても、貧家に生れた者は割合に盜み心が多い。又家庭の紊れて居るとか親が變つて居るとかいふ家に育つたものは、僞りごとをいふことが多いやうに思はれる。それで其の者が貧家に生長した者で

家庭紊亂

あるか、或は我儘育ちの様な者であるかといふ事を觀察する必要があるのである。裕かなる家に育ち圓滿なる家庭に育つた者には、病的以外に於ては盗み隠すなどいふ心は少ない。家庭が圓滿でないとか、隠しだての多い紊れた家庭に養はれた者、又は極めて貧しく育つた者、及び其の親たり祖父母たる者に窃盗心があつたといふ者の子供は、先づ概して其の習慣とか遺傳とかを受けて居ると見なければならない。併し是れとても一概にさうは言はれない、貧民と雖も誠に正直なる者で、只才智技能が十分でないばかりで常に貧乏してゐるといふ者も澤山にあるのである。唯惜い事に貧の爲に盗み心が出來るといふ事はどうも已むを得ぬ事で、即ち生活難が其の者を驅つて其の事を行はせるのである。それが圖らずも遺傳して子供に迄も及ぼし、又は圖らずも子供が見習ふといふやうな事に陷り易いのである。尤も是れは前申す通り教育に依て如何樣にもなるものであるが、惜い事に貧家に生れ或は親が無いとか他人の手に育つたとかいふ爲めに、十分に教育を受けることが出來ないので遂に生涯を

精力程度

誤るのである。教育に依つて正直の尊い事不正直の最も賤しむ可きものであるといふ事を吹き込れた者は、自然に不正を厭ふといふ心が盛になつて、其の悪い心も改められるものである。

第四には精力程度を見るといふ事である。人の精力の強い者は何事に向つても事を爲し遂げるものである、此の精力も何れかと言へば、神經質の者よりも多血質の者に多いのである、一時的の精力は神經質の人と雖も振るふ事が出來るけれども、それは長く持續することがなくて間もなく疲れて仕舞ふのである。茲に謂ふ精力なるものは永久的精力であつて、此の精力の最も強い者が他日の成功を荷ふのである。一人の小僧を使はうといふ場合にも自分は常に此の精力といふことを先づ頭に置いて居るのである。東京生れの子供と田舎の子供との精力を比較して見ると、東京の子供は田舎の子供よりも遙に精力が乏しいのである。尤も東京で生れたと言つても東京に多年生活をして生存競爭の激烈なる中に生れた子供と、又斯る窘困苦辛をしない人の家に生れた子供とは大いに違ふので

あるが、此の奮闘生活を多年續けた者の子供は、既に親其の者が精力を消耗して居るのであるから、自然に其の子供にも精力の乏しい者が出來るのである。概して言ふたならば東京の子供は一寸の掛引應對は巧みなる者であるけれども、其の精力の點に至つては到底地方の清良なる空氣と十分なる運動と平和な生活との間に生れた子供には遠く及ばないものである。それで一人の小僧を使ふにも地方に於て多年田園生活をした者の子供を用ひるといふ事が最も宜いのである。東京に於て成功する人の多くは、地方に於て祖先以來農業に從事したとか或は極めて生存競爭の少い地方の都會に生れたとかいふものである。無論身體は健康でなければならぬ、十分なる健康なる者であれば精力も自らに強いのである。併し幾ら精力が強くとも其の人間が餘りに總ての事が粗雜では困る。そこで、第六には思想が粗雜であるか緻密であるかといふ事も見なければならぬ。如何に勢力がつよくとも其の人間が頭が粗雜では之れ亦何事も成功せぬのである。一方に長所があれば又短所のあるもので、田舍に育つた

粗放と緻密

口の人と手の人

者は體力精力に於ては十分であるけれども、兎角生活の簡易で容易なるために大まかに育ち、やり放しの放縱的習慣のものが多い、かゝる家庭に育つたものは、事に當つて締めくゝりなく、緻密周到を缺くといふ事がある、緻密でなければ東京生活に於て成功する事は出來ないのである。單に大まかな事を言ふても尻の締括りが無ければ、何事をしても遂に徒勢に歸するといふことになる。それ故に先づ其の人間が粗雜であるか緻密であるかといふ事を見て居なければならぬ、一枚の紙も之れを粗末にするのと大切にするのとで直にその兩者の前途將來が觀察し得るのである。一錢の錢も之れを貴び惜へるといふ事と、持てば直ぐ費消して仕舞ふといふ事でも分るのである。

第七には口の人であるか又手の人であるかといふ事も見なければならぬ。人は言ふよりは先づ行はなければならぬ、所がなま半可の教育を受けて理窟の一端を知るが爲め、何事にも口が先き立つものがある。かゝるものは、口には巧みな事を言ふても、己れそれだけの實行が伴はないと云

ふやうなつまり懶惰者と見做されるのである。口には物を言はぬでも、そのする事が常に責任を完ふするといふ樣な性質の者でなければ、此の東京に於て成功すると云ふは困難である。

教育の有無

第八には教育の如何といふ事を見なければならぬ、教育の乏しい者はどうも向上心が乏しい、從つて惡い事を惡い事とも思はずするのである。

友人の善惡

又意志の弱い者は惡い事であると知りつゝ惡い事を行ふのである、之れも天稟によるといふよりは、教育や惡友の感化による方が多いのである。

意志の强弱

如何に働きがあつても、教育の乏しい者は、善なる働きと共に又惡なる働きも之れに伴ふので、途に自分のした善を其の惡を以て打消して仕舞ふといふ事がある。かゝる意志の薄弱な者や教育のない者や惡友を有するものは、到底事を共にすることも出來ず、又事を任せることも出來ないのである。そこで何處迄も意志の强固で向上心の盛んなるものを選びて、是れと與みし之れを用ひるといふ考でなければならぬ。然るに惡い人間程口には巧い事を言ふて、如何にも自己は精神修養を重んずる如

向上心の有無

く粧ひ、自ら向上心が大切であるなどと言ふて、扨て其の行ふ所はいつも口に反してゐるといふ樣な事がある、是亦常に注意して、果して彼れは向上心が十分であるか無いかといふ事を見なければならない、向上心が十分であれば其の人の爲す所の仕事は常に眞面目である、向上心の無い者は何事をさせても不眞面目である。偶〻仕事をするにつけても仕事其の者を馬鹿にして居る、或は命令された場合にも其の命令を侮つて居るといふ事がある。これはまだ職務の大切といふ事をも知らず、又他日尾の上に立つて人を用ひ樣といふ將來の考へをも有して居らぬ者である。目前の勞力對報酬の比較關係を以て働くといふ冷靜なる振舞のみにて、人をして高義に感ぜしむることも出來ず、同情をよせしむることも出來ない、折角の働きを有するに拘らず、遂に浪々の身を以て生涯を終るに至るもので誠に惜しむべきものである。

職分の觀念

人は此の世に生れて來れば何等かの職務といふものが無ければならぬ。一つの仕事に從事すれば、是れは天が授けたもので自分の職務である、

輕薄者流

天が吾々を此の土に出したからは吾々の職分は又天の命ずるところのものであると云ふ職分の觀念を高き處に認めなければならぬ。これは人の命じたものである、金の爲めであるといふ樣な考へを持つ者は、自ら己れの仕事を賤しむもので、かゝる人間は金が少なければ少しだけ働き、多ければ多いだけに働くといふ、輕薄なる行ひをなして少しも良心に恥づる所がないのである。職務といふものは中々左樣な卑賤なものでは無い。吾々が此の世に生れ出たからには無爲徒食すべきものでない、天が吾々を此の世に出したる大御心を酌んでゆかなければならぬ。人の爲めに止むなく働くとか、金の爲めに止むなく働くとか云ふ卑劣の考へでは、天も亦快からず常に彼れを失意の地位に立たしむるやうになるのである。世間には俸給が少いと不平をこぼし、或は仕方が無いからやるとか、言付けられたからやるとか、頼まれたからやると言ふ、さう言ふ樣な事では己れの出世は到底出來ず、永く人に信用されるといふ事も出來ないのである。さういふ人は一時の使用には便利である、君に幾ら金を遣るか

投機心の有無

ら此の事をやつて呉れぬかと言へば、好承知致しましたと言つて、其の金に對するだけの事をするのである、是れは或は亞米利加式であつて外國では宜いかも知らぬが、日本の如き長い歴史を有して居る所謂家族的社會に於ては其の樣な事では何事をも出來るものでは無い。尤もそれが營業であるとか、或は臨時に雇はれたとかいふものならば格別であるが、苟も其に事をなさうとか永く人に使傭されやうとかする場合に、其の樣な輕薄では自分の成功は到底出來ないものである。

要するに何事に當つても、人生の務めとして働くといふ高い向上心を有して居るものでなければ、成功といふことも出來ず、人の長上になることも出來ないのである。

第九には投機心の有無である。精力の强い者程普通の些々たる事に向つて長い忍耐といふ事を爲し得ない傾きがある。卽ち一攫千金の利を得やうとか、一躍して伯爵にならうといふ樣な空想を起し易いものである。さういふ人は得て大事業を企てるとか、或は相場株式等に從事するとい

ふことになるのである。順次に自己の地盤をつくるとか、又正しい正業で僅に二分三分の口錢に依つて身を立てゝ行かうといふことは至つて不向な者である。又一時心棒しても遂には其の大膽なる投機心から大失敗を來すといふ事があるので守成の事に當らしむべきものではない。

趣味の高低

第十には其の者の趣味を知る事である。其の者が清高なる事に趣味を有して居るか、或は下等なる事に趣味を有して居るかである。茶屋遊びを以て愉快とする人もあり、吉原通ひを以て愉快とする人もある、或は歌俳諧を以て自分の樂みとする人もあり、碁將棋を以て樂みとする人もある、或は美術文學を以て樂みとする人もあり、又全く遊樂のことを嫌ふものもある。そこで

其の趣味の程度の低い者は又それだけ何事に向つても低い方面に流れて行くものである、趣味が高ければ自然に惡い事もせない、趣味が低ければ其の低い趣味を滿足せしむるが爲めには、窮すれば如何なる事を仕出かすか分らぬのである。畢竟事を誤り身を誤り世を誤り、負債を造り或

經歷を知悉すること

友によつて其の人を觀よ

は財産を失うといふものは、其の者の趣味が清高でなく、情慾にふけり金錢を湯水に使つて一時の遊興に耽けるから起るので、固より共に語るに足らぬ人間と見るの外はないのである。

第十一には從來の履歷を深く知るといふ事は最も必要である。殊に世の中には渡り者といふがあつて、甲の地で色々の事をして散々人に迷惑を掛けて、更に又乙の地に來て如何にも殊勝らしく立働いて居る內に、いつか本性を現はし人を騙かしては丙の地に行くといふ樣に、一定の道德思想といふものを持つて居らない者が能くある者である。そこで從來の經歷を知らぬといふとツイそんなものに引きかゝつて大いなる迷惑を見るのである。それ故に自分が交際して行かうとするには其の者の以前の經歷を十分に知つて居なければならぬ。

尤も自分が深く信用する人が其の者を知つて居るといふ樣な場合であれば、是亦氣を許して交際をしても宜しい、卽ち孔子の所謂交る友を見て其の人を知れであるから、其の者が以前から交つて十分確な者であると

いふ紹介があれば、是れは先づ信じて事を共にするに足りるのである。併し隨分友人の間にも無責任なる者があつて、從來深く知つて居る友人でも無く、ホンの三四年間時々交際して居て深く知らぬのに、彼ならば確かであると言つて人に紹介して、飛んだ迷惑を掛けるといふ事がある。其の者の身元も知らず財産の如何も知らず、ほんの二三年來の交際であるといふならば是れは眞の友人では無いのである。さういふ者を漫に人に紹介するといふ事は宜くない事である。併しながら其の者に對して交際のある數多の人々が何れもあの人間は確であるといふか、又は世間一般の人があの人間ならば、斯ういふ事は任せても宜しいといふ定評のある場合は、是れは自己の交際の有無に拘らず、其の人間は信用のある人とせなければならぬ。吾々は今日世に立つて事をして居る人に知らぬ人が澤山ある。けれども直接には知らぬでもあの人に斯ういふ事をやつて貰つたら宜からうと思ふ事が澤山あるのである。それは或は澁澤であるとか、或は森村であるとかいふ樣な人は既に世間に定評があつて、其の

定評ある人物

人は世間に對する責任として、到底不正な事は出來ないといふ相場の定つた者で、斯樣な人ならば是れは又別な者で安心して仕事も任せ事をも共にして宜しいのであるが、遺憾乍らこちらは其の人をと思つても先方がこちらを知らぬ場合は矢張りそれは出來ない事である。それで吾々は常に友人を選んで交り、常に多くの人と交際す可き必要があるのである。第十二には人の嗜好品を知るといふことが必要である。酒を嗜むか、烟草を嗜むか、或は女か或は男かといふ事に着眼する事が必要である。烟草は一種の慰み草といふに止まるが、酒と來ては人を興奮させてさうして人を狂はしめる者である。酒の爲めには平日如何なる善良の人でも飛んだ失敗を來し飛んだ感情の激昂を生じて、さうして意外なる迷惑や危害を人に及ぼす者である。それ故酒が嗜きだといふ樣な者は餘程警戒を加へなければならぬのである。尤も人に依つて酒を如何に用ひて見た所で、亂に至らずといふ立派なる人格の人もある。それ等の人は先づ多い者では無い、世間一般から言ふと酒を飲む者には間違が生じ易い、元來

嗜好品を觀よ

酒色に對する警戒

酒なる物は人を墮落せしむる所の媒介物であるから、さういふ物を用ひる青年は概して人より警戒される者と思はなければならぬ。殊に人間の意志が柔弱で色香に迷ひ易いといふ樣な人は、是亦働きがあつても大いなる警戒を加へないと、其の色香に迷ふたが爲めに遂に人に非常なる迷惑を及ぼし、自己の生涯を過り身命に迄大關係を來す樣な事があるものである。明治維新の際の如く世の中の秩序が全く破壞されて、さうして新に建設されるといふ樣な時代には、隨分英雄色を好むとか豪傑酒を好むといふ樣な事を以て豪放磊落時事を談じて口角泡を飛ばし、自ら英雄とし豪傑とし人も之れを許したやうのことは、今日の如き完全なる秩序ある社會では許さぬばかりか、自己の生存が出來なくなつて來るのは必然である。尤も現今でも腐敗したる政治社會には斯の如き人があるかも知れぬが、實業社會は既に秩序が完全に立つて、人は何れも眞面目に働くといふのでなければ、人にも信用されず人に使はれる事も出來ず、世に立つ事も出來なくなつて居るから、今日の青年たる者は、此の點に於

ては深く注意せなければならぬ。己れにさういふ墮落の分子を含んで居て、さうして之れを包み匿して人の信用を得やうといふ事抔は、田舍は知らず、活馬の目を拔かうといふ樣な東京人士は、一見してその缺點を觀ぬく事が出來るのである。

社會の成立と女子

第十一章　女子及び其の利用法

人と言へば誰しも先づ男子の方面に考へを廻はすものであるが、人といふは男子のみでは無い、男女總括の意味であることは言ふまでもないことながら、兎角女子を無視する傾きがある、從つて男子のみが豪いやうに思ふが、此の社會といふ者は男子のみでは成立ち得べきものでは無い、男子と女子とに依つて成立つて居る者であるから、男子も女子も共に社會の成立といふ上から言へば、少しも其の間に地位の違ひは無い筈である。併し地位の違ひが無いからと言つても、其の職分に於ては男子と女

男女職分の相違

子とは自ら異なりがあるのである、其の身體の構造の異なると共に、其の職分も亦異ならなければならぬのである。尤も人類發生の初期に立至つて見たならば、男子も働き男子も子を育て、女子も働き女子も子を育てたといふ事は、男子が胸に乳房の形跡を存して居るのでも分るといふ事は、進化論者の能く言ふ所である。漸く進化して來て分業と云ふことになり、男子と女子とは自らに其の働きを異にして來たのであらう。即ち男子は多く其の食物を得る爲に働き、女子は子を生み之れを育てるといふ方面に働くといふことになつて來たのである。それは今日でも其の大體に於ては變りが無い、男子は衣食の供給の方面に於て專ら務める、單に自己の爲めのみではない、女子を保護し衣食せしむるといふ點に於て働いて居る。女子は子を生み之れを育て、然る上に更に男子をして外に働かしめる爲に、内に於て其の男子が奮鬪を爲すに必要なるだけの衣食の調理整頓を圖つて居る者である。此の如く各〻其の職分といふ者は違つて居るけれども、社會組織の上よりすれば男子も女子もどちらも其

の地位に高低といふ者は無いのである。殊に人類社會の存續の上から見たる女子が生育の任務は中々に豪い者であつて、勿論男子をして之れに代らしめるといふ事は困難である、男子の仕事は時と場合に依つては女子と雖も之れを爲し得るけれども、女子の仕事は男子に於ては爲し得る事が難いのである。さればと言つて男子より女子が豪いとか、女子より男子が豪いとかいふ事は言はれない、兩々相俟て人類の繁殖といふ事が來るのである。實に天然の理法に於てはどちらも相等しい所の地位に立つて居るのである。併し女子と男子といふ者は自らに其の職分即ち働きを異にして居るといふ事は今日に始まつたことでなく、幾千年以前より或は幾萬年以前よりして其の働きを異にし來つて居るのである。それが爲めに其の働き即ち職分の上からして、自らに其の性質といふ者も亦異なつて來て居るのである。女子がその子を孕くみ育てゝ行くといふことは餘程の慈愛と同情といふものが無ければならないので、女子は又其の職分を行ふ事が今日にまで繼續して居るので、從つて女子の性質といふ

男女性質の相違

慈悲同情に富む

者が又常に同情と慈愛とに富んで居るのである。確に男子よりも同情が深い男子よりも愛情が深いと言つて宜からうと思ふ。男子は女子と異なつて常に自分の家族を保護する爲めに衣食住の材料を取り集める、從つて常に外敵と戰ふといふ遺傳を受け來つて居るので、奮鬪的に勇猛に出來てゐる、是れも人類の初めより今日までさういふ風な働きになつて居るのであるから、自然に意志が强固となり體力に於ても精神力に於ても十分外敵に勝つといふ勇猛性が養はれて居るのである。斯の如く性質に於て遺傳的に男子と女子といふ者は異なつて居るのである。然るに世間では女子といふ者は誠に男子の玩弄物の如く、男子あつての女子といふ樣に解釋して、女子を尊重するといふ念慮の乏しいのが先づ普通である。歐米の舊史を見ても、日本の歷史に見ても、支那の歷史に依つて見ても どうも女子といふ者は人といふ上に於ては甚だ價の無い者の樣に考へて居られたのである。孔子も女子と小人は養ひ難し、之れに近づけば不遜の行爲を爲し之れを遠ざければ怨むといふ位に、誠に同じ人間の樣に女

女子に對する舊思想

子を見て居らなかつた。男子と同等なる者とは見て居らぬと言ふわけではないが、男子中の小人と女子といふ者は相匹敵して居る者であるといふ樣に考へて居つたのである。今日でもさういふ考がどうも脫けないのである。之れは男女の性質を區別しないのと、又其の職分を區別して考へないと言ふ誤認から來たので、專ら奮鬪的性質の男性の勇猛心を標準として、女子を無能力者と誤解したものと言はなければならぬ。

既に今日の知力を以て女子も男子も其の位地の高低が無いと斷定した以上は、男子が尊重す可き者であつたならば、女子も亦尊重す可き者でなければならないのである。男女共に其の價値に於て決して變る所が無いのである。それが從來どうして女子といふ者が左程に尊重されなかつたかと言ひますと、男子は常に外界に働いて居るだけ、それだけ外界の刺激を受ける事が多く、知識の交換も最も盛に行はれ、體力も最も强健でなければならぬ所からして、自然に男子の智力體力が女子よりも優つて來、其の爲めに男子と女子との智力の懸隔が漸々著しくなつて來たので

ある。併し乍ら今日の如き人爲の敎育を施す世の中になつては、どちらも同じく人間としての能力を有して居る者だから、之れを敎育して見れば同じ事に敎育し得るといふ事が明かに證明され旣に敎育されてゐるので、決して女子は男子より劣る者でもなく、又女子の任務は男子よりも輕い者でもない、女子の地位は男子よりも低い者でもないといふ事は一般に認められて來たのである。

男女は同權なるか

然らば男女は同權であるかといふ問題が起る。私は男女は無論同權であらうと思ふ。女子は男子よりも權利は低い者であるとか、男子よりも地位の低い者であるとか、職分の賤しい者であるとかいふ事が言はれない以上は、男子も女子も同權の者であると言はねばならない。所が之れに就ては非常なる反對說が起つて來るのである。歐米に於ては男女同權である、或る場合に於ては女尊男卑といふ程に迄なつて居るが、それは誠に宜くない事である、男子と女子と同權であつたならば、一家に於ても常に爭ひが生じ互に權力を爭はなければならぬ、一家に二人の主人が出

男女は同權なり

權利は絕對のものに非ず

來て誠に仕方が無い樣な事になるではないかといふ樣な事がある。それは一應は尤であるが、又それは誤解といはねばならぬのである。私の言ふ同權といふ事はそれとは違ふのである。元來權利といふものは絕對のものではない、其の職分があるから其處に權利といふ者があるのである、義務といふ者があるから其處に權利といふものが生ずるのである。女子が子供を育てる上に於ては育てるといふ職分があるから、其の子供を育てる上に於て大いなる權利を持つて居るといふ事は是れは當然である。其の職分に對する權利があるとして、男子と女子とが同じ職分を有した時には同じ事に向つて、どちらも同權であるのである。其の職分が異なつた場合に於ては、男子の職分に對して女子が男子だけの權利を持つことはそれは出來ない、元來權利といふ者は、其の職分を行ふ者の其の職に對する權利であつて、空に權利といふものが存在して居る譯のものでは無い、だが己れの職分に於ては勿論責任あるだけそれだけの權利を有して居るのである。己れの職分以外の事に向つて權利を振はうといふ事

同權の誤解

は、それは義務なく職分なき場合に空に權利を振廻すといふ事であつて、是れは亂暴と言はなければならぬ。權利のないところに權利を振廻すといふは是れは白癡か狂癲者であると言はなければならぬ。之れを誤解するから男女同權抔といふ事に付いては非常なる間違ひを來すのである。女子は男子の職分に對しては決して男子と同等たる權利を有し得べき者では無い、男子も亦女子の職分に對しては同等なる權利を有するといふ譯にはいかないのである。尙ほ分り易く言ふて見たらば、玆に男子にして一個の商店を開いて居る男がある、又同じ業務の商店を隣の女子が開いて居るとしたならば、此の場合に於ては男子も女子も同權と言はなければならない。廣い意味に於て人間として、男子と女子と權利が違ふか、地位に高低があるかと言へば、如何なる人と雖も平等である同じ者であると言はなければならないのである。そこで今男子の商店と女子の商店との點に付て言ふたが、此の二軒の商店は其の商店間に於て主從の關係がある譯でも無い者として言ふたのである。然らば兄弟ではどうである

か、兄と妹といふ樣な場合であつたならば、兄も妹も同等の權利であるから妹は兄の命令を守る義務は無いと言ひ得るか、又夫婦であつたならばどうであるか、夫も妻も同等の者であるから、妻は夫の支配を受ける義務が無いと言ひ得るか、親と子とであつたならばどうであるか、男女同權であるから親の支配は受ける義務が無いと言ひ得るか、是れは何人が聞いてもさういふ事は無法な事であつて、若しそのやうな理窟が立つとしたならば、男女同權といふ者は社會の秩序を紊亂する事であつて、誠に不條理千萬なる事と言はなければならないのである。同權といふ者は相互宗族的關係もなく同一家庭の家族的關係もなく、主從の關係も有せざる場合に於てのみ言ひ得る事である。若し主人が女で從者が男であるといふ時は、其の從たる男は必ず主たる女の命令に服從して、主たる者の爲めに盡さなければならぬことは明かなることである。家族に於ては勿論の事である、一家の主人といふ者があれば、其の家族は皆主人の命令の下に服從して一家の爲め主人の爲めに盡さねばならぬものである。

服從すべき場合

其の場合に於て總ての家族が主人と同等の權利であると言ひ得る事は出來ない、親子に於ても、親族に於ても、宗族的關係に依つて親類協議をなす場合には甥は伯父の言ふ事を聞かなければならぬ場合がある。それ等の事は決してそれを聞かぬでも宜しい同等の權であると言つて主張する譯にはいかないのである。

元來社會とか家族とかいふものは一人で組織して居るものでは無い、共同的集合的の者である。既に多數が共同するとなれば、其の中には必ず之れを統一する所の中心といふ者がなければならぬのである。又統一すべき人がなければならないものである。其の統一者は社會とか軍隊とか家族とかを保護訓練して其の福祉を增進するものであるから、其の統一者の命令には被統一者は服從の義務といふものを有するのである。親戚間に於ても宗族關係の長者にはそれ以下の者は先づ從はなければならない。又他の富の問題から言ふても、富の少い者が富の多い者と共同して仕事をやる時は富の多い者に服從しなければならぬといふ事が起るのは

自然のことである。それで男女同權といふものは、雙方何等の利害關係の無い、互ひに社會の一個人として抽象的に言ひ得るのである。けれども既に其の職分を異にした場合に於て、他の人の爲す職分に向つて己れが權利があると思ひ、又は一家族を形ち造つたときに、家長に對して家族が同等の權利があると思ふのは、それは所謂男女同權の意味を全く誤解した者と言はなければならぬのである。扨て又個人間に於ては男子も女子も同權であるとしたところで、今日では體質に於ても能力に於ても、たゞ同等と認むるといふだけであつて、實際に於ては婦人を尊重せよといふに止まるものである。また男女同權などといふ事は實際に於て餘り見善いものでは無い。女が髭を生やし女が肩を怒らすといふ樣な事は亞米利加抔にはあるさうであるが、亞米利加全體を通じて見た所で、そんな人間が幾人あるか、それらは女性たる本分を盡すことの出來ない「オールドミス」といふ一種の執拗ものであつて、只空威張をするといふに止まつて、常に男子より敬して遠ざけられつゝあるのである。

眞正なる日本婦人

眞正なる日本婦人といふ者は左樣な者では無い。獨り日本婦人のみならず日本の男子も、東洋三千年來の道德の根底からして、左樣な我利々々的權利を良しとする樣な敎へは受けなかつたのである。元來が歐米の樣に權利思想の奬勵とか、權利思想の發達とかいふ樣な事は、昔の聖人からして敎へて居らぬのである。孔子曰く、君子は、溫良恭謙、讓りて以て之れを得たりと言はれた程で、敢て權利を主張せよといふやうなことは敎へなかつた。此の溫良恭謙といふことは實に結構なる事であつて、

溫良恭謙

讓つて以て之れを得たりと云ふ其の讓るといふ事は既に權利を認めて居つてのことであるから誠に結構なる美德として居るのである、又實際之れを以て美德の行ひと認めぬわけには行かないのである。歐米の諸國の如く權利思想の發達した所では、偉人基督の敎へがあるに拘らず、讓るといふ事は其の賤しき權利思想の爲めに出來ないのである。讓る所では無い是れは我が取る可きものとして爭ふのを以て豪いとして居るのである。既に女子が髭を生やし肩を怒らし、男子に靴の紐を結ばせて、

讓る行爲は權利を認めて後に起るものなり

得々として居る樣な譯であるから、到底溫良恭謙、讓つて以て之れを得たりといふ樣な事は、夢にだも知つて居らぬ。彼等に此の美德を話したならば實に意外に不思議がるであらう。併し是れは東洋の美德である、否、世界に誇るべき日本の大美德であつて、三千年來日本が今日の善良なる風俗を維持して來たといふものは、誠に斯る美德があつたればこそである。若しも日本國民にして斯る美德が維持されないで、權利の思想が發達して來たならば、不祥ながら日本の國は萬世一系の皇室を戴いて、今日名譽なる世界無比の歷史を有する事は出來なかつたらうと思はれる。假に德川時代に於て日本の國民が權利思想が發達して居つたとしたならば、德川氏三百年の壓制に甘んじて居る者は無い、又三千年來の長い間には、國民は幾度塗炭の苦みを受けて居るか知れぬ、其の都度權利を主張する樣な人間があつたならば不吉なる歷史も日本に生じたかも知れぬ、其の事が無かつたといふものは、實に東洋には歐米諸國の樣に動物から直ちに進化した樣な、權利思想といふ者の增長が無かつた上に、此の善

良なる美德があつたからである。犬ならば互に肉の一片も爭ふであらうが、日本ではそれを以て賤いことゝして居つたのである。

そこで此の溫良恭謙の美德といふものは何處に一番よく現れて居たかといふと、日本の女子に一番よく現はれて居るのである。元來日本婦人はかゝる美德があるにも拘らず、理科に關する敎育は人爲的敎育實施の日が淺いので、今日でもまだ〳〵男子程に發達して居らぬのである。又歐米の婦人抔よりも無論劣つて居るのである。けれども此の東洋獨特の美德といふものに至つては大いに優つて居るのである。或る外國の婦人抔は、それも我が物これも我が物であるとして搔込む、さうして人を押除けるといふやうな、我儘勝手殺風景極まる振舞をするといふに、日本の婦人にはさういふ樣な者は皆無といつてよろしからう、何事をも之れを他に讓るといふ優しい所があつて、決して是れも我が物であるそれも我が物であるといふ樣な事はして居らぬ。

犧牲の觀念

それから又日本の婦人は最も犧牲的の念慮に强いといふことである。是

れは多年男子の壓迫を受けた爲めもあらうけれども、此の犧牲の念慮の强いといふ事は誠に立派なることである。犧牲といふ事が眞の善であり美であるといふ事は、歐米のお轉婆なる女子でも立派なる紳士でも決して之れを否認する事は出來ないのである。何故否認する事が出來ないかといふに、彼等の崇拜して措かざる所のイエスキリストはどうであるか、己れの血を以て人の子を救ひ出さうとしたのである。二千年前の昔に於て衆多の人を救ふが爲に、己れは十字架に掛つて此の世を去つたのである。さうして偉大なる敎へを此の世に殘された。其の殘された敎へは、實に二千年來世界の人間に偉大なる所の感化を與へて居る、今日キリストと何等の關係の無い所の東洋の日本の國ですらも、多數の崇拜を有して居る、さうしてキリストに向つて其の恩を感謝し己れの益〻神の子に近づく事を祈つて居るといふに至つては其の感化の偉大なるに驚かざるを得ない。不世出の英雄といはれたナポレオンの如きは、僅かに百年以前の人たるに、今日は既に何時頃の人なるかすらも忘れられてゐる、彼

の事業は花々しかりしも單に自己自國の利益のためにした仕事で、何等の教訓を人類一般に垂れたと云ふことはない、彼の仕事は自欲の爲めであるから今日彼が只名を知られてゐるといふに止まつて、之れに向つて感謝するものはないのである。又秀吉の活動と正成の活動とに見よ、何れが大か何れが偉なるか、秀吉は確かに赫々たるものであるにも拘らず、人心に偉大の感化を與へ居るは正成にあらずや。是れ卽ち正成の行爲は自己の爲めならで君主の爲めに身を犧牲に供したからである。歷代の帝王は其の國民全體を支配して、王樣であるから豪い者ではあるけれども、今日歷代の帝王の名を知つて居る者が幾人あるか、成程神武天皇位は知つて居らうが其の他歷代の帝王の名を知つて居る者は專門歷史家の外にはあるまい。然るに海山萬里を隔てた異國のイエスキリストであるとか、或は檀特山に登つて難行苦行を積んだ印度の釋迦であるとか、或は艱難辛苦に出遇ひて人の人たる所の道を說いた支那の孔子であるとかいふ者は、幾千年の昔より今日に至るまで人心にどれだけの影響を與へて居る

犧牲は至善なり至美なり

か。我々は孔子の道に依り釋迦の法に依りキリストの愛に依つて、今日の如く秩序あり道德ある生活をなすやうになつたのである。そこで是等の人の名は洋の東西を問はず知らぬ者はない。例へ其の教義を奉ずると否とに拘はらず之れを尊び敬はぬものはあるまい。其の所以は是等の偉人は皆自己の爲めに働いたのでなく、吾々人類の爲めに其の身を犧牲に供して働いたからのことである。して見ると犧牲といふことの、如何にそれは善美なものであるかといふ事は明かなことである。是れは犧牲の念慮の甚だ乏しい歐米の人間と雖も其の事の至善至美なることは知らぬ事は無い筈である。日本人は元來此の犧牲の念慮といふものは頗る盛んなもので、國家の爲めに其の身を犧牲に供し、主君の爲めに其の身を犧牲に供し、夫の爲め又家の爲めに其の身を犧牲に供するといふことは、古今幾多の例を我が歷史に殘して赫々たる光明を放つて居るのである。近く言へば日清戰爭に於ても日露戰爭に於ても、我が日本の幾多の青年男子は此の五千萬の國民の爲に其の身を犧牲に供して光榮ある大捷を得

たのである。そこで是等の男子は誰が生み育てたかといふと、最も犧牲の念につよき眞正なる日本婦人が、家の爲め夫の爲めにその身を犧牲として働いたからのことである。此の犧牲の善美と云ふことは理窟で言ふ事ではない只洵に立派なことである、是れ以上の崇高な善とか美とかは無いといふ事は最早理窟では無いのである。

殊に日本婦人は此の念慮が最も強いのである。幾多の家庭に於て常に婦人は我が身を犧牲にして、其の家の爲めに夫の爲めに、自己の操行を正うして動くことがない。早い話が衣川の袈裟である、かれが如何に其の崇高なる優美なる溫雅なる日本婦人の特性を發揮して居るかを見られよ。袈裟は勿論美人であつたに違ひない、遠藤武者盛遠をして恍惚たらしめた者である、彼女は遠藤の戀慕に對して如何なる處置を取つたか、意馬心猿にかられたる彼れ遠藤の道念は、全く雲に覆はれて有夫の女を脅かして、命に從はざれば、其の母をも殺して仕舞ふといふ場合に臨んで、彼は如何に處決したか、若しも命に從はずば其の危害は母にも夫にも自

分にも及ぶのである。彼は遂に其の首を盛遠に授けたのである。此のやうな崇高なる潔白なる優美なる行ひが歐米の婦人に出來ることであらう、か、此の善美なる犧牲は盛遠をして那智萬丈の瀧に難行苦行の文覺上人たらしめたのである。實に日本の婦人は斯くの如くけなげに斯くの如く氣高き者である。而して平日どうであるか、誠に柔順である。一家に對しても夫に對しても又社交の方面に對しても、日本の婦人の柔しいといふ事は、日本の地を踏みし歐米の人は何れも之れを認めるのである。

日本は世界人士の認むる所の美術國である。彫刻に於て繪畫に於て或は陶器に於て漆器に於て、誠に世界に類の無い美術を有して居るのである。又其の風景の善美なる事、氣候の穩和なる等總ての點に於て、日本は世界の美術國であるといふ事を知られて居る。或る外國人は言ふた、日本は成程美術國に相違ない、而して其の日本の美術國の最上美術品は何であるかと言へば、それは繪畫でもなく象牙細工でもなく、漆器でも銅器でもない、それは卽ち日本の婦人であると賞讃された。誠に日本の婦人

は彼等が目にも日本の美術品中の最上の美術品として映ずるのである。眞箇の日本の婦人は前にも言ふた如くに、誠に溫良優美でその上犧牲の念といふものは強いのである、斯の如く日本の婦人は立派なものである。然らば日本の婦人には缺點が無いかと言へば、それは他の諸國の婦人と同じく缺點はあるのである。それは獨り日本の婦人のみの缺點ではなくして、所謂世界一般婦人といふ者の共通の缺點で、矢張り日本の婦人も備へて居るのである。それはどういふ點であるかといふと、

女性の缺點

女子の虚榮心

先づ第一が虚榮心である。見えを飾るといふ樣な事は是れは亦男子よりも一層強いと言はなければならない。前にも申す通りに元來女子は自ら富を造り出すとか自ら地位を造るといふ樣な事は出來ない、それは富を造るとか地位を造るといふ樣な事は奮鬪的のことで、外敵に向つて奮鬪した結果から起るのであつて、既に外敵に向つて奮鬪するといふことは女子の職分でなく男子の職分である。それ故に女子は自ら富を造り自ら地位を造るといふ事は一般に於ては出來ないのが普通である。富を造り

地位を造る事が出來なければ、己れの虚榮心を滿足に充す事も亦出來ないのである。其處が卽ち女子は常に男子に賴るといふ點である。そこで第二には依賴心の多いことで、自然男子の巾着となつて身を立て男子に依賴してさうして富と地位とを銜はうとするといふ事は免れない。それがつまり男女同權であつて同權でない所であらう。女子は一體何の爲めに己れの髮飾りをし、己れの衣服を派手にし、己れの顏を美しくするかといふ事である。女子に聞いて見ると、女子は曰く、人に見られても見苦しいのは恥かしい、自分の恥にもなり又夫や親兄弟の恥辱にもなる。それから又尙斯う言ふ、何も女が飾るのは之れを男子に見せ樣といふ爲めでなくして、同じ同性の女子に對して誇らうといふが爲めであると、之れも半分は當てにはならぬ。

女子の虚僞心

元來女子は其の本性を隱し詐る心が强い。これは獨り吾々が認める許りではない、敎育者も研究上からさういふ事を言ふて居る、相當の敎育を受けたものでも、怜悧なるものほど隱しだてや詐りごとが多いといふは

實に情ないものである。昔から十年連れ添ふても女に氣は許るされぬとか、三人の子を持つても妻に氣を許るすなとか云ふが、隱すもそれが小心翼々ならばよいが、大膽なことにもそれがあるのである。佛者も女子を評して外面如菩薩內心如夜叉と云へるが如く、なか〳〵油斷のならぬものである。

元來女子の任務は生殖である、植物ならば花である。道德的の方面は別として單に之れを動物として考へたならば、生殖は女子の何よりも欲する所で又大切なる務でなければならぬ。それで詰り女子が己れの身を飾り街ふといふ事は、其の自分の職分の爲に男子を誘はんとするのである。そこで誘ふにも富あり地位あるもの又は美なるものを最も好むのである。是れは甚だ露骨な事であるが、實際科學の進歩は、花の美しいのは花其の者が植物の種族を多からしめんが爲に、昆蟲を誘ふてさうして雌蕊と雄蕊との交接を爲さしむるといふ事が明かになつて居るのである、又牝鳥が牡鳥の美を慕ふのもそれである。斯の如く生物界自然の現象がそれ

であるから、人間のみが獨り其の理法に外づれるといふ譯にはいかない、矢張り同じものである。併し他迄も自然主義に出るといふと常に危害が多くて、其の生命を短縮されなければならぬ。そこで進化の理法として其の自然主義に一つの危害を免れる法則方法を示したのである。それが卽ち道德的制裁といふものである。道德なるものは畢竟するに其の種族を保護し、其の種屬の危害を少からしむる爲めの必要から出た相互の規約である。日本の古い時代の歷史を見ても、古事紀とか其の他源氏物語とか枕の草子などに現はれて居る事實によつても判る。あの時分には今日の樣な道德制裁といふものは甚だ少なかつたもので、男女の關係といふものは甚だ氣隨氣儘なやうである。紫式部、清少納言、赤染衞門、其他の幾多の才媛中道德的品行を維持した者は極めて少いやうに見える。古代には男も女も甚だ氣隨で隨分姦通其の他の罪惡が平氣で行はれたやうである、隨て嫉妬怨恨の騷ぎが起つて、殺されるとか鬼になるとか尼になるとか云ふことが、物の本に數多く記るされてある。今日は下層社

會の無知のものには左樣なことが往々あるが、一般に申さば敎育の進歩と共に法律も完成して、それ等の行ひは旣に罪惡であるといふ道德上法律上の制裁に依つて、自己を愼んで亂に至らずといふ境遇に至つて居る。今後は益〻此の社會の秩序が正しくなると共に、道德的の制裁といふものが完全に行はれる樣になつてくるであらう。是れは進化の理法である。去りながら此の虛榮心の抑制や情慾の抑制が十分に行はれない限りは、風紀を紊亂する行も絕えなからうと思はれる。近時田中宮內大臣が六十有餘の身を以て二十歲前後の女子と結婚すると云ふ噂が立つて、非常なる國民の反聲が高かまつた、卽ち日本の道德習慣を打破するものであるとか、社會をして今後益〻男女の關係を紊亂ならしめるものであるとか言つて、新聞社は大々筆誅を試みられた、斯くの如く社會の制裁の高まりしは誠に喜ぶべきことである。そこで其の相手の女子である、何の爲めにかゝる結婚をなすのであらうか。七十近い所の老人の妻とならうといふ、二十前後の淑女は其の老人を夫として、さうして千代八千代迄も

偕老同穴の契を結ばうといふ立派なる念慮であらうか。彼れは又全く日本婦人の長所たる所の犧牲の念と、さうして又婦人たる所の同情の念とが强くて、其の老人の憫れなるが爲めに、之れを救ふてやらうとする崇高の考へであつたらうか、併しどの點から見てもさうであらうとは思はれない。其の一少女は新聞の傳ふる所に依れば、某の妾たる藝妓上りの者の子にて、非常に虛榮心が强くて、さうして彼の有して居る身邊の粧具すら數萬圓の價であるといふについても、彼れが其の結婚を承諾するは單に親が强いた者であるとばかりは認むる事は出來ない。彼れは良人は假令ひ老人で今死なうとも、自分は伯爵の夫人と言はれ二頭曳の馬車に乘り、夜會に花と飾り公會に其の美を衒はんとする精神であるといふ事は明かである。此の如く女は結婚上の必要條件を捨てゝも、己れの虛榮心を滿足させやうといふ事が多いのである。是れが卽ち婦人の缺點である。

第三には婦人は意志が薄弱であると言ひ得るのである。是れも亦其の根

意志の薄弱なること

本原理に遡つて見れば、進化論者のいふが如くに、いつも男性に追隨して、さうして自分の職分たる生殖上の滿足を買はうとする、動物的原人時代の遺傳であると言はなければならない。亞米利加の婦人はどちらかといふと、概して強い方かも知れぬが、他の點はいざしらず、己れの操行を維持する上に於ては、虚榮心の強いだけそれだけ意志が薄弱であると云ふことも聞いて居る。加賀の千代の句に斯ういふ事がある、

秋風の言ふまゝになる尾花かな

是れは婦人を言ふたのである、又或人の句に

どちからの風にも靡く柳哉

といふ事がある。どうも溫良であり柔順であるといふ婦人には、此の意志が薄弱であるといふ事が伴ふて來るのである。男子をも凌いで仕事をしやう抔といふ婦人は又柔順であるとか溫良であるとかいふ事を缺いて居る。誠に日本婦人の善美なる德操といふものも、意志の薄弱なる爲めに或は操を破り、或は道ならぬ不倫の行ひをするといふ樣な事に迄陷る

意志を強固ならしむる方法

者が隨分あるのである。けれども立派なる婦人は、さういふことはない、昔より上流の家庭に育つて正しい道德の敎訓といふものを受けたものや、中流以上の清潔嚴格なる家に育つた者は、己の身を持する事は中々立派な者である。是れといふても、其の品行を維持する上に於ては立派であつても、他の仕事をする上に於ては誠に意志は薄弱なるものである。此の意志の薄弱を救はうといふには勢ひ敎育の力を借るか又は宗敎の力をかるより外に道はない、善良なる人間の道として、又神の道として守らなければ自己にとり大いなる恥辱であるとか、又は神の咎めが來る者であると信仰せしめるより外に致し方が無い。其の外に經驗の結果より鍛練し來るものもあるが、之れは上流の婦人に望むべきことでない。

先づ余の見る所では、一般婦人の缺點は、虚榮心の強いといふ事と、意志の薄弱なといふ點であらうと思ふ。其の他智力の如きに至つては、敢てさう男子に劣る譯のものでない。體力に於ては固より職分の異なるに依つて、自然男子よりは柔かであるといふ事は掩ふべからざる事である。

併し是等は之れを缺點と見る譯にはいかない、虚榮心の或所迄は婦人たる職分の爲めで缺點とは見られない。意志の薄弱も或所迄は缺點とは見られない。けれどもそれが道德を犯し社會の秩序を紊亂する所に於て、即ち缺點と認めなければならぬのである。

或は曰く女子の虚榮心は、女子自身の罪ではなく、男子の罪である、男子の爲めに餘儀なくせられたものであると。是れも一理あることながら、女子の意志の薄弱を主張する理由を助けるやうなものである。又曰く、英雄色を好むといふが、それは英雄が色を好むのではなく、色が英雄を好むのであると、是れは眞理かと思はれる、醜男であつて、若き時に女にふりかへつて見られもせぬ者が、漸く地位が出來たり金が出來たりして艶聞を流すといふは、宗教家や教育者は別として、世間滔々皆然りといふてもよい。是れを以て見ても、女子が如何に地位と金とに、あこがれて居るかゞわかる。即ち彼等の虚榮心が地位と金とに依頼せぬでは、滿足を得られぬからである。

虚榮心と結婚

近來の女子は益〻此の傾きになつて來てゐるので、隨つて婚嫁の目的も、地位あり金ある夫を目的として居るやうである。是れは日本の如き家族制度の家には最も不吉のことと云はねばならぬ。女子が他に嫁するについての道德的善良の目的は、其の夫に嫁すると共に其の家に嫁するといふ考でなければならぬ。即ち家に嫁するものなるを以て、家庭の平和を破らぬやうに、夫を助けて內願の憂なからしむるといふ、一大使命を帶びて婚嫁するのである。此の心懸けのない女を娶る夫や其の家は、實に不幸なるものといはねばならぬ。

虚榮心の利用

婦人には此の如く虚榮心が強い、是れが嫌て人に乘せられる所である。即ち女子の利用法は此處であるのである。尤も婦人を利用するといふ事は、一方には婦人を侮辱するといふ事に當るかも知れない、侮辱すると認むる程の婦人は眞正なる日本婦人であつて、正しい家庭に育ちたるもの又は正しい家庭を形造つて居る人達であり、又正しい教育を受けたる人達である。所が又一方には自己の地位をも自覺せず、善良なる日本婦

人たらうといふ考へも持たない所の、向上心に乏しく思想の淺薄なる者が澤山にあるのである。それ等の女子がいつも人に乘せられ人に利用されるのである。又多くの策士は婦人を利用するといふ事を以て、如何にも自分に優れた働きがあるかの如く感じ、名譽の如くに感じて居る。併し既に婦人の尊重すべき事を知つて、其の婦人を欺いて己が何等かの利益の爲めに利用するといふ事は誠に罪深い話であらう、所がそれは強ち男子の罪とは言はれない、婦人其の者が女子の品位女子の價値といふものを自覺しない點から起つてくるといふても誣言ではなからうと思ふ。其の點に於てはどうか女子を十分に道德的に敎育して、男子の翫弄物や利用物とならない樣に務めて貰ひたいと思ふのである。それで世間に於て女子を利用する者は、どういふ利用の仕方をするかといふと、それは地位の異同上下にも關係がある。全く其の家庭に出入する事を得ざる者が人の家庭の婦人を利用してどうかうといふ事は、無論出來得る筈の者では無い、併し利用するとなると、利用される者の方は利用する者より

追害的利用

賤業婦の利用

も先づ地位が低い者である。地位が低うないとすれば敎育が低いとか或は又賢愚の上から言へば利用する者よりも利用される者は愚者であるといはなければならぬ。さもなければ又何等か他の方面に於て、其の家庭か或は其の家の婦人に弱點があるとき、それが爲めに男子が其の弱點に附込んで之れを利用しやうと掛るのである。これは一種の追害である、紊亂したる家庭とか其の他更に道德生活の如何といふ事を、知らない職業に從事して居る人達の間には盛にさういふ事がある樣に聞いて居る。又惡い事には日本の上流の紳士や政治家が喜んで花柳社會に入り込んで、たわいも無く賤業婦や賤業者を相手にして遊ぶと云ふことである。そこで又さういふ花柳社會の者を利用して、何等か運動の器械に使はうといふ事が隨分あるのである。今日立派なる紳士であつて其の邸宅に待合のおかみが出入しないと云ふやうな正しい家がどれだけあるか。顯官や實業家は殆んど門なみである。華族や學者の中にも隨分あるといふ、是れは自分も實際目擊した事がある。辯護士や醫者にはかゝる事をして自己

の評判を高からしめる人もあるとのことである。

是等の人は集會するにも待合を利用するので自然待合といふものは特に懇意となつて居る、又隨分名士にして藝妓や待合の娘や料理店の酌婦などを令夫人として持つて居るものがある、そこで自然それ等の主人公は、人格の如何をも顧みず、自分の地位の如何をも顧みず、此の待合抔に向つて人間並の交際をして居るのである。是れは一方からは男子が待合などの主婦を利用して結構な取持ちをさせるといふ點もあるか知らぬが、一方から言へば、實業社會の紳士などが其のおかみを利用して、さうして或る大臣とか代議士とかに自分の利益になる事に向つて便宜を與へさせやうとするのである。今日國民を代表する所の代議士とか、重要の政務に當るものゝ中には、言ふに言はれぬことのやりとりとか或は各種の運動をするのに左樣な場所に於てし或は賤業婦を利用して何事をか成就するとか言ふやうな腐敗のこともあるとのことである。勿論彼等賤業婦は教育も無ければ、是れぞと言つて智慧も無い、只彼等の唯一の知慧は

男子に取入るといふのである、それ故利用には頗る便利なものである。彼等は固より唯金づくであつて、金以外に於て何等の道德的必要なる念慮の存して居るものでは無い。又存して居る位ならばさういふ商賣をする筈も無いのである。

依頼心の利用

さりながら婦人は只金のみで利用し得る譯の者では無い。其の他にも幾らも利用の途があるのである。其の利用は卽ち其の婦人の弱點である缺點に附込んでの利用である。前にも言ふ如くに婦人は男子に依頼して富と地位とを衒はんとする者である。それ故に男子に便るから其のたよる所で利用し得るのである。便らぬ者は利用する事は出來ない、茲に若し何等かの事をしやうといふ場合に、兎角女子は獨斷で出來なく人をたよりにするのである。そこで便つて來る所の婦人があるならば、其の婦人に大いなる同情をよせ親切に見せかけて、之れを利用し得る事が出來るのである。墮落書生が女學生を誘ふのも、電小僧が未亡人を誘ふたも皆その御爲めごかしからである。尙又婦人は虛飾卽ちみえを飾る者である

から、其の虚飾虚榮心に附込んで之れを賞め讃せば其の婦人は男子に賞められた事を以て無上に喜び、名譽とし滿足とするものである。遂には其の男子を以て能く自己を知つてくれる者であるといふ一種の信頼心といはうか、慕はしいといふ念を起して來る、そこで遂に墮落するとか利用されるとか云ふ事が起るのである。某軍醫夫人が身分にも耻ぢず前科者と共謀して時計を詐取せるやうな事も其の一例である。婦人は又色々己を飾る爲めに自慢的の事を言ふ。それを喜んで聞いて居れば又之れを喜ぶ者である、それに附込んであなたで無ければならぬといふやうな讃辭を呈すれば如何にも自己を知つてくれた者であるとして、其の報酬として又其の者に滿足なる事をしてやらうと言ふ考へを起す、即ち煽てに乘るのである。例へばあなたの頭髪は大層結構であると言つて賞められると、賞めた人の眞意が何の爲めであるかといふ事を考へないで、淺墓にも先づ賞められたのが嬉しくてたまらぬといふのが、即ち婦人の常情である。獨り髪の毛のみで無い、口元が愛らしいといはれても目もとが

素人婦人の利用

麗はしいと賞められても、直ぐ其の煽てに乘つて慢心するのである。それが男性に利用される所であつて誠に淺墓な氣の毒千萬なことである。尤も屢〻さういふ事に出逢つて殆どタコの入つて居る樣な酌婦や藝妓はそんな煽てには乘らない、それは中々一筋縄では利用が出來ないのであるが、大概の初心な者や素人の方は、其の調子に乘せられて、自分の一生を誤り或は人に利用されるといふ事に陷るといふことは、某老妓の懺悔話しにもあつた。又或人はいはれた、交際も主人同志ばかりではいかぬ、進んで家庭と交際する樣にせなければ主人とも圓滿なる交際は出來ぬ者である、互に料理店に行つて飲食せんとすればそれを妨げる者は家婦である。あの方はいつも人許り誘ひ出して惡い所へ連れてゆく、ほんとによくない人であると言つて妨げられる、それの無い樣にするのには、常に其の婦人に對して土産物を贈るといふ事をするが宜い、さうすれば婦人は其の人が其の家に出入する事を歡ぶやうになる者であると是れも誠に婦人は欺かれ易いといふ證明である。僅かな物でも人に貰つた僅か

海老で鯛を釣る

な事でも人に賞められたといふと何となく其の人に懷き其の人に對して嬉しいといふ感じを持つ、即ち他日千兩の損害あるべきには必付かず目前の十錢のおみやを嬉しく此の上もなく感ずるといふ實に淺はかな者が多い、それ等も先方からいへば婦人を利用する一の方法である。それから尙一つには、婦人は自己に對して柔順なる男子を好むといふ傾きがある。自分の思ふ通りになる男だと思へば、其の男を尊重するではなく大變愛するといふ事がある。是れは即ちさういふ婦人に對して柔しくすれば婦人の愛を受くるといふ事である。男三郎でも高麗藏でも、皆此の呼吸によりて罪惡を犯した色魔である、我輩は殊に驚いた事がある、或る立派な高官の婦人が、常に其の家へ出入る所の骨董屋の品評をして居つたのを聞いた、眞に嫌味の無い好いたらしい男であると、夫に語つて居つたことである。尤も此の婦人は嘗て藝妓をしたとかいふ噂がある。斯ういふ婦人は先づ其の骨董屋さへ利用すれば、大概利用され得る者である。世間にはそんな者もあるものである。其の外に意志の極めて薄弱な

柔順なる男子を好む

色魔

婦人の勢力

る所へ附込むといふ事がある。是れは多くの場合に於ては餘り利益的の方面には利用が出來ないものである。意志の薄弱な位な者は、又他に向つても薄弱であるから利益的の方面には利用が出來ぬが、常に男子の爲めに籠絡され、自分の身が立つ事の出來ぬ樣な罪惡を犯すといふ事があるのである。利用されるといふよりも寧ろ汚されるといふ意味のものに陷ることが多い、即ち男子の慣弄物になり易い者である。

抑〻婦人を利用しやうといふには、先方の人が相當なる働きを有し、その人ならば其の主人に巧まく話し込んで、此の仕事に向つて、是れだけの金を出させて呉れるだらうといふやうな時に運動をするのである。隨分世の中には政事上若しくは事業上に關して人を說くことがある、本人たる主人公はそれを結構であるとして贊同しても、其の間に於て家庭に勢力ある夫人が妨げをするといふ事がある、孔子の言はれた浸潤の譖、膚受の愬は即ちそこである。それが爲めに主人公も漸く二の足を踐んで遂に成り立つ可き事も成り立たぬといふ樣な事になる。かゝる場合には

婦人の親和力

先づ婦人を說くより外に仕方が無い。元來婦人といふ者は妨げもするが、又一方には極めて調和に適して居る者である。友人と主人と衝突をして仲惡くなつても、婦人が其の間に立つて調停をして直ちに復活させる。調停といふ事は柔を以て剛を制するのであつて、誠に婦人が適して居り又婦人の長所である。それ故にそれを利用するが宜しいのである。若し主人に向つて贊同を求めて其の主人が二の足を踐む樣であつたならば、宜しく何等かの方法を以て、其の人の夫人に取入つて夫人から說き附けるといふ樣な事は最も宜しいのである。さうすれば終に夫も其の氣になつて其の事に贊同するといふ事がある。又夫を勸めて贊同せしむる程でなくとも、夫人が中婿の言を挿はさんで其の故障をするといふ事だけも防ぐ事が出來る。それであるから其の婦人と如何なる人とが懇意であるか、其の婦人の性質はどうであるかといふ事を深く研究するの必要がある。それに依つて其の弱點に乘じ其の懇意な人よりして、其の婦人を說かせるといふ事が行はれるのである。是れが卽ち婦人の利用法といふべ

きであらう。

東京は商取引地なり

上京者の目的

第十二章　營業の手引

東京は政治上の中樞地であり文化の中心であると共に又日本の物產の集散地である。言葉を換へて言へば日本第一の商取引地であると言つて差支ないのである。それであるから東京に集つて來る大多數のものは、何等かの商賣をするか又は何かを利用して糊口の道を得やうとする者と言はなければならない。糊口の道を得るといふ事も小さく考へれば、自分一身が食つてさへ行ければ宜いといふ樣な事になるので、其の位の內は何等の弊害も無ければ何等の困難も無い、隨つて大失敗といふものもなければ大得意といふ事も無いのである。併し人は隲を得て獨を望むといふのが常であつて、單に自分一身の衣食だけでは滿足の出來ないものである。のみならず相當の年齡に達すれば妻も迎へなければならぬ、或は

又自分が養育をしなければならぬ所の父母兄弟もあり又妻子のあるといふ者もある。それ等になるといふと只自分一個の生命の爲めの事のみでは到底仕方の無いものであつて、自分の外に更に一家を不自由なく衣食せしむるといふ必要が來るのである。それで大多數の者は遊んで居つて飯を食ふ譯にいかぬ、さればと言つて官邊に就職する所の人間は、其の數は限りある者である、それで實業にありついて衣食して行かうといふ事が普通一般の考であらうと思ふ。假令ひ一時使傭人となつて人に使用されて居つても、極めて安全の地位にある者の外は、折りがあつたならば一本立の營業をして、子孫の計をしやうといふ事は是れは當り前の事である。扨て實業其の者は目の前に澤山あるがどれにでも人が手出しが出來るといふ譯には行かない。それで自然自分の從事しやうとする業務の選擇といふ事に移つて行くのである。其の選擇はどうするかと言へば、それは其の人の學問知識教育の程度、若くは特別なる經驗とか技術とか、又は資本の如何に依つて定まるのである。學問上の事を必要とする所の

業務の選擇

業務には、學問の無い者は從事する事が出來ない。又特別なる經驗技能を要する業務には、其の經驗の無い者が從事することは出來ない、電氣工業の知識を有せぬ者が電氣機械の取扱を爲すといふ事も亦難いのである。大資本を要する業務を資本の無い者がやらうといふ事も亦頗る困難なことである。凡そ商を問はず工を問はず、自らの出來得る所に働くより外には仕方が無い、だが如何なる業務でも、多年の經驗閲歷を持たないで出來るといふことは、先づ無からうと思ふ。小僧一人が一商店に奉公しても、其の者が小僧から大人になつて其の營業上の取引、掛引の全般に渉つて總てが分かる迄には、頗る多年の月日を要するのである。己の腕を以て己の口過をなさうとする程困難な事は無い。學者官吏も困難ではあらうが、併し是れは成り易い業務である。普通の能力のある者は、其の保護者たるものが金さへあれば大學を卒業させて學士にする事は容易い事である。それで大學を出て、學者として、官吏として、教育者として、身を過すといふ事はさしたる困難なる事では無い。即ち最も秩序

見習經驗の必要

見習修業は學問よりも困難なり

だつたことで何等の奮鬪的生活を要しないものである。其の奮鬪とも認む可きのは血氣旺盛何事にも苦痛を感ぜぬ學生時代の事である。さうして普通の能力があれば、學士となり高等官となり裁判官となり辯護士となり教師となりて直ちに安全生活が出來るのである。然るに遺憾乍ら繁雑混沌偏に己れの明智と手腕に待つ所の實業界に於ては、小僧から二十六七になつて尚且つ中々に一家を維持するだけの事が出來ないのである。それは小さな一家ならば維持する事が出來ないといふ譯では無いが、之れを官吏若くは辯護士若くは教育者、學士抔に比して見ますといふと、頗る生活程度が小さく低い者である。それで修業するといふ上から言ふたならば頗る困難なる者であつて、保護者が金を出して呉れて殆ど遊び半分に修業をして居るといふ學生輩に比べて見ると中々以て容易な譯のものでは無い。然らば社會は之れに對して多大の報酬を與ふ可きであるのに、これ以てさうはして呉れない、官吏や何かならば、法律上の進級法や採用法があつて、人間幷の者は順次に進んでいけるが、實業界では

無限の發達は實業界にあり

さういふわけには參らぬ、進むも上るも自ら造り出すので、偏に其の人間の能力手腕に存して居るので、其の能力手腕に於て大いに秀でたる者は益〻大いなる發展をなし、所謂高等の教育を受けたる技師も學士も皆自分の手足として多數使用するといふやうに無限の發達が出來るのである。成程無限には相違ないが其處迄に發展するといふ者は實に少いのである。誠に困難なる事であると言はなければならぬのである。然るに其の無限の發達を望まぬならば、それほど見習修業をせぬでも出來る營業がないわけもない。例へば下宿屋商賣であるとか金貸商賣であるとか家作を持つて之れを貸家にするとかいふ樣な事は、別に自分が多年の苦楚艱難をせぬでも出來る。であるがそれにはそれ〴〵の資本が無ければならない、多少の資本さへあれば誰にでも出來るといふ仕事は先づこんなものであらうかと思ふ。現今下宿屋抔を通觀するのに多くは吏員上り或は教員上りか又は地方の金持であつても無いからでも無いといふ樣な生活をして、祖先からの土地を仕舞ふて東京に出て來たといふやうなもの

商業とは如何なるものぞ

が澤山なので、小僧から熱心に其の商賣に從事して私は祖先以來の下宿屋であるといふ者はないのである。先づ素人の仕事としては最も手の出し易い事であるが、之れを以て商賣であると見ると大いに間違つて居る。どうも斯ういふものは別に是れが商賣であるといふ程の値打は無い、取引の複雜もなく研究を要すべきことも少く、又他の信用を得なければ出來ないといふ程のものでは無い。商業とか工業とかいふ者は、特殊の技術も特殊の經驗をも積まなければならないものである。本當の商賣と言ひましたら先づ小賣商であらう、問屋も無論商賣である。人の製造した る所の品の取引賣買は皆商賣といふのである、又工業も或る場合に於ては商賣である。一旦製造された所の幾種の物を集めて複雜なる製造をしてゆくのであるから、是れも亦商賣と言はれるのであらうと思ふ。併しそれは又何時となしに商賣と區別されて今では事業と稱してゐる。事業家と商人といふ區別が其處にあるのであります、從來は事業家といふ者は別に無かつたものです、極めて簡單なる社會の時分には、最初に

農工商

事業

實業

其の原料を提供する者は是れは農家であつて、それを複製する者は工業家であつて複製品を賣る者が商家であるといふ樣に言はれて、農工商と分れて居つたものであります。併し今日では商は誠に盛なる者であり、農も誠に盛なる複雜なる者であるが、工は工としては殆ど立つて居らぬ、工業の範圍が頗る複雜なる方面に渉うて居るところから、事業といふ一の名稱の下に概括されて居る、或は製絲事業であるとか或は紡績事業であるとか、活版事業であるとか、電氣事業であるとかいふ樣な工合になつて來たので、活版事業の樣なものを以て之れを工業であるとなし、紡績を以て之れを工業であると言へば言ひ得る樣な者の、先づ是等はさう明瞭なる名を下す事は出來ないが、商業との區別は稍〻其處に出來るのである。純然たる商業といふものは既に製作されたる所の物品乃至は其の原料の取引をするといふのが純然たる商業である、複雜なる商業はと斯う言ふたならば、工業を含蓄したる問屋向きのことで製造と賣買とを兼てゐる世間で言ふ事業といふ者でありませう。そこで農工商何れも含めて之れ

を實業と稱して居るのである。扨て實業といふ上から言ひますと、どうも下宿屋であるとか金貸であるとか或は飲食店の如き者は實業とも見られない、銀行の如き商業界の金融をはかるものは先づ是れは商業と言つて宜しいのである。尙又他の方面から商業といふ者に定義を下して見たならば甲から品を仕入れて幾分の口錢を取つて之れを乙に渡すといふ商賣が詰り商業であるから、其の點から言へば銀行も人の金を預つて幾分の利益を得て、之れを又人に貸附けるといふ事であつて殆ど商賣と言つても宜しいのである。又銀行は商賣の融通者であるといふて、金貸と殆ど同樣に思はれるけれども金貸とは趣が違つて居る。金貸は他人の金を預かるのでなく自己の金を貸して其の利益で飯を食つて行くので、土地を貸すのも金を貸すのも同じで、どうも商業と見る事は出來ない。そこで又商業には小賣商と卸商といふ者がある、多くの小賣商といふ者は自分の商店の近隣の人若くは往來の人を相手に營業する者で、卸商になると勿論近隣の人も相手にはするけれども小賣商を相手にしてそれに便宜

銀行業

小賣商と卸商

を與へ、小賣商なる者が其の間に利益を得る樣な方法を立てゝ行くものである。それから又其の外に大きな商人は貿易といふものをやつて居る、外國から品物を仕入れるとか外國に賣るとかいふ商賣をして居る者もある。是等は自然遠隔の地で其の間に於ける所の運賃色々の者がありますから小さな資本や僅かな事に向つて取引は出來ない、自然大資本を要するのである、そこで同じ事業或は商賣といふものを營むにしても皆自分の立場自分の資格といふものを考へて掛らなければ出來ないものである。商取引の一般をも此處に述べて置く必要があらうと思ふ、普通商取引といふものは掛賣が先づ重もである。掛賣といふのはどういふ事であるかと言へば、一種の信用上の取引である、現金で取引をするので無く、月末拂乃至は六十日拂を以て取引をするのである、それであるから其の人間に信用があれば、資本が無くとも取引といふことも出來商店も開始する事が出來ると見て宜しいのである。併し中々最初から全く資本が無くて出來るといふ譯には行かない、隨分乾物屋唐物屋抔の如き者は、一個

貿易商

商取引

掛賣

賣上勘定

の商店に長く奉公して居つたが爲めに、其の主人が一切の品物を貰いで呉れて店迄も持たせてくれ、賣上勘定で營業させるといふ事がある、是れは既に自分が多年其の人の爲めに盡した卽ち信用を得たから其の信用てふ資本に依つて出來るのである。けれども何等の後援も無くして營業を初めるといふ事は餘程六ケしい事である。自分の友人は何等か一ッの營業をしたいといふので昼夜駈けづり廻つて、或る知合の者がそれでは店さへ持てば自分が品をやるから、自分自ら賣込んで見たら宜からうといふので、家を借りてさうして其の知合から品物を持て來て賣つたのである、所が中々以て其の店の家賃を拂ひ自らが衣食して行くだけのものは賣れなかつた、それが爲めに遂に營業を仕舞はなければならぬといふ樣な事に立至つた。それで最初の營業といふ者は、買つてさうしてそれを賣るか或は賣つて買ふかの二つに考へを向けなければならぬ。營業に這入るには賣つて買ふといふ事は一番這入り易い事である、直輸出入に

最初の營業

從事する人抔を見ると皆賣つて買ふのである。先づ最初に賣込をしてそ

御用商人

こで注文してそれを賣る、御用商人抔といふ者の道り口を見れば矢張りさうだ、最初に注文を引受けてそれから品物を買つて其處へ納めるといふのである。最も安全なる營業の道り口は是れであらうと思ふ、賣つて買ふといふ事が一番安全である、貸し倒れになる苦勞も無い品物の殘品が出るといふ憂ひも無い。併し賣れるか賣れないか分らないのに品物を買つて、先づお客の來るのを待つといふ事は、是れは隨分冒險な話であるが、總ての商業といふものは茲にあるのである、澤山つ買て置いてそこでお客の望みに應じて、どの品をも其の需要を滿してやるといふ事が商業であるのである。如何にも商業といふものは危險なものである、併し買つて賣るとなつた以上には其の品を賣盡せる迄は忍耐をしなければならぬ、賣盡せる迄其の店舗を維持して行かなければならぬ、如何なる艱難をしやうとも飯が食へ樣と食へまいと、必ずそれを賣り盡すといふだけの忍耐が無くては、買つて賣るといふ商賣には從事が出來ない。そこで賣り盡す迄の忍耐をする者には、今度は人が掛賣勘定を以て品物を

忍耐の必要

供給して呉れるといふ信用が起つて來るので、さうなると最早元手が入らずして品物を仕入れてさうしてそれを賣り上げて先方に拂ふといふことが出來るのである。同じ商人でも卸賣業に從事する者は先方の注文に依つて直に仕入れて賣るので、所謂賣つてから買ふのである。小賣商人になると買つてから賣らなければ、今往來の人が我が店先に來て斯ういふ品物があるかと言ふ時に、其の品物は明日取寄せます、明後日取寄せますでは商賣にはならぬ、店頭に列ねて置かなければ商買といふ者が出來ないのである。是れは非常なる忍耐を要する、それから後所謂賣上勘定で、賣つてから後支拂ふといふ方法に迄進んで行かなければ、中々に營業といふものは立ち行くものでは無い。外國の商館、輸入輸出商の如きものになると、最も大いなる機械多量の品を取扱ひますから備へてある物は見本だけの物である。御注文とあれば何月迄に此の見本通の品を提供いたしますといふ遣り口であるのである。其の代りに買手が無ければ營業にならぬが、そこはどの商賣でも同樣である。それでも長い間經

資金と信用

つ中に自然に信用といふものが增して來て、さうして立派に營業が出來て行くのであります。どんな營業でも元手を要しない商賣といふものは無い、保證金が入るか或は最初の仕入を現金でするか、或は信用に依つて知己の人から供給されるかである。我々が營業を初めた時は實際言ふと元手といふものは無かつた、無かつたけれども製造し上る迄には、其の製造品の代價を支拂ふ豫算は確に立つて居つたのである。それであるから先づ元手があつたと言つても宜しいが、是れが製造し終ると同時に右から左に金になるもので賣れる物であるとすれば、人は元手なくして營業に從事する事が出來るのである。それも亦尙一歩進んでどうして先方が拂ひ得るか分らぬに人の品物を引受けて其の製造に着手したかといふ事を考へて見ると、其處は卽ち先方がこちらを拂ひ得るといふ見込みを立てた卽ち信用である。こちらが多年の間それ等の人、又其の人の知己に向つて不正不信な事をしたことがなかつたので、あの人ならば確かに遣り遂げるといふ信用を受ければこそである。であるから全く資金或

は信用といふ元手が無くては何事も爲し得ないものであると思はなければならぬ。

第十三章　廣告術

廣告の必要

商人が自分の店先を通行する人のみを相手に營業する者ならば、特別に廣告の必要も無からうと思ふけれど、矢張りさうでは無い、既に一個の商店を構へた上には、之れに看板を掲げて、其の何商店たることを其處を通行する人に告げなければならぬ。かゝる次第で廣く物品を賣捌かうとするには、或はビラを配る必要もあらうし、樂隊を頼んで其の賣出しを廣告する必要もある。又今日の如く競爭はげしく互に其の賣り弘めを爭ふやうになつては益〻廣告の必要が多くなつて來るのである。

世の中の開けない頃には左程に遠隔の地の人と取引をする事も無く、又同業者の競爭といふものも少なかつたから別段廣告の必要もなく、また

廣告法の種類

廣告の方法に苦勞するやうなこともなかつたが、世の中が益〻進歩して來ると同時に取引の範圍といふものが廣くなり、利益があればあるだけそれだけ同業者といふ者は增して來るのであるから、そこで他迄自分の品の善良なる事、自分の家の老舗である事、自分の家にて新たに工夫を凝らした品物が出來たといふやうな時には、早く廣告をして知らせなければならないのである。

廣告の仕方も色々あつて、其の商賣其の製造品の種類に依つて各〻違ひがある。或は目よりし口よりし又耳よりする、其の外に人の信用や同情に訴へる等種々樣々である。彼の賣藥の廣告の如きは頗る多大な費用を要するものであるが、其の仕方といふものは、同一の品を長く人に忘れしめない樣に唯一品の長く賣れ行くことを主眼として行くのである。即ち新に出來た品の廣告では無くして、永く賣込むといふのであるから、一日でも其の廣告を怠れば人々の頭から忘れられて、賣上高が減少するといふ事が來るのである。のみならず日々家庭に於て使用する品物の廣

告の如きは、日々其の使用者の目に觸れる樣にして置かなければ、自分の品が段々需要者を減じて來るといふ事になるのである。尤も米麥の如きは是れは別物であるが、呉服物だとか齒磨だとか云ふものになると、必ずしも或る一品に限つたものでなく、例へば齒磨にすればライオン齒磨を使つても又櫻齒磨を使つても何れでも宜しい、といふ樣な場合には、どうしても日々我が目に耳に觸れて居る物を使用するといふ事は明かな事である。若し米にしても其の商店を異にする毎に其の品質味ひを異にするといふ事であつたならば、これ亦非常な競爭が起り從つて廣告をしなければ營業にならない樣な事が來るのであるが、幸に米は製造品では無くして原料品であるから、さういふ必要が無くて濟んで行くのである。それから又廣告といふものは、人の注意を引かねばならぬものであるから、人の目に十分に着く樣にして行かなければ何等の效能も無いものである。隨つて心理學上の理法に本づいて工夫を凝らして行かなければならない。それ故に廣告をなさうといふに就いては、先づ第一に其の廣告

廣告の心理

が能く人の目に着くといふ事、第二にはそれに人が能く目を留めて詳細に見るといふ事、第三には見た後に買はうとする所の慾望を生ぜしむる事、第四には其の慾望が直ちに立派なる意志となつて、さうして懷から金を出して之れを手に入れるといふ迄に至らせなければ、廣告の效能といふものは無いのである。語を換へていへば唯人の目にのみ着けばそれで宜いといふものでは無い、目に着いた後は更に其の善良なる事を認めて、それが欲しくなつて直に己の懷より金を出して買ふといふ迄に至らせなければならないものである。それであるのに世間には人の目にすら着かぬといふ樣な廣告をするものがある、さういふ廣告ならば、寧ろ金をかけて廣告するやうなことはせぬ方が宜い。近時廣告術の進歩といふものは著しいもので、或は新聞に或は路傍に店頭に盛に意匠を凝して廣告するやうになつた、中に隨分新意匠で文明的なのも見えるのである。そこで又人の注意を引かうといふ事にも色々法則がある。注意といふものは、其の刺劇の分量に依り注意の分量も亦加つて行くので、其の刺劇

注意の心理と廣告術

が少ければ注意する事が又少いものである。其の刺劇をする方法といふものには又色々ある。大いなる音がすれば人は思はず知らず其の方を振向いて見る、小さな音だといふと一寸耳にも留めない樣な場合がある。さり乍ら其の小さな音でも連續して音がすれば人は更にそれに意を傾けるといふ事になつてくる。それから又注意は其の刺劇が深くなければ更に記憶に止らない、その刺劇がやむと同時に腦裏に何等の印象も殘さないで、忘れ去られて仕舞ふものである。其の印象を深くしやうといふには、極めて強い刺劇を與へるか、或は其の刺劇は普通であつても、其の刺劇がたびかさなつて途切れなく長い時間刺劇を與へるか、どちらかで無ければならない。樂隊をして太鼓を打たせ喇叭を吹かせるのは、人をして先づ其の方に注意せしめるのである。けれども樂隊其の者は唯注意せしめるといふに止つて、それに目を注いだ時に見える所の商品の名稱が、いくつも各色の布に染め出されて居るといふ事に依て反覆されるからそれが記憶に殘るといふ事が來るのである。又向島に中將湯の廣告が

ある。幾多同じ中將姫が十も二十も列ねられて居る。是れが卽ち連續の刺劇によつて長く人の記憶に存せしめやうといふ仕方なのである。又或る廣告は唯一ッである。唯一ッであるけれども其の大いさは中將湯廣告の十倍も二十倍も大いなるものであるとすれば、さういふ者は其の大いなる形象の刺劇によりて他日其の廣告品名を連想せしめやうとするのである。卽ち中將湯の反覆に依て印象を深からしめるのも、又一ッの形象でも夫れが非常に目立つて激烈な印象を人に與へるのも、矢張り廣告の效力は同じと言はなければならない。又それから常に同一なる形式を以て廣告をする、或は廣く商標を知らせる、是等は何れも反覆して人の腦裡に長く印象を止め樣とするので、殊に賣藥はさういふ必要がある、何ぜならば一種の品を長く人々に忘れしめまいといふが主であるからである。又時々刻々新たに廣告する出版物の如きものに至つては、目的丈けの數を賣盡して仕舞へば跡は賣れなくても詰り宜しいので、更に又新出版に取掛つて新規な物を賣るといふのであるから、さういふ廣告になり

ますと同一なる形式のものを用ひて長く廣告をするといふ必要は無い代りに、常に新規なる意匠を立てさうして新たに人の目を引くといふ仕方をするのである。斯くの如く其の營業品の異なるに依て廣告の仕方といふものも異りがあるのでありますす。尤も或はライオン齒磨が其の形式を屢〻變へてすると同じ樣に、又書物に於ても常に新規なる型を變へると同時に屢〻反覆して人の記憶に存せしめ樣といふ仕方もある。同じ書名を掲げてそれを幾つも〳〵連ねて廣告するのも其の一ッの方法である。營業上廣告術の大切であるといふ以上には其の廣告の理法といふものを辨へて、劇しく人の注意を引く、引くと同時に熱心にそれを買はんとする慾望を起させる事が必要である。唯見せるといふよりは見た後に是れは最も必要な物であるといふ事を知らしめ、それと同時にそれを買はしめなければならぬ。それは必ずしも文章若くは形のみでは無い、三越デパートメントが陳列棚を麗はしく飾つて、人の目先を變へるといふのも、人をしてあれが欲しいこれが欲しいといふ慾望を起させる爲めである。

三越デパートメント

常に同じ物であつたならば、人は目に慣れ心に慣れて珍しいといふ事を感じなくなる、人は常に新規なる物を逐ふて喜ぶ者であるから、廣告は其の希望に應じて目先を變へて之れを新たにするといふ事が必要である。要するに一ッの物を以て劇しい印象を與へるか、其の一ッを幾多反覆して印象を與へるか、目先を變へて常に新たにして印象を與へるか、流行に魁するか、同情に訴へるか、其の營業品の性質に依て選ばなければならぬ。然らざれば廣告の效力といふものは極めて薄い者である。又折角多大の費用をかけて十分に人目に觸れるやうにしても、更に效力のない場合もある。それは其の品が世間の嗜好や需用に投じないからのことで、決して廣告術が惡るいからではない、それ故に廣告に先だちて其の時勢に投じ嗜好に適するものを製出するといふことが肝要である。

有名なる人或は團體の利用

それから廣告には慈善心や名ある人の信用を利用するといふことが必要である。茲に米國に於ける石鹸商の成功談を掲げて其の一例を示さうと思ふ。

米國シカゴにスキフト商會と呼ぶ石鹸製造業者があつた、初めは微々たるものであつたが、偶〻同市の基督教徒婦人禁酒會が負債に苦んで居ることを聞いて、其の團體に負債償却方を申込んだのである。其の償却法といふのは、スキフト商會で發賣する、ウール石鹸の包紙を幾枚でも寄せあつめて、禁酒會會頭の手許から商會に持つて來れば、その包紙一枚について一仙づゝの寄附をしやう、此の約束が成立つならば、商會は米國の各新聞にそのわけを廣告する、さうすれば、米全國の婦人紳士は屹度同情を寄せて、包紙は何の勞苦もなく自然に集まるといふのであつた。そこで禁酒會は此の申込みに對して早速承諾を與へたので、スキフト商會は此の旨を盛んに新聞雜誌に廣告した所が、果して婦人は云ふに及ばず男子までも、此の禁酒會に同情をよせて、是れまで使ひ慣れし石鹸を廢して、ウール石鹸を求め、其の包紙を禁酒會頭の手許に送つてくるので、ウール石鹸の賣高は日々幾十萬といふ有樣で、忽ちにして米國屈指の石鹸製造高となつたと云ふことである。

手形と借用證書

第十四章　手形及び銀行取引

商取引には現金取引と掛賣との二ッがある。昔から此の現金取引と看做すべき掛賣卽ち手形の遣り取りと云ふ事はあつたものである。手形と云ふ者は一方からは現金と看ても宜しいのである。又一方から言ふと一ッの掛賣延期定であつて借用證書見たやうな所もあるのである。手形と云ふのは詰り仕拂の期日を定めて、さうして品物を引取ると同時に先方に渡すものであるから、そこが借用證書と云ふものとは違つて居るのである。借用證書と云ふものは現金融通であつて、其の證書と云ふものは他と取引の場合に提供すると云ふやうなことは普通にないことである。所が此の手形と云ふものは商法の規定により手形交換所の所定の樣式に基いて出來て居るもので、殆ど取引間に於ては紙幣同樣に使用されるものである。隨つて借用證書は相對者限りの制裁を受けるのであるが、手形

手形の制裁

の方になると之れを他の取引にも紙幣同樣に取扱はれるのであるから、若し其の仕拂期日に於て間違を生ずると云ふと、取引先全部に對して信用を失ふて遂に商取引を圓滿に爲すことが出來ないと云ふことに陷るのである。其の制裁の及ぼす所から言へば手形は取引全體に向つて制裁を加へられる、金錢借用證書は金を貸したと云ふ人より外には制裁を加へられることはないのである。借用證書も手堅いものではあるけれども、夫よりも商取引の物品に對する支拂手形の制裁は一層殘酷であつて一層手堅いものであると言はなければならないのである。何故ならば手形不渡りと云ふ事になると、手形の振出人は商取引界全體に向つて信用と云ふものを全く失つて仕舞ふて、以後の取引と云ふものが出來ないと云ふことになるのである。單に商取引のみではない銀行の取引と云ふものが全く無くなるのであるから、殆ど本人は絶體絶命に陷つて再び世の中に顏を出すことが出來ないと云ふことが來たるのである。即ち夫は破産と同一なる結果を起して來るので、眞に其の制裁の嚴酷なることは、實際

手形の種類

爲替手形

に之れを取扱つた者でなければ分らぬ位である。尤も都會生活を爲す者は誰しも言ふ如くに、手形程恐ろしいものはないと云ふことが一般に知れ亙つて居るものである。

手形にはどう云ふ種類があるかと申しますと、三ッの種類があるのである。爲替手形と約束手形とそれからもう一ッは、商法の上で手形と看做されて居る小切手と云ふものである

爲替手形と云ふものは如何なる場合に使用するかと云ふと之れは多く遠隔したる取引の場合に行はれるもので、例へば東京の人が大阪の甲商人より受取るべき五百圓の品物代がある、夫から又同じ大阪の乙商人に仕拂ふべき五百圓の品代がある、さう云ふ場合に甲商人から五百圓を東京迄取寄せて、さうして其の金を又乙商人に仕拂ふ爲めに東京から大阪へ送ると云ふことは、非常の手數を要する事である、其所で東京の商人は此の五百圓を何月何日迄に仕拂つて呉れろといふ爲替手形を書いて甲商人に引受けをさせて、之れを乙の商人に渡すのである。さうすれば金を

大阪から東京へ取寄せて復それを大阪へ送ると云ふ不便を感ぜずして、直ちに大阪の甲より大阪の乙に仕拂つて事が足りる、之れが卽ち爲替手形の便利なる所以である。元來爲替手形は此方より荷物を出すと同時に、其の荷物に對して何月何日迄に仕拂つて呉れろと云ふことを言ふて遣る、先方はそれに引受をして返してよこす、夫が卽ち爲替手形である。此の手形にも一定の規定樣式と云ふものがあつて、自由勝手なる書式による譯には行かないのである。卽ち商法の規定に基いて手形交換所と云ふものが定めたる樣式に基いたものでなければならないのである、夫は又必ずしも大阪に對して仕拂ひがある夫から大阪に對して受取るべき勘定があると云ふやうに同じ地方のみに限つた事はない、東京から荷物を送つて直ちに其の爲替手形の引受けをして貰ふて、此方が一旦夫を受取つてそれを銀行で割引くとか、或は他の商店に向けるとかして運轉させることもあるのである。先づそれが普通である。

約束手形

約束手形と云ふものは商取引の上に於て、現金を以て支拂はずして何月

何日に此の代金を仕拂ふと云ふ契約をする場合卽ち延期定のときに用ひられるのである。爲替手形は先方が引受けになり仕拂をすると云ふことによりて、又約束手形は其の手形受取人が裏書をなすことによりて、其の發行人か、引受人か、裏書人か、の一人が充分信用ある人ならば、夫は紙幣同樣に甲から乙に渡し乙から又丙に渡して取引勘定に代へる事が出來るのである。

銀行小切手

小切手なるものは自己が銀行に金を預託して置き、夫を一々現金にて引出して仕拂先に渡すと云ふことは面倒である故、銀行より小切手なる用紙を受取り置いて、仕拂の場所に向つて、自分の預金のある範圍内で之れに金額を記載して、何の誰へ是れだけの金を仕拂つてくれろと云ふことを振出當日の日附を以て銀行に言ふて遣るのである。併し銀行に直接に言ふて遣るのではない、仕拂先きに向つて言ふて遣ると同樣の樣式の小切手卽ち書付を渡すのである。それで仕拂を受けた先方は、是れを以て直ちに其の銀行へ取付ける事も出來るし、又之れを紙幣と看做して自

手形の便利

分の取引先きの銀行へ預け入れることも出來る、又之れを他の取引先に現金と看做して送付することも出來るのである。要するに商取引に於ては最も信用と云ふことを重んずるのであつて、其の書付け一ッは眞に現金紙幣の代用をすると云ふのであるから、便利此の上ないものと云はなければならない。手形の便利と云ふものは詰り其所に在るのである。現金を相互に受授する所の必要がない、隨つて使の者が途中で紛失すると云ふ憂ひもないのである。紛失して見た所で直に現金として使用されるものでないから、之れを拾ひ得た者或は之を盗み取りたる者も夫を何處へでも向つて金であるとして通用は出來ないのである。一度之れを銀行に持行かなければならぬと云ふ手數があるのである。即ち指名した所の銀行に持ち行き銀行から仕拂を受けて始めて現金となるのであつて、其の仕拂を受けない内は相互取引間に於て互に信用し合つて居る者より外には現金と同一なる價は有さぬのである。知らぬ間では其の振出人の信用の度合がわからず、果して其の銀行にそれ丈けの預金があつて此の小

横線引小切手

切手を振出して居るか、又は一文の預金なくして小切手を振出して居るかゞ分らぬ故、此の小切手も亦信用のない價のないものと言はなければならぬ、互に取引の關係上相互の信用を知り居る間に於ては、小切手は現金受授よりも慥に便利であると云ふことである、其所で又一層危險を防ぐために其の小切手に横線引きと云ふものがあるのである。此の横線引は個人が直接に其の銀行へ取付けることが出來ないので、即ち其の小切手受取人は一旦自己の取引銀行の手を經なければならない。自己が又銀行と取引がなければ如何しても現金とすることは出來ないのである。此の横線は銀行が銀行に向つて仕拂をすると云ふ符號であるから、銀行に取引の無い者が此の小切手を所有しても其の小切手は面倒なる手數を經なければ現金に引替へることは出來ないものである。受取つたる本人も商取引社會に信用を有して、己れの取引銀行と云ふものがあつて、始めて此の小切手が金錢同樣なる價値を奏するものである。己れが商取引社會に信用なく、又銀行にも取引がないとしたならば横線引の小切手は

使用が出來ない、詰り面倒な手數を經なければ現金にならないのである。横線引の小切手は不安心なる者を使者に使用した場合に心配の無いといふこと、卽ち受取人が其の金を誤魔化すと云ふことが出來ない、受取人が相當なる資產を有し、銀行に取引があれば出來るのであるが、夫が無い以上は其の小切手受取人は使用の途がないのであるから、途中で紛失して詰らぬ者の手に這入つて見た所で、夫を拾ひ取つた者が之れを現金にするといふには暇がとれる、又携帶上に於ても遺失した場合に於ても非常に都合が好いのである。現今商取引に於ては重もに横線引の小切手を用ゐるが、是れは重寶なことで銀行其者にとりても、直接現金で取付けられないだけ不時の仕拂がないと云ふのであるから、此の上もない便利と云はなければならない。

手形の利用法

夫から爲替手形も約束手形も亦頗る便利なるものである。爲替手形に於ては今より五十日以後或は六十日の後に仕拂つて呉れろといふを先方が引受けたとすれば其の手形は又之れを現金に引替へる事の出來るものである。それは如何にするかと云ふに、引受人が既に經濟社會に信用のある者であれば振出人が微々たる者でも、其の手形を銀行若しくはブローカ(割引銀行)に持ちゆき其の日より引受期限迄の金利さへ仕拂へば銀行は之れを現金と引替へて融通の途を立てゝ呉れるのである。夫故に確實なる手形は現金同樣であつて、割引して呉れるものさへあれば現金にして之れを使用する事が出來、又割引せぬでも之れを他の取引に仕向ける事が出來るから洵に便利なるものであると云はなければならぬ。約束手形も矢張り同樣である、何月何日に仕拂ふと云ふ手形を振出した者が、相當に信用がありこれを受取つた者に相當の信用あれば、受取人は其の手形に裏書をして之れを銀行へ持ち行き、銀行は其の仕拂期日迄の金利を差引いて現金を渡してくれるのである。夫であるから經濟社會全體から言へば、百圓のものは二百圓に働くと云ふことがあるのである。仕拂ふべき人も今直ちに現金を以て仕拂はないで、更に六十日先きの日附けに仕拂ふと云ふ約束手形を書くのであるとすれば、六十日間は自分は仕拂

ふべき金額を以て他に之れを運用して商法上相當の利益を得る譯であり、又その約束手形を受取つた人も同じく之れを受取ると同時に之れを割引して、其の金を商業上に運用する事が出來るのである。夫故に經濟界に於ては百圓のものは二百圓に働き五百圓のものは千圓の働きを爲すといふ樣に流通貨幣の二倍の働きをなすのである。

經濟界と手形の關係

手形は斯くの如く便利なると同時に又甚だ危險の性質を持つて居ることは恰も電氣の偉效あると共に危險なると同じである。即ち經濟界に於て手形の流通が盛になれば假りに日本銀行が一億圓の兌換券を發行してさうして經濟界は二億圓の活動を爲して居るのと同じであるから、此の差引一億圓と云ふものは相互取引者間の信用のみで活動して居るのである、夫故に信用ある商店が一朝其の手形に對して違約をする、即ち不渡手形と云ふものが出來ると云ふと、經濟界は直ちに恐慌を來たして、誰も彼も皆手形は不安心なるものであるとして受取らぬやうになる、さうなると今迄二億圓の活動を致して居つたものが急劇に一億圓乃至一億五千萬

手形の危險

金融逼迫

圓の活動しか出來ない事となる、其處で金融逼迫諸式暴落と云ふことが起つて來て、物價は下落し公債株式總てに影響を及ぼすのである。之れが即ち最も恐るべきことである。又個人の方面よりすれば、手形は己れの資產の倍の働きを爲すのであるから一朝不渡りと云ふ場合になると、直ちに仕拂ふべき所の財產が半額しかないと云ふことが來たるのである貸したる者も二百圓貸して百圓しか取れない、全體の經濟界に於て債權者は二分の一しか手許へ戻らぬといふことが來るのである。夫故に手形は便利であるが、又非常なる危險なるものと云はなければならぬ。それから手形といふものは、商取引即ち品物に對して發行するものであるから、例へば手形不渡りを來たしても、其所には手形相當なる所の物品があつて、其の物品を捌けば其の手形と同じ價格を有して居るのであるから、左程の危險は無い者であるともいひ得るのである。乍併振出人が其の物品を浪費して仕舞ふとか、又は甲と乙と取引商人相互が實際物品の取引が無くして互に一時の融通を圖るが爲めに相互に手形を發行す

融通手形

ると云ふことが起らぬとも限らない、さうなると危險といふことになつて來るのである。經濟界では實際取引がなくて發行する手形を稱して融通手形と云ふ。融通手形なるものは一朝不渡りになると、これに對する品物は何所を尋ねても無いのである、卽ち相互取引なくして而も完全に取引あるものとして相談づくの上に發行したのであるから品物の無いのは當然である。そこで支拂が出來ないとなると當人同士は無論のこと、此の手形を預つて信用あるものとして取引した者は、全く意外の損失を見ると云ふことが起るのである。

もう一ッ此の手形に就いていふべきことは、商業社會に何等の信用もない又銀行に對しても實際取引のない者が、借用證書の代りに發行すると云ふことがある、之れは手形の本來の性質を亂用するものであつて、其の手形なるものは全く運用の出來ないものである、卽ち甲の金貸が乙に金を貸して唯手形で預つて置くと云ふに止まる、其の支拂期日が來ても手形發行人たる乙は、固より何等の信用も經濟社會に無い者であるから

手形に對する警戒

平氣で居る、さうなると手形と云ふものは借用證書と聊も異なる所がないので、矢張り之れを裁判に持出して貸金と同じ樣な手數を經なければならぬことになるのである。商取引上信用ある者以外の手形は、手形の本旨に反して居るのみならず、其の效力も亦無いので、斯る場合には仕拂を受くべき受取人は常に損害を見るのである。夫故に手形受取人は常に警戒して先方の經濟社會に對する信用如何と云ふことを取調べる、其の取調べる爲めには、或は興信所に依り、或は各種の方面から調べて掛らなければならぬのである。

手形の危險と發行者

手形といふものは獨り受取人にのみ危險なばかりでない、發行者に於ても亦大いなる危險なものである。元來借用證書の如く個人が內々で金融をして貰ふと云ふのとは違つてゐて、手形は公然取引上の仕拂期日を定めたものであるから、其の期日が到來するまでには其の手形が何所へ廻つて居るかは分らぬのである、紙幣同樣に甲から乙、乙から丙、丙から丁と云ふやうに轉輾して行つて居るのであるから、個人同志の貸借とは

違ひとして情實と云ふものは容れないのである。其の手形を渡す時には年來の取引知己に渡すであらうけれども、既に渡した手形は何等關係の無き他の方面に、紙幣同樣に流用されるので何時か自分と取引の無い銀行に於て切られてゐる。切られると云ふ事は割引かれるので、其の手形を預り利息を差引いて金として持參者に渡して仕舞ふので、夫で其の期日が來ると云ふと直ちに取立てが來るのである。其の取立といふは發行人へ直接に來るのではない發行人の取引のある所の銀行に向つて仕拂を請求されるのである、其の取引銀行に來て請求するのではない、卽ち手形交換所と云ふのがあつて、其の手形交換所に於てどし〳〵手形が交換されて其所に取引が決定するのである。其の折に若し何々銀行に於て仕拂ふと云ふ支拂場所を指定して置きながら、其の銀行に仕拂に對するだけの預金が無ければ、直ちに首斬處分と云ふ處分が來るのである。首斬處分になると同時に、自分が是迄發行して居る所の手形全體がばた〳〵と取付けが來て一時に其の人は破產して仕舞ふのである。例へば今日仕

手形交換所

首斬處分

拂ふべき所の約束手形は百圓であつて、來月の三十日に仕拂ふべき所の約手が千圓あるとすれば、其の百圓に對して不渡りであれば千圓の手形所有者は直ちに取付けに來るか、又は財產差押への手續をする、其の他幾枚もの手形はそれが爲め交換所に於て信用すべからざる者として扱はれるのである、卽ち不渡となれば翌日は新聞に揭載され各種の銀行に通知され、與信所は之れを入會者に通報するので、己れは何等の取引をも爲すことが出來ないやうになつて仕舞ふのである。元來期日であれば其の期日の午後の十二時迄に金を入れてもよささうなものであるが、決して手形は夫を許さぬのである、少なくとも其の期日の午前十時迄には支拂ふべき現金が指定銀行にあるか、又は其の銀行と特別契約があるのでなければ、如何に遲れても其の日の午後二時迄に現金を以て自分の取引銀行に預け入れなければ、取引は總て停止され自分の信用は地に落ちて再び商業界に顏を出だすことが出來ない。取引停止が解除になつて見たところで最早元通りには信用されないのである。

かくの如く恐るべきだけそれだけ各種の商人は自分の實際の資本の三倍も十倍もの取引をして居ると云ふことが分かるのである。夫程に手形なるものは便利なるものであつて、さうして全體經濟界の膨脹發展が其所に存在して居るのであるが、若し一朝にして一人の不渡り手形があり首斬處分に遭ふ者があれば、日本の經濟界は轡の物に應ずるが如く、取引上の圓滑を缺き經濟界の恐慌と云ふものが來るのである。誠に手形は恐るべきものであると言はなければならぬ。

銀行取引

そこで又銀行との取引といふことを一言して置かうと思ふ。商業上の手形と云ふものは必ず其の支拂場所は銀行を指定するのである、個人の自宅拂抔と云ふことは寸毫も許す所ではない、其所で自然と有效なる所の手形は、銀行と取引もあり信用ある商人でなければ、發行しても何等の效力も無し、又受取つて見たところで何等の效力もないと云ふことが來たるのである。夫で銀行と取引をすると云ふことが先づ先立つのである。既に銀行と取引を開始して居れば、其の者は經濟社會に於て多少信

銀行の性質

用ある者と云はなければならない、銀行との取引は如何にするかと云へば、何の面倒もない詰り金さへあれば何時でも取引は出來るのである。銀行の營業は金を預け入れて呉れる者が無ければならんし、又金を借りて呉れる者が無ければならんのである。預け入れる者は喜んで之れを預け入れ、預かつた所の金は之れを他に融通してさうして其の間に利益を圖るのが銀行の營業である。例へば年六朱の利を以て預つて、之れを年一割の利を以て貸すと云ふ、其の仲立業者卽ち金融機關が銀行であるから、銀行は其の差額四分と云ふものを得て己れの利益とするのである。如何なる人でも銀行には預金があるであらう、併し商人の預金は普通官吏や又はしもたや住居をして居る所の人の預金とは方法を異にするのである。平日金を忙しく運轉しない人が銀行に向つて預金するのは定期預金である。安りに引出さない約束の下に預金をする、又僅かなる金錢をぼつ〳〵預け入れるのは貯蓄預金である、是等は勝手に引出すと云ふことは出來ない、自身實印を携帶して行つてさうして帳面に捺印して金を

定期預金

貯蓄預金

引出すと云ふのである。商取引に於ては左樣なる不便なことは到底出來るものではない、前申す通り小切手と云ふものを預金者が發行して、自分の仕拂日に一片の紙片を渡して遣ると云ふ位であるから、極めて金錢の出入が頻繁なるものである。夫故一々銀行に實印を携帶して行つて出し納れが出來ない、其所で當座取引と云ふものを銀行と開始するのである。當座取引と云ふものは預け入れも頻繁であり引出しも頻繁であるから、銀行は當座小切手帳と云ふ帳面を預金者に渡して置く、預金者は自分の預金のある範圍内に於て、或は甲に仕拂ひ或は乙丙に仕拂ふと云ふ場合に、其の小切手面に仕拂ふべき金高を記し、受取るべき人名を記して、自己が捺印をして之れを其の人に渡して遣る、請取人は其の小切手を持つて銀行へゆくと、銀行は夫を一覽して間違ひが無いと信ずれば、直ちに先方の受取人の見ず知らずの人に預金者の金を引出して仕拂つて遣るのである。夫で此の便利なる當座取引を開始するには如何にするかといふに別に六ヶ敷い條件は無い、尤も大いなる銀行と小なる銀行とは

當座預金

當座取引の開始

自ら違つて居る、例へば今茲に安田銀行と當座取引を開始しやうと云ふならば少なくとも常に二三千の預金をして置くと云ふ考へを持たねばならぬ、其の他大銀行に於ては常に千圓以上の預金があると云ふ位でなければ安全なる取引は出來ないのである。夫は自分の預けた金であるから一文無しに之れを引出すのも自由であるけれども、銀行は夫が爲めに足り不足の仕拂をして行くと常に其の者の爲めに警戒をしなければならぬと云ふので安心して其の小切手に對して仕拂をすることが出來ない。一一其の口座を繰返して見なければならぬ、又手形交換所に於て一々自己の銀行に照會しなければならぬ不便を來たすのである。夫で少なくも當座預金を開始しやうと云ふのには、小銀行と雖も百圓の金は常に預けて置くと云ふ考へを持たなければならぬ、然らざれば銀行は己れに利益する所なくして單に其の當座預金の取引を開始した人にのみ便利を與へるので、銀行自身は更に何等の益する所が無いと云ふことに陷るので、有難い得意とすることは出來ない、夫故にさう云ふ人に向つては、銀行は

冷淡である冷酷である殘酷であると云ふ處置をするやうになつて來る。

夫が爲めに常に百圓乃至五百圓千圓と金が纏まつて殆ど定期の如くに殘る所の人に對しては、萬一仕拂に對する預金不足があつたとしても五十や百の所は銀行が一時立替へて置くのである、之れは銀行が預金者に對する義務であつて其所で雙方當座取引の效能と云ふものがあるのである。

銀行は對物信用なり

元來銀行と云ふものは何事に向つても金である、夫故に人を信用するのでなくして金を信用するのであるから、其の冷酷と云ふことは劇しいものである、其の間に於ては何等の情實と云ふことの無い所から、隨分銀行の遣り口が惡いと云ふて腹を立つ者もあるけれども、夫は銀行の遣り口が惡いのではなくして、自己が常に銀行に對して多少の利益になるやうに預金をして置かずに、唯銀行に向つて己れの利益になるやうに圖り、入れては直ちに足り不足に引出して、銀行を空虛にして置くから銀行は其の者の爲めに益〻冷淡になり冷酷になるのである。金さへ多く預けて置けば銀行は實に喜んで詰り如何やうにもなるのである、夫で銀行の取

銀行の義務

引に於て注意すべきことは、成るべく最初に於て預金を多くして置き、さうして其の內に銀行の支配人なり何なりと相當なる親密の交際を結ぶと云ふことを考へなければならない。其所で始めて今度は銀行が其の預金者に對して融通をすると云ふことが來たるのである。例へば甲の商人に對しては一萬圓迄は貸出しは出來ると云ふ見當を立て、乙の商人に對しては五千圓迄は貸出し得ると云ふ見當を立てゝ、さうして先方が取計らつて呉れる、夫故に銀行に一文の預金なくても、一萬圓迄は銀行が融通もし割引をして呉れ、五千圓迄は割引してくれるといふ實に重寶なることが其所に來たるのである。之れは又銀行自身にしても一旦自分の店舗の取引者得意先とした以上には、成るべく永く面倒を見てやらんければならぬ、飽迄も其の得意先を助けて今日の經濟界に蹉跌なからしめやうとするのが、是れ亦銀行たる所の當然の義務であると云はなければならぬのである。夫を爲させるには、此方もまた銀行に對して相當の事を爲さなければならぬ、卽ち成るべく銀行の利益になるやうにし又相當なる

交際を結び親密なる交りを爲すと云ふことが、最も必要なのである。

第十五章　機密偵察幷に新聞記者

機密を守るべし

本章に入るに先だつて德義上大切な事は機密を守るといふ事である。是れは一家に於ても友人間に於ても亦諸團體に於ても諸官省に於ても最も大切なる事である。だが世間には兎角機密があるとなればそれだけ人は物珍らし氣に語りもし又聞かうとする傾きがある。機密を守るといふ事も矢張り信用の一ッであつて、其の家庭に在つてもそれ〴〵の機密があらうし、商業には商業の機密といふものがあり、官府に在つては官府に相當なる機密といふものがある、それを暴露して以て樂しみそれを聞いて人に誇り語る樣な事は人間社會に於ける最も不德の事と言はなければならない。又さういふ人があるといふと、人は常に彼れには何事も言はれぬ、彼れには何事も示されぬと注意警戒されて、結局自己出世の出來

秘密と隱蔽

秘密の必要

ぬやうな事に陷るのである。世間の人が能く言ふ、何事にも秘密は無い、秘密は無いといふ、併し乍ら人間には秘密が必ずあるものである。勿論不正なる事は是は秘密といふのでは無くて全く隱蔽といふ事になるのである、隱蔽は最も人の憎む可き事、又隱蔽せんとすればするほど又顯はれ易いものである。語に曰く隱れたるより顯はるゝは無しといふのは卽ち其の事である。秘密にすべきことは、之れを發表するため自己にも團體にも不利益を來すもので、適當の機までは發表せないといふのであつて、事が不正とか罪惡とか云ふわけのものではない。此の故に官省に於ても服務規程中明かに機密を守るべきをいひ、それと同じ樣に一ッの仕事に働いて居れば、其の仕事に關してはそれ〴〵機密といふ事がある。それを明け放して仕舞へば或は他に商略に乘ぜられるとか、若くは先んぜられるとかいふ事は免れない事である、又人に使傭されて居るとすれば、その主人の爲めに不利益なることを口外するは不德義で罪惡であるは茲に言ふまでもないことである。又學者に於ても同じ樣に秘密のある

ものである、自分自らが研究する所のものは之れが漏洩すれば其の發明は或は人に先んぜられないとも限らない、假令ひ先んじて見ても學界に益する事は何れも同じであるけれども、折角の苦心した材料の其の部分が人に知れて人は其の部分の助けに依つて發明をすることもある、かゝる場合には前者の苦心といふ者は全く水泡に歸さなければならぬ。而して他の發明者は人の苦心を利用した事であつて、實に不義不德と言はねばならぬ、是れ卽ち機密の必要なる所以である。

秘密漏洩の惡德

又隱蔽といふことも必ずしも罪惡ではない、自己の過失とか失態とかゞ世に知らるゝを憚るだけに良心に對し恥ぢ居るものである以上は、之れを許くは不德の所爲といはなければならぬ。尤も其の事が近き將來に於て社會に迷惑が掛るとか公衆に危害を與ふると云ふ場合は之れは特別である。要するに家庭に於ても個人に於ても、吾々が聖人君子でない以上は弱點や缺點のないとは言はれぬ、其の弱點缺點を擧げて其の威信を損せんとするは、これを惡意の行爲と言はなければならない。それ故に互

機密と新聞記者

に人の身の上の事や人の家庭の事は之れを人に告げ若くは知らしめると、いふ事は不德として最も賤しむ所である。

日本の新聞紙の中には隨分個人に關する事又一家に關する事で、何等世の中に裨益を與へずして單に讀者の好奇心に訴へるといふ樣な目的を以て之れを公に許くといふ事があるが、苟もその事が祕密にして且つ社會公衆に危害を及ぼすべき事でない以上は、人類相互の德義として之れを公にすべきものでない、そこが又操觚者の威德を損せざる所である。然るに記者自らの地位を顧みず社主の利益の爲めに如何なることもするといふに至りては、劣等の新聞と言はなければならぬ。歐米新聞は此の點に於ては出來得るだけ互の威信互の德義として又文明及び社會の秩序を維持する爲に個人的の恩讐偏見を許さぬので、從つて新聞記者の品位高く一般國民より眞誠の敬愛を受くるのである。併し事苟も一般國民の利害に關係することにして、天下の知らんことを望む事件の成り行きの如きは記者の職責として一刻も早く國民に告げなければならぬ、斯る場合

秘密探知の必要

には機敏に事の成行きを探知して之れを國民に報ずるので、之れが卽ち機密を探るといふのである。固より事國家の重大事件にして之れを發表すれば自國民を利するよりは、敵國に好資料を供するやうになる場合には、例へ記者として之れを知り居るとも公にすべきものでない、之れを公にするは卽ち官機漏洩にして國家の罪人たらざるを得ないのである。又此の機密といふものは必ずしも人間が故意にのみ爲すことばかりではない、廣い意味に於ては社會の現象中には幾多の機密が存在されて居るのである。此の現象は何が原因であるとか、此の時機が良いとか惡いといふ事等も自己の便利のみを考へていふのではなく、その者が社會現象の機密を觀察しての結果である、我々は常に其の時機如何といふ事を探つてさうして仕事するのである。其の緻密にして鋭敏なる判斷が當れば、その人は其處に自己の目的を達し得るのである。外交の局に當る者は常に對外國の國民の意向、政府の意向といふものに注意して、有ゆる方面から其の適當なる機運の趨勢を見出し、或は機密を聞き出して之れ

社會現象と機密

に對する外交手段を講ずるものである。是等は今日の世界に於て已む可からざる事である、同人間に於ての機密は相互に之れを守り相互に之れを秘するの義務があるが、對外的の仕事では是非とも之れを探りてその機に投じ其の變に應ずるといふでなければ何事も成功は出來ぬのである。此の機密を探るといふ事は頗る困難な事で、又敏捷なる働きを爲さなければ成功はしないのである、單に又敏捷なだけではいけない、立派なる推理判斷の力、卽ち合理的推測といふものが必要なのである。

秘密探知の方法

總ての事に向つて其の大勢を機微の間に前知し得るならば人は何事にも之れに應じたる方策を立て、其處に何事にても成功するのである。今日は電話なり電信なり各種の通信機關の具備せるにより千里先の出來事も一瞬間に之れを知る事が出來るといふ世の中であるが、併しまだ〳〵此の大勢を機微の間に察するといふ事は容易に爲し得る者では無い、相場の高下抔は外國電報が這入つて來て初めて相場の高下が其處に現はれるといふ樣な事ではない既に這入らぬ前に於て其の形勢が機微の間に現は

大勢は機微の間に存す

精神感動と明智

れるといふ位で、實に不可思議と云ふべきで天地間に於ける一ッの精神感動は千里先にあるもので、何等の通信なくも是等に熱心に心を傾けて居る人には、神來卽ちインスピレーションとでもいひませうが、それが自分に分るといふ位でどうも人類間の感應卽ち精神感應は實に恐ろしい程である、又精神感應のみでなくそこに至るべき形勢機運は社會現象中に必ず存在して居るので、其の機微の伏在を探知せんとする熱心あり又之れを探知する明智あるものは、之れを觀察して之れに應ずる處置を爲し得るものであらう。普通の場合に於ても人が或ることに熱心になつて居るといふと、世間の總てのものが皆此の人に都合よき材料を給與するといふ樣な工合になつてくるのである。熱心なるだけ總てのものに自己が注意するから、其の中から材料が得られてくるといふのである。横濱の平沼專藏といふ人は金持である、彼れが最初の金儲けは何であるかと言へば遊廓の二階に於て、隣室の外人が米を買ひ入れる相談をして居るのを漏れ聞いてそれに應ずる手段を考へ、直に其の家を飛出して米

注意と判斷

を買ひ占めてその爲に金儲けの端緒を開いたといふ事がある。又紀伊國屋文左衞門は、本郷丸山本妙寺より出火したとき、當日の天候と方位と風力とを察知して、火事の眞最中に旅裝を整へて木曾に出掛け木曾の材木を一手に買占めて歸京すると、果して非常の大火で江戸全市は烏有に歸したので一時に巨萬の財產を造つたといふ事がある、是等は詰り先見の明とか神の暗示とか言ふのであらう。又平沼專藏の如きは誠に僥倖なる話ではあるが、されば言つて自己が其の事に向つて常に心を傾けて居らなければ隣室の人の話も斯く迄自己の金儲けの材料にはならぬであらう。

尙此の機微の間に於てそれを察したといふ例はッイ近く外國にあつた事がある。六七年前の事であつたが、英國より印度に太守を送るといふ事になつた、そこで印度の太守となつて行く人は誰であらうかといふ事が世間の問題に上つた、併し乍ら其の誰であるかは機密に附してあつて、誰が太守になる事であるか一向に分らなかつた、すると或日の事であつ

たが、倫敦タイムスが、今度カーゾン卿が印度太守に任ぜられて不日出發するといふ記事を掲げて、全英國人を驚かしたのである。果して數日の後カーゾン卿が印度太守に任命された、それを數日前にどうしてカーゾン卿であるといふ事を倫敦タイムスが知つたのであらうか、倫敦タイムスは實に機敏なるものであると言つて他の新聞記者も驚き、政府自身も如何にして此の機密が漏れたかといふ事に就いては殆ど誰も彼も呆氣に取られて仕舞つた。其の後に至つてどうして此の機密を知り得たかと言ふことが分つた、それは何でも無い、太守任命の數日前或る名士の晩餐會があつて、晩餐後に皆雜談に耽つて居つた、其處に倫敦タイムスの記者が居つた、すると色々雜談中にカーゾン卿が懇意な醫者に向つて、どうだらう僕の身體でも是で熱帶地方の氣候に堪へるであらうかといふ事を話したので、之れを小耳に挾んだ機敏なるタイムス記者は、ハ、アして見ると、今度印度太守になる者は誰でも無い、カーゾン卿に相違ないといふ事を判斷したのである、そこで翌日の新聞にカーゾン卿が印度

成功と注意

太守に任命されて不日出發するといふ事を報道したと云ふ事がある。如何に彼れが機敏であるか、カーゾン卿が雜談中熱帶地方の氣候に堪るか否やといふを聞いて直ちにそれと推斷してカーゾン卿が太守になるに相違ないといふ斷定を下したといふ其の邀の呼吸は餘程機敏なものでなければならない。又さうして合理的判斷といふものが餘程巧みでなければ出來ないのである。相場の高低抔に至つては常に斯ういふ樣な機微の間から直ぐ察して、或は賣り或は買ふといふ事が起るのである。吾々が常に人の話を注意して聞き、天地間の森羅萬象に向つても常に注意觀察を怠らぬやうにすれば、必ず發明するところが有るものであらう。

此の注意といふ事は無論養はねば出來ぬ事で、子供の時は頭に注意せよと言へば足で物を蹴跪づく、足に氣を附けよと言へばランプに頭を觸れる、道を歩いて知合の者と通り縋つても氣が附かぬ樣な場合がある、路傍に錢が落ちて居つても心附かずに通るといふ者が世間の普通である。併し段々各種の經驗に依つて、同時に頭をも氣を附け足をも氣を附ける

東京人は活馬の眼を抜く

といふ複雑なる注意力が出てくるのである。されば世の中は注意の仕方に依つては幾らも其處に仕事も落ちて居るだらう、金も落ちて居るだらう。唯人の注意や智恵が不足であるから、金儲けの工風を考へ出す事も出來ず、相當なる職にも有り附く事が出來ないのである。東京生活に於ては最も此の注意といふものが十分でなければならない。所謂東京は活馬の眼を抜くといふ位の所で人の懐にある物でさへもドシ〳〵奪ひ去るといふのであるから、人は常に機微の間に注意し、社會現象の大勢に目を留めて、さうして仕事をして行き、又それに依つて仕事を見附け出すといふ事をしなければならないのである。人に接して雑談中にも其の機微の間に隨分必要なる事があるのである、幾らも人は成功の材料を蒔いて呉れるものであるから、それ等を自分が常に注意して自らの物として行くといふ事が必要である。

それで話が少し前に戻るが、相場の高低云々といふ事を云ふたが、此の相場の高低を知るといふ事抔も、合理的に之を知つた結果として大に儲

相場の高低

投機の狹義と廣義

け得る事もあらうし、又偶然に只人眞似をして大に儲かるといふ事もあるのである。偶然の結果といふ者は是れは常に有る事では無くして、いつも其の手段で金儲けが出來ると思ふのは大いなる間違である。合理的の結果に依つてするといふ事は是れは當然な事であるが、相場の如き者は何れかといふと、先づ普通吾人が認識し得る程度の合理的判斷では出來ないものである。我々は相場學といふものを知らぬが、幸に社會現象を觀察して事の機密を探り得るとか、或は天候を豫知し得るとかといふ樣な場合であつたならば、是れは合理的の結果で當然利益も得られやうが、先づさういふ事は常人が常時の相場に於ては出來ない樣に思はれる。相場の如きは明瞭なる投機的の仕事であるが、此の投機的の仕事といふものにも亦廣い意義と狹い意義とある、廣い意義に於ては何事をも投機的と言はなければならぬのである。例へば三越に於て各種の模樣を染出すにも、皆其の時代の大勢といふものに鑑みて其の流行の機に投じて魁をするのである。其の機に投じなければ成功は實際に於て出來ないもの

新聞記者の任務及び資格

である。今何が流行ると言へば其の流行るものに向つて人は進んで行かなければならぬ。例へば出版の事業に就いて言へば愈〻學制が改正される、さうなれば是々の書物は皆新に編纂されなければならぬといふ事に着眼して、其の機に投じて行けば初めて自己のした事が歡迎されるといふ事になるのである。

さて爰に最も新らしい事を世の中に傳へる事業、即ち新聞なる者の記者は常に此の機に投じてする事、又其の機を前知するといふ事が極めて必要である。或は政府が採る所の方針、或は内閣の變動、或は外交上の出來事、戰爭に於ける各種の報道、經濟界の狀況總て是等は國民が新聞によりて知るのであるから、新聞記者は即ち其の機密を早く知つて之れを讀者に傳へ、讀者をして安心させ、警戒させ、又讀者に社會活動の方針を示して呉れなければならぬのである。要するに新聞記者たる者は之れを探るだけの明智を有して居らなければならない、それには社會の上下を通じて交際も廣くて圓滿でなければならぬ、又自己の運動も頗る機敏

でなければならないのである。故に世に操觚者として立たんとするならば、先づ自己を顧みよ、心術上訐いて以て善となすが如き或は又人の缺點を種に脅迫取財を巧むが如き惡劣の素質あるか、妄りに感情に馳せて偏狹のことをなすが如き神經質ならば須らく記者たることを思ひ止まるがよい、記者は社會の尊敬を受くべき職務であるから、從つて愼重でなければならないし、品性も高潔で人格も圓滿でなければならぬといふことを自覺しなければならぬ。

第十六章　相場に手を出す心得

人の精力と云ふものは身體の健康不健康如何に關するものである。身體が健全であると同時に其の精力と云ふものも亦旺盛なるものである、それ故に健康なる者程血氣勃々として冒險的な事を企て、又如何なる險難にも耐へると云ふのが普通である。尤も體質は至つて健康であつても、

其の遺傳習慣教育に依つて、極めて着實に投機的冒險的な事を嫌ふ人もある、又體質に依つて實際さう云ふ事が爲し得ないと云ふ者も多分に在るのである。或る者は又一時的の興味に乘じて冒險的なる事をする者もある、之れは寧ろ日常健康狀態の上から言ふて一時の興に乘じたと云ふのに過ぎないのである。確に人の性質として特別に冒險なる事を好み、投機的なる事を嗜くと云ふ特殊の嗜好と云ふことがあるのである。どうもさう云ふ人は一日も此の投機的なる業務を離れて着實に仕事をして行かうと云ふことは出來ないものである。

健康と冒險

特別の趣味

夫故に冒險的なる事を爲さうと云ふ位の人は先づ身體が非常に强壯でなければならない、固より人には特別の趣味と云ふものがあるので、其の特別の趣味を感じないことには誰も手を出すものはない。併し特別の趣味が幾らあつても自分の身體と意志とが强健でなければ冒險なる事、投機的なる事には、其の身體が耐へないとか其の精神力が耐へないとか云ふことは確かにあるのである。夫で又冒險的なる事を仕樣と云ふ位な人

意志と投機

は、意志が極めて丈夫でなければならない。意志の薄弱なる者は一回の蹉跌でも直ぐに之れは行けない、之れは駄目であると云ふて夫を見限る。之れは如何なる健康の人にも能くある事である。恐ろしがつて手出しが出來ない、或は一旦手出しをして見たけれども失敗した、それが爲めに自分にはさう云ふ事は出來ないと云ふて、二度と其の事を顧みぬと云ふ事がある。之れは一方から言へば大いに悟つた譯でもあらうけれども、又一方から見ると元來相場に手を出すといふには、深く慮かつた後のことであらう、それを只一度で手を引くといふは意志が弱いからであると云ふことにもなるのである。米相場であるとか株の賣買であるとか云ふ事に手出しを爲す者は、身體が健全であつてさうして意志が强固で、極めて大膽不敵の冒險的性質を有して居る者でなければ出來ないのである。小膽なる者は一回の大暴落に出會つて、非常なる損失をすれば直ちに夫が爲めに意氣が沮喪して仕舞ふのもあり、又非常に精神活力を失つて殆ど役に立たなくなつて仕舞ふのもある。それ故神經質の人や意志の弱い

投機業者の資格

人は最初より手出しをせぬがよいのである。そこで他迄大膽で意志が強くて身體が丈夫であるならば、其の人は相場に手を出しても宜からうと思ふ、けれども元來から言へば、此の相場と云ふもの程時々刻々の高低の劇しい者は無いのである、今騰つたかと思へば直に下落する、下落したかと思へば更に何所迄も底止する所なく騰貴して行くと云ふ位で、實に千變萬化得て端倪すべからざる位な者である。隨つて此の相場に從事する者は、隨分多血質と見らるゝものも神經過敏に陷るものである。況や生來神經過敏なる者であつたならば其の一刻一時の相場の高低と共に、常に己れの心臟の鼓動が夫と高低し、其の精神作用が相場と共に昇降して青くなり赤くなり黑くなると云ふ、精神活動に不調の波動を與へることになるのである。さう云ふ風に劇しき相場の高低の爲めに自分の膽玉が昇降し、自分の顏色が千變萬化すると云ふやうな人では、其の人は投機的の相場をやるに適さぬのである。又左樣な人であると買へば下落し賣れば騰貴すると云ふやうな具合に、常に相場の後を追ひかけて歩くと云ふ始末になつて仕舞ふのである。實に一刻の間にも變化極り無い所の仕事に從事しやうと思ふ者は、之れと自分が見込みを立てた以上には、其の刻々の高低には何等の思ひをも勞さないと云ふ精神活動の平調な人で、おまけに大膽不敵な人でなければならないのである。かゝる人にして始めて自分が見込んだ期日迄泰然として待つて居る事が出來るのである。言葉をかへていへば相當なる思慮分別卽ち智力判斷と云ふものを有して居ると共に極めて大膽不敵で、時々刻々の相場の爲めには殆ど自己は對岸の火災を視るが如き心を持つて居るやうでなければ相場と云ふものは出來ないものである。現今成功して居る所の相場師を見ても、多くは肥大圓滿なる太腹の人間であつて、一人も痩せ衰へた神經質な人は無いのである。夫は彼等が成功したからさう爲つたのではなくして、夫程の健全なる體質及膽勇を有して居たればこそ成功したのである。之れは卓に相場社會に限らず何等の業務に於ても、成功する位の人は體力精力共に健全であると云ふ人である。健全でなければ落着いて着々功を奏す

相場は人を極度に興奮せしむ

健康と成功

る抔と云ふことは出來ないものである。況や時々刻々に其の高低の頻繁なること殆ど他に類を見ずと云ふやうな相場社會に在りては、一層此の身體の健全、意志の强固、大膽不敵と云ふ三つの箇條を要することが多いのである。

相場に手を出すものは慾最も深し

最鋭なる人間の巣窟

普通の人でも一旦此の相場に手を出す位な者は必ず非常なる慾の深い者である。縱令活馬の眼を拔いても慾の爲めには厭はないと云ふ程の性質を有した人間であるのである。夫故に東京でも兜町とか蝸殼町邊に徘徊して居る所の人間別けて飲み屋と稱する人間は、その鋭いことに至つては普通人の及ぶ所ではない。運好くば人の懷中の金をも拔き出して、之れを自分の相場に使用しやうと云ふ程の人間があるのである。併し人は窮すると云ふと如何にもして一時に自分は相當なる金持になりたいと云ふ考へを起すものである、さう云ふ考へを起すと同時に、株と云ふものは運が好ければ儲かるものださうだから一つやつて見やうと云ふ考へになり易いものである。自分も嘗て若かつた時に或る株の下落の折に、夫

相場に手を出した一例

を買入れやうとした事がある、夫は定期で三ヶ月の後の相場を見定めて買入れたのである、然るに毎日相場附けの新聞を見ると云ふと騰貴することはなくして三日も四日も毎日々々續けざまに下落して居る、家に居ろてはら〳〵として心配をして居る、終には餘り下落するので耐へ得ずして、五日目には遂に一株に付て五圓宛の損失を以て之れを賣拂つて仕舞つて漸く安心することが出來たのである。そこで我々は到底斯う云ふ社會に立つて心配することはとても出來ないと其の時につく〴〵思ふたのである。日々の相場の變動に斯くも心を傷ましむるやうでは、到底斯う云ふ事は出來ないと思つた、夫は意志の薄弱の爲めであるか否かは知らぬが、其の以後は斷然廢して仕舞つたのである。然るに可笑しい事には自分が三ヶ月の定期で買つた株は、其の三ヶ月目には自分が買つた價よりも一株に付て七圓八圓と云ふ高値を示したのである、其の時迄自分が之れを持ち耐へて居れば、始めて其所に利益があつたのであるが、偖て人と云ふものは悲しい事には、どうしても目前の日々の相場の高低が

氣になり三ヶ月後の事は忘れて仕舞つて、日々胸を動悸つかせて居つたと云ふのは愚の至りと云ふべきで、今日に於て考へて見ると滑稽實に笑ふに堪へたる次第である。故に日々の相場の高低に心を傷ましめる樣な人は、相場などに手を出すべき者ではない、之れに手を出すが爲めに人の命は縮まつて仕舞ふて、終には悲慘なる最後をも遂げるやうな場合に陷らぬとも限らない、隨つて此の兜町蜻殼町邊に徘徊して居る所の者は此の株の爲めに失敗を爲し或は米相場の爲めに失敗をして、田舍の田地田畑をも丸で賣り潰し、其の最後の揚句には遂に自殺をするとか發狂するとか、自暴自棄に陷るとか云ふことは珍らしくないのである。夫を以て見ても投機的のことは、如何に精神上に急劇に激烈なる所の刺激を與へるものであるかと云ふことが分かるのである。併し人は若い時に於ては冒險的の氣性に富んで居るので、虎穴に入らずんば虎兒を獲ずなどと云ふので斯かる所に飛込むものもあるが、虎兒を獲る所の騷ぎではない、其の虎穴より出づることが出來ないで生涯彼の巷に徘徊し、或はその爲

虎穴に入るものは出づる能はず

めに身命を滅亡すると云ふやうな者は實に珍らしくないことである。そこで其の成功者はどうであるかといへば千人に一人か二人しかないので、あとの九百九十九人迄は孰れも再び正業に就く事の出來ない程にのらくらものと墮落して仕舞ふのである。まことに投機の巷と云ふものは人間墮落の掃溜めであると云ふても宜からうかと想はれる位である。さればと云ふて必ず惡い人間が其所に澤山集つて居ると云ふ譯ではないが、世の中に相當の地位を得ないとか又は業務に失敗したのを取りかへさうとか、生活に困るから止むを得ず這入るので、今日相場に手を出して居る者は、昔のやうに無學の者や又全く赤毛布の田舍者では無いのである。彼の間に立つて夢中になつて立働いて居る者は如何なる人間であるかと云ふと、以前は却々立派であつた人もある。立派と云ふのは其の人格上の立派と云ふ意味ではない、受けた所の學問教育が立派であると云ふことである。自分の知つた者にも宗教家として牧師として働いて居つた者が、そこに這入つて現在呑屋と云ふやうな事をして居る者がある。又自

投機と墮落

教育ある相場師

分の知つたもので相當なる宗教學校を出て中等教育に從事して居つた者で、今日矢張り兜町に這入つてぶら〳〵して居る者がある、又學士の肩書を以て居るものもある。是等の人がどうしてさう爲つたかと云ふ事を尋ねて見ると、詰り金がいるからなつたと斯う答へるのである。夫は彼等が社會に於て必ず自ら立てなくなるだけの何等かが是非なく左樣にしたのであらうと思ふが人の裏面は茲に語る必要はない。兎に角食へなくなつたから斯うなつたとか、結局此方が安樂であるとか云ふことは既に其の人間がどの位まで墮落したかと云ふことが想ひ遣られるのである。今日彼等の中には相當の教育があり、さうして田舎のぽつと出の青年や若くは未だ東京の如何を知らない所の田舎の生半可者などを、如才なく釣りこんで上前を取つたり又は自ら賣買して居るのである。地方から出た人が彼等の手には決して籠絡されない抔と云ふても夫は到底及ばないことで、彼等は是迄各種の社會を見て來て居るので、海に千年山に千年の者である。而して相當の教育を有して居るのであるから其の奸智策略

惡習の感染

相場に手を出す勿れ

等に於て田舍漢等は、如何にも尤もである親切である、成程相場は好いものであると云ふやうに說得されて仕舞つて、其の儘ぶら〳〵して居る間に、總ての惡習慣と云ふものが乘り移つて來て、遂には再び正業に從事することが出來ないと云ふやうなことに陷るのである。

夫で此の章に於て相場に手を出す心得と云ふ題目を揭げては居るものゝ、結局する所は決して之れに近寄るべからずと云ふ一言を以てするの外はないのである。成程相場社會に這入つたならば、自分も亦其の趣味を感ずるであらうけれども、一旦這入つたが最後もう浮む瀨はないのである、虎兒を獲んと欲して虎穴に入つて遂に其の虎穴を出づる能はずと云ふことが、此の社會の眞相を穿つたものと云はなければならぬのであらうと思ふ。

第十七章　成功の祕訣

成功の意義

昔より今日に至る迄、聖人賢人の敎と云ひ宗敎家の敎と云ひ、夫等の敎と云ふものは一つとして皆我々を成功せしむる爲めでないものはない。夫で成功と云ふことは必ずしも富を得ると云ふ事にのみ用ひる語でない。學問にもせよ又は人間としての精神修養にもせよ、何事業でも豫め定めた目的を達すれば卽ち成功と云ひ得るのである。尤も人は隴を得て蜀を望むと云ふ位で、其の最高目的と云ふものに向つては限りのないものであるけれども、先づ一段落の目的を立て、其の一段落の目的を達すれば其所に於て之れを成功したものと云はなければならぬ。夫故成功の祕訣と云ふものは今更ら事々しく言ふ所はないので、古より今日に至る迄何人にも繰返されて居る所のもので、決して珍らしい敎のあるべき筈がないのである。併しながらそれを思はずして今日の青年は勤もすれば如何

富と成功

にせば成功するか、成功の祕訣は何であらうかと云ふことを求めんとしてあせつて居るのである。又世の識者も之れに向つて成功の祕訣は斯の如きものである、成功の祕訣は實に玆に在ると云ふて敎を示して居る。併し彼等青年の望む所の成功も、亦之れを敎ふる所の成功も、どうもそれは成功の一部分にしか過ぎないのである。卽ち單に富を得る場合のみに成功の言葉を用ひて居るのである。夫を見ても如何に今日世間の人が富に戀々として居るかと云ふことを知る事が出來るのである。既に富に戀々として居ると云ふ以上には、富を得ることの非常に困難であると云ふことを其所に認めなければならぬのである。既に富を得ることが困難であると云ふことを認めたならば、其所に世の生存競爭が如何に盛であらうかと云ふことを認めなければならぬのである。生存競爭が盛であると云ふ以上には、必ず一つの仕事に向つて手を出す者の多いと云ふことを思はなければならぬ。一つの仕事に向つて手を出す者の多いと云ふことは、畢竟人口が益〻增殖されて來て、互に其の生活の途を爭ふて居る

と云ふことを思はれるのである。成功なるものは何も富を得るが爲めの途を講ずるものゝみではないので、豫め定めた所の目的を達したのを成功と云ふならば、子として親に孝行であつたならば親の方から言ふても自分の育て方に於て成功したと云ふて宜しいのである。夫から又子の方から言ふても自己の修養の結果とすれば卽ち夫も成功と云はなければならぬのである。併し東京學に於て說く所の成功なるものは、前申す通りに、斯くも生存競爭が盛である其の間に立つて己れが滿足なる衣食を爲さんとする上の成功を主として說くのである。卽ち事業の方面の事、卽ち富を作る方面に於ての成功を意味すると云ふて宜しいのである。夫で此の事業の方面に對しての成功の秘訣、富を得る所の秘訣と申しまして も、其の成功の秘訣と云ふ根本の敎と云ふものは、古より聖人君子が說き來つた所の人間の道と少しも異なる所は無いのである。所謂道德の敎に從つて自分の盡す所を盡してさへ行けば、其所に成功と云ふことは期せずして得られるのである。誠に成功を得るの仕方と云ふものは平々凡

本書に於ける成功の意義

聖賢の敎訓は總て成功の秘訣なり

凡たるものである。然るに其の成功が非常に困難なる所以のものは、一方に生存競爭の盛なる點もあらうけれども、亦個人として誠に聖人の敎へたる所の人道を正しく守り得ないから、成功することが出來ないと斯くも言ひ得るのである。其の守り得ないと云ふことは、個々世の中に處する場合と云ふものが千變萬化であつて、其の場合に應じて正しく敎へられた所の道を履んで行くだけの、知識判斷及び意志が乏しいものと言ふても宜しいのである。卽ち古より正直にせよ、忍耐せよ、勤勉せよ、節約せよと云ふことは、眞に分かり切つたことであるのである、其の分かり切つたことであつて、さうして斯く敎へれば誰れもそんな事は今日別に言はんでも分かり切つたことであると云ふて顧みないのである。だが夫れを適用し運用して萬般の行爲に充當して行くと云ふことは、少しも分かつて居ないのである。抽象的に正直とか忍耐とか勤勉とか節約とかの意味は分かつて居るのであるけれども、個々百般の行爲に充當して行くと云ふことになると、誰れも薩張り實行して居らぬのである。其の

一つでも實行して居るものは、多少の批難があつても必ず一種の成功と云ふものは爲し遂ぐるものであるが、夫れが分かつて居らんので幾多の人は唯成功と云ふ山の頂を望んでおせるのみで、之れに近づく事すらも出來ないと云ふことは、情ないことであると云はなければならぬのである。即ち各種の出來事に出會つて、如何にして宜いかと云ふことが分らない。夫故に其の境遇に就いて、一々之れに敎へるより外は致方がないのである。夫を敎へんとして人が成功の祕訣と云ひ、或は立身の手引と云ふて書いたり言つたりして居る、人も亦爭ふて之れを求めて如何にすれば成功するかと願望するのである。夫を敎ふる一つとしては、此の東京學は眞に結構なるものであると云はなければならないのである。否寧ろ此の東京學全體が成功の道案内者である。此の成功の祕訣であるのである。夫であるから敢て此の章に於て特に成功の祕訣と稱する必要は無いやうなものである。

東京學は東京に於ける成功の案内者也

併し乍ら總て各場合に於て說いたる事は又之れを總括しなければ、人は

遂に統一的の考へを持つ事は出來ない、夫で此の章に於ては總括的に言ふのである。各種の場合に於ては、夫々世に處すべきことを說き來つたのであつて、茲には特に部分に就て言ふの必要は無いと思ふ。丁度此の成功の祕訣の總括とも言ふて適當であらうと思ふことは、既に世の成功者と云はれて居る所の、安田善次郎氏が自分の家の子弟及び青年使用人に示したる所の訓誨が最も適當であると思ふ。夫故に茲には敢て自分の持說を長々しく述べる必要は無からうと思ふから、夫を茲に述べる事にしやう。安田善次郎氏が如何にして一代に成功したかと云ふことは既に世人が知つて居る所である。同氏は自分の家の銀行員或は其の他の雇人に對しては誠に親切である、其の上に常に敎訓指導の方法を怠らないのである。同氏が平素雇人に敎へて言ふには、人の成功と云ふものは坦々たる大道を行くやうなものである、畢竟各自が其の本分を守つて、眞つ直ぐに進んで行けば成功の岸に達することが出來るのである、即ち職務は熱心に盡し、主人の爲めには忠實に働き、自分の身分に應じ秩序を履

安田氏の成功の祕訣

むと云ふことを忘れてはならないと、斯樣に言はれてある。尙銀行員等に對しては、常に勤儉貯蓄の美德と云ふことを說いて、夫を擧々服膺して一日も怠ることの無いやうにさせて居るのである。夫で同家の店員の座右の銘である所の、此の勤儉貯蓄と題する所の一冊の本は、實に安田善次郎氏の熱心を込めて述べたものである。此の本にはどう云ふ風に言ふてあるかと云ふに、勤儉貯蓄と云へば唯儉約をして金を溜めると云ふやうに解する者もあるけれども、決してさう云ふ意味ではない、勤儉と云ふことは勤勉にして節儉を守ると云ふ意味であつて、言ひ換へて見れば、業務を勉勵し冗費を節すると云ふ意味である。卽ち勤と云ふことは積極的の言葉であつて進んで取ると云ふことを意味して居る、儉と云ふは消極的の言葉であつて退いて守ると云ふ意味を有して居るのである。夫故に兩者相竢つて始めて其の效が顯れるのである、夫で自分は諸子に敎へんとするのは卽ち勤なると共に儉なれ、儉なると共に勤なれと云ふのである、と書いてある。其の次には又斯う云ふ事が書いてある、夫れ

成功と意志の强固

易きを好み難きを避くるは人の常情なり、勤儉は美德なりと雖も其の實行に至りては頗る至難の業に屬す、茲に於てか意志の强固卽ち克己心を有するを最も肝要とす。余は日常目擊する所に依り、意志薄弱の徒が常に失敗の悲境に陷るの例證を擧げ、克己心の必要なるを反證せん。

第一意志の弱き人は、何事にも氣の移り易く、衣服調度の如き時々の流行を追ひ外見を飾るを以て能事とする、斯る情慾の奴隸となる人は、豫算外の支出も嵩み遂には祖先傳來の家產をも減ずるに至るものである、況や貯蓄をや。

第二に意志の弱き人は、友人知己の爲めに保證人等となり不測の禍を買ふことあり、斯の如く一時の人情に驅られて自己の利害を顧みざる人は、勤儉貯蓄を實行すること能はず。

第三に意志の弱き人は、取引上始終人の後に落ちて所謂引けを取るものである、斯の如き人は情實に拘泥して遂に損害を釀す。

第四に意志の弱き人は、困難なる事柄又は紛糾錯雜せる事件に遭遇すれ